

大 岱 遺 跡

－風力発電所に伴う送電線支持物（鉄塔）建設事業に係る発掘調査報告書－

2012・12

上ノ国町教育委員会

序

本書は、町内字勝山地区における風力発電所に伴う送電線支持物（鉄塔）建設事業に伴う大岱遺跡の発掘調査報告書であります。

事業が計画されるとともに北海道教育委員会の指導のもと試掘調査を実施し、その結果に基づき協議が行われ、本調査を実施するに至りました。

調査の結果、縄文時代早期（後半）、中期後半～後期初頭の縄文土器が確認され、貴重な資料を得ることができました。

事業推進にあたり北海道教育委員会をはじめとする各関係機関の多くの方々に多大なご協力を賜りましたことを衷心より感謝申し上げるところであり、今後におきましてもより一層のご教導をお願い申し上げます。

平成24年12月

北海道上ノ国町教育委員会

教育長 金子廣

本文目次

序

本文目次／挿図目次／表目次／写真目次

例言／引用参考文献

I 大岱遺跡の調査	1
1. 遺跡の位置	1
2. 周辺の遺跡	1
3. 過年度における遺跡の概要	1
4. 調査方法	1
5. 調査経過	2
6. 基本層序	2
II 検出遺構	6
1. 遺構の概要	6
III 遺構外出土遺物	20
IV 自然科学分析	35
1. 大岱遺跡出土黒曜石製石器の産地推定	35
2. 大岱遺跡から出土した動物遺体	39
Vまとめ	41

挿図目次

第1図 遺跡位置図	3
第2図 調査区位置図	3
第3図 試掘調査 (TP1~4) 箇所及び出土遺物・グリッド配置図	4
第4図 敵状遺構平面図	5
第5図 遺構配置図・土層堆積図	9
第6図 調査区土層堆積図	11
第7図 土器集中箇所位置図	13
第8図 壁穴建物跡1 出土遺物	15
第9図 壁穴建物跡1・2 出土遺物	16
第10図 壁穴建物跡3~7 出土遺物	17
第11図 壁穴建物跡8 出土遺物	18
第12図 壁穴建物跡9・土壙3 出土遺物	19
第13図 IVa層 出土遺物1	20
第14図 IVa層 出土遺物2	21
第15図 IVb層 出土遺物1	22
第16図 IVb層 出土遺物2	23
第17図 IVc層 出土遺物	24

表目次

表1 東西ベルト土層観察表(A~A')	9
表2 南北ベルト土層観察表(B~B')	9

表3 壁穴建物跡1・3 土層観察表(C~C')	12
表4 壁穴建物跡2 土層観察表(D~D')	12
表5 壁穴建物跡3・4 土層観察表(E~E')	12
表6 壁穴建物跡5 土層観察表(F~F')	12
表7 壁穴建物跡2・7 土層観察表(G~G')	12
表8 壁穴建物跡2・8 土層観察表(H~H')	12
表9 壁穴建物跡8・土壙3 土層観察表(I~I')	12
表10 壁穴建物跡1・土壙1 土層観察表(J~J')	12
表11 土壙2 土層観察表(K~K')	12
表12 出土遺物観察表	27
表13 遺構出土遺物集計表 (縄文土器)	29
表14 遺構出土遺物集計表 (縄文土器以外)	30
表15 IV層出土遺物集計表 (縄文土器)	31
表16 遺構外 (IV層除く) 出土遺物集計表 (縄文土器)	32
表17 遺構外 (IV層除く) 出土遺物集計表 (縄文土器以外)	33

写真図版

PL1 調査写真	
PL2 調査写真	
PL3 調査写真	
PL4 分析黒曜石写真	
PL5 分析動物遺体写真	
PL6 調査写真	
PL7 調査写真	
PL8 調査写真	
PL9 調査写真	
PL10 調査写真	
PL11 調査写真	
PL12 調査写真	
PL13 出土遺物 (縄文土器・石器 壁穴建物跡1)	
PL14 出土遺物 (縄文土器・石器 壁穴建物跡1-1~8、2-9~13)	
PL15 出土遺物 (縄文土器・石器 壁穴建物跡3-1~2、4-3~8、5-9・10)	
PL16 出土遺物 (縄文土器・石器 壁穴建物跡6-1、7-2・3、8-4~17)	
PL17 出土遺物 (縄文土器 壁穴建物跡9-1~3、土壙3-4~6、試掘調査-7~11)	
PL18 出土遺物 (縄文土器 IVa層)	
PL19 出土遺物 (縄文土器 IVa層)	
PL20 出土遺物 (縄文土器 IVb層)	
PL21 出土遺物 (縄文土器 IVb層)	
PL22 出土遺物 (縄文土器 IVc層)	

例　　言

1. 本書は、平成24年度に実施した風力発電所に伴う送電線支持物（鉄塔）の建設に係る大岱遺跡（C-02-54）の発掘調査をまとめたものである。

2. 発掘調査の体制は次のとおりである。

調査主体者 上ノ国町教育委員会

　　教育長 金子 廣

上ノ国町教育委員会事務局

　　局長 矢代 智樹

文化財グループ

　　主幹 上野 敦也

　　主査 渕田俊一郎

　　学芸員 塚田 直哉（担当者・調査員）

　　作業員 井越 祥子、勝田 百香

　　川口 泰子、鈴木 千春

　　長尾江梨子、藤谷 弘美

　　鷲田 晃子

3. 本書の編集・執筆は塚田が行ない、遺構・遺物の実測図及び図版等の作成については各作業員が分担して行なった。

4. 本書に掲載した写真的撮影は、塚田が行なった。写真的撮影は、デジタル一眼レフカメラを使用した。

5. 挿図の縮尺は、各図にスケールを付して示した。写真的縮尺は不統一である。

6. 遺物の点数については、接合前の点数を表す。

7. 土層の色調観察には、「新版標準土色帳」（農林水産技術会議事務局 1993）を使用した。

8. 土器・陶磁器の分類は、以下に基づいて行なった。

・縄文土器—北海道埋蔵文化財センターの『森町三次郎川右岸遺跡』第233集（北海道埋蔵文化財センター 2006）を参考にし、加筆している。分類は以下のとおりである。

I群 縄文時代早期に属する土器群

a類 貝殻文が施されるもの

b類 縄文、撫糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付文等の施されるもの

II群 縄文時代前期に属する土器群

a類 縄文の施された丸底、尖底を特色とするもの

b類 円筒下層式土器に相当するもの

III群 縄文時代中期に属する土器群

a類 円筒上層式土器に相当、もしくはその系統を引くと考えられるサイベ沢VII式、見晴町式に相当ないし平行するもの識別の際III群 b -1類の胴部破片も一部含む可能性がある

b類 III群 a類を中期の前半として後半に属するもので楓林以降の土器群である

b - 1類 楓林式のうち見晴町式直後のもの、その一部は見晴町式と並行する可能性がある

b - 2類 楓林式のうち大安在B式に近い時期のものと、大安在B式に相当または並行するもの

b - 3類 ノダップ式、煉瓦台式に相当または並行するもの

IV群 縄文時代後期に属する土器群

a類 天祐寺式、涌元式、鳥崎式、大津式、白坂3式、十腰内I式に相当ないしは並行するもの

b類 ウサクマイC式、手稻式、鰐間式、加曾利B式ないし並行するもの

c類 堂林式、三ツ谷式、湯の里3式に相当ないしは並行するもの

V群 縄文時代晩期に属する土器群

a類 大洞B式、大洞C式に相当ないしは並行するもの

b類 大洞C 1式、大洞C 2式に相当ないしは並行するもの

c類 大洞A式、大洞A'に相当ないしは並行するもの

VI群 繰縄文時代に属する土器群

VII群 擦文時代に属する土器群

・肥前系陶磁器—九州近世陶磁研究会の『九州陶磁の編年』（九州近世陶磁学会 2000）

・出土錢貨—兵庫埋納錢調査会の『近世の出土錢 II—分類図版篇—』（兵庫埋蔵錢調査会 1998）

9. 出土遺物、調査写真・図面等は、上ノ国町教育委員会で管理・保管している。

10. 調査ならびに本書の作成にあたり、次の関

係機関と各位からご指導、ご助言を頂戴した。記して感謝申し上げたい（敬称略）。

北海道教育庁文化財・博物館課 高橋和樹
 田才雅彦 八戸市博物館 工藤竹久 二戸市埋蔵文化財センター 関 豊 市立函館博物館 野村祐一 七飯町教育委員会 山田 央
 森町教育委員会 高橋 翼

11. 引用参考文献

阿部千春 2004「大船遺跡出土の大安在B式土器」『第2回 東北・北海道の縄文時代中期後葉の諸問題－資料集－』海峡土器編年研究会

大沼忠春 1981「北海道中央部における縄文時代中期から後期初頭の編年について」『考古学雑誌』第66巻 第4号 日本考古学会

大場利夫 1978「北海道」『新版考古学講座』第3巻 雄山閣

葛西智義 1991「縄文時代中期末葉から後期前葉の土器について」『文教台考古』第6号 札幌学院大学考古学研究室

川内 基 1988「北海道の大木系土器」『ひばり』No.10 北海道文化財研究所

上ノ国村教育委員会・江差町教育委員会 1955『檜山南部の遺跡』

上ノ国町教育委員会 1979『小砂子遺跡』

上ノ国町教育委員会 1987『大岱沢A遺跡』

桑原 譲 1968「余市式土器」『考古学雑誌』54巻1号 日本考古学会

(財) 北海道埋蔵文化財センター 1984『登別市千歳5遺跡』第21集

(財) 北海道埋蔵文化財センター 1985『上ノ国町小岱遺跡』第30集

(財) 北海道埋蔵文化財センター 2006「I. 4(5)土器の分類」『森町三次郎川右岸遺跡』第233集

鈴木克彦 1976「東北地方北部における大木系土器文化の編年的考察」『北奥古代文化』第8号 北奥古代文化研究会

鈴木克彦 1998「東北地方北部の縄文中期後半の土器」『研究紀要』第3号 青森県埋蔵文化財センター

鈴木克彦 1999「北海道渡島・桧山地域の中期末から後期初頭の編年」『北海道考古学』

第35輯 北海道考古学会

高橋正勝 1974「知内町涌元出土の土器と北海道南西部の縄文時代後期前半について」『北海道の文化』31 北海道文化財保護協会

高橋正勝 1983「北海道南部の土器」『縄文文化の研究』第4巻

高橋正勝 1966「函館市見晴町遺跡の資料」『北海道青年人類科学研究会会誌』No.8

高橋正勝 1972「北海道における縄文時代中期の終末（1）」『北海道青年人類科学研究会会誌』No.9

高橋正勝 1972「北海道における縄文時代中期の終末（2）」『北海道青年人類科学研究会会誌』No.10

角田文衛 1939「陸奥榎林遺跡の研究」『考古学論叢』第10輯 考古学研究会

永井久美男 1998『近世の出土銭II一分類図版篇－』兵庫埋蔵銭調査会

成田滋彦 2003「最花式土器－在地式土器群の様相－」『研究紀要』第8号 青森県埋蔵文化財センター

函館市教育委員会 1979『見晴町B遺跡発掘調査報告書』

函館市教育委員会 1997『湯川貝塚』

北海道第四紀研究会 1974『西股』

松前町郷土資料館 1984『松前町郷土資料館調査報告』第1集

松前町教育委員会 1988『寺町貝塚』

松崎岩穂 1956『上ノ国村史』 上ノ国村

松崎岩穂 1962『続上ノ国村史』 上ノ国村

柳澤清一 1991「榎林式」から「最花式」（中の平Ⅲ式）～『古代』91号 早稲田大学考古学会

柳澤清一 1993「北奥「大木10式並行土器」の編年」『二十一世紀への考古学』櫻井清彦先生古希記念会

宮 宏明 1981「ノダップⅡ式土器の検討」『考古学研究』第28巻第3号（通巻111号）考古学研究会

山田 央 2001「北海道南西部における縄文時代中期末葉の土器について」『渡島半島の考古学』南北海道考古学情報交換会

I 大岱遺跡の調査

1. 遺跡の位置

上ノ国町は、渡島半島西南部の檜山管内の最南端に位置する。西には日本海より奥尻島、渡島大島を望み、北は江差町、南は松前町に接する。また、東は袴腰岳（699m）、七ヶ岳（957m）、大千軒岳（1,027m）など渡島山地の高峰を分水嶺にして津軽海峡側の木古内、知内町に接する。町の中央部は海拔500m程の渡島山地の山々によって占められその裾野に続く丘陵は海岸近くまでせり出している。

本町は、檜山管内で最大の面積（547.58 k m²）を有するが、前述したような地勢から平野部は全面積の1割にも満たない。このため、諸集落は海岸線と河川流域の僅かな平野部に点在している。町の北部には山間部を開析して西北に流れる天の川がある。天の川下流の右岸には幅約2kmの沖積平野が広がり、稔り豊かな水田地帯を形成している。他方、天の川下流の左岸は大平山（363m）裾野から夷王山に続く丘陵がせまっている。

本遺跡は、日本海に注ぐ天の川河口より約1.1 km南東の左岸に位置する。遺跡は、標高10～25 mの北側に傾斜する緩斜面に所在し、調査地点は標高13.5 m～14.7 mにあたる。調査地点からは、江差からせたな町に続く海岸線が一望できる。一方、南側は急斜面をなして崖に続いている。

遺跡名である大岱は、遺跡が所在する台地の南西側標高25m～50mの地点の旧地名で、大岱の名が確認されるため、それに由来すると思われる。

発掘調査は、上ノ国町字勝山413-3番地の天の川河口左岸に所在する高齢者事業団裏手にあたる標高約14mの丘陵上に12m×12m（144 m²）の調査区を設定して実施した。

2. 周辺の遺跡（図1）

大岱遺跡が所在する天の川河口周辺には、国指定史跡の上之国館跡（花沢館跡 洲崎館跡 勝山館跡）と周知の埋蔵文化財包蔵地が合計31箇所確認され、町内でも遺跡の分布が濃い地域であることが知られている。

本遺跡の西側に所在する沢は、遺跡の南西より流れ天の川に至る。この沢沿いの台地には小岱遺跡、大岱沢A遺跡、大岱沢B遺跡が所在する。ま

た、本遺跡の南東側には、おそらく本遺跡と一連するものと思われる大岱B遺跡が所在する。大岱B遺跡は縄文時代中期後半から後期の遺物包含地で、昭和57・58年に大岱遺跡とともに範囲確認調査が行われている。

また、小岱遺跡では農道整備事業に伴って昭和60年に緊急調査が行われている。

同遺跡の発掘調査の結果からは、縄文時代中期後葉の見晴町式・森越式土器を主体として縄文中期前葉から晩期前葉にわたる遺物が出土し、縄文時代中期前葉から後期前葉の住居址16基、プラスコ状ピット等が検出している。さらに、小岱遺跡の約500m南西には大岱沢B遺跡が所在する。

大岱沢B遺跡は、昭和61年に確認されたが、範囲確認調査で先史時代の遺物と共に近世の「寛永通宝」などの銅銭、鉄銭が出土している。

3. 過年度における遺跡の概要

大岱遺跡では、昭和28年に地元住民によって縄文時代の礫石器が表面採集されている。

その後、昭和47年に上ノ国町老人福祉センター建設に伴う緊急調査が行われ、縄文時代の前期前半・中期前半・中期終末～後期初頭・晩期の遺構・遺物が確認されている。

昭和58年4月に町内建設会社から農地造成のための事前協議書が提出され、上ノ国町教育委員会が同年4月7・8日に遺跡範囲確認調査（B調査）を実施し、縄文時代の中期末～後期初頭の遺物が確認され、北海道教育委員会より工事に際して発掘調査が必要であるとの回答を得ている（昭和58年6月13日付、教文第3131号）。

しかしながら、同年5月3日に上ノ国町教育委員会に連絡もなく、さらに発掘調査を事前に実施しないまま農地造成工事が行われ、5月8日に工事の中止をしたもの遺跡の一部が破壊されている。

4. 調査方法

調査では4m×4mのグリッドを設定し、南北方向に北から南へA、B、C、東西方向に西から東へ1、2、3とし、A1、B1、C1…としている。

掘削方法は、すべて人力で行って調査区中央に十字のセクションベルトを設定し、土層確認を行いながら調査を遂行している。

遺構の実測は平板で行い、全体の平面図・セクション図について1/20、1/40の縮尺を用いて実施している。遺構番号は、検出された順に遺構の種類別で番号を付した。

遺物は、グリッド・層位別に取り上げを行っている。また、遺物が集中して出土した箇所については1/10の縮尺で実測を行った。

5. 調査経過

平成23年

8月10日 電源開発株式会社より事前協議書を受領する。

8月19日 工事予定箇所の4隅に1m×1mのテストピットを設定し、遺跡範囲確認調査（B調査）を実施した。調査の結果は、縄文時代中期末～後期初頭の縄文時代の土器200点、石器5点が出土している。

9月2日 北海道教育委員会より電源開発株式会社へ工事の事前に記録保存を目的とした発掘調査が必要であるとの回答があったため、次年度に上ノ国町教育委員会が発掘調査を実施する運びとなった。

平成24年

5月7日 器材を搬入し、周辺の環境整備をして調査区の設定を行う。

表土層の掘削を行い、攢乱層から縄文土器・石器が出土している。

5月 II層の検出を行い、Ko-d火山灰を確認した。また、Ko-d火山灰を壊して畝状遺構が確認された。畝状遺構の実測を行う。II層面を掘削したため、調査区内の清掃を行い全体の写真を撮影する。

6月 III層の掘削を行い、遺構・遺物がないことを確認した。また、IV層の検出を行い、上位にB-Tm火山灰を確認した。

7月 IV層を土質の相違からIVa、IVb、IVc層に大別し、層位毎に掘削及び遺物の取上げを行った。IV層掘削の時点から遺物が大量に出土し、毎日バケツを用いて遺物を整理作業場所まで持ち帰っている。

8月 竪穴建物跡2から石組炉が検出される。また、他の竪穴建物跡からも炉跡と考えられる焼土範囲が確認される。

9月 竪穴建物跡が9軒検出される。V層のソフトローム層まで掘削し、遺構検出を行った。

10月 調査区の全体清掃を実施し、完掘写真を撮影した。完掘の平面図及び調査区壁面のセクション図を作成した。調査区の南東部から埋戻しを開始した。

10月11日 調査区の埋戻しが終了し、器材の撤収を行った。

6. 基本層序

本調査で確認された基本層序は、以下の通りであるが、調査区北西部のA1・A2・B1・B2グリッドでは一部、縄文時代遺物包含層であるIV層が削平されていることや攢乱層が厚い箇所で約60cm堆積していることが確認されている。

これは、昭和58年5月3日に町内の建設会社によって実施された大岱遺跡地区に係る農地造成工事の際に生じた削平及び土砂と思われる。

I 層：近現代に相当する堆積層である。

II 層：近世に相当する堆積層である。20～30cmの厚さで堆積し、下部には1640年代降灰のKo-d（駒ヶ岳d）火山灰の層を含む。

III 層：Ko-d火山灰下位～B-Tm火山灰上位に位置し、約20cmの厚さで堆積する擦文時代～近世初頭に相当する堆積である。本調査では、遺構・遺物ともに確認されていない。

IV 層：上面にB-Tm火山灰が堆積し、縄文時代中期後半～後期初頭に相当する堆積層で土質から3層に細分される。

IV a層：10～15cmの厚さで堆積する黒色の腐植土層で、擦文時代に相当する層である。

IV b層：15～35cmの厚さで堆積するIVa層の下位に堆積する黒褐色の腐植土層である。当層位から最も多く遺物が出土している。

IV c層：10～15cmの厚さで堆積するIVb層の下位に堆積する黒色の腐植土層で、縄文時代に相当する層である。

V 層：無遺物層で2層に細分される。

V a層：ソフトローム層である。

V b層：ハードローム層である。

VI 層：無遺物層で礫及び礫粒を多量に含む岩盤層である。



図1 史跡及び遺跡位置図

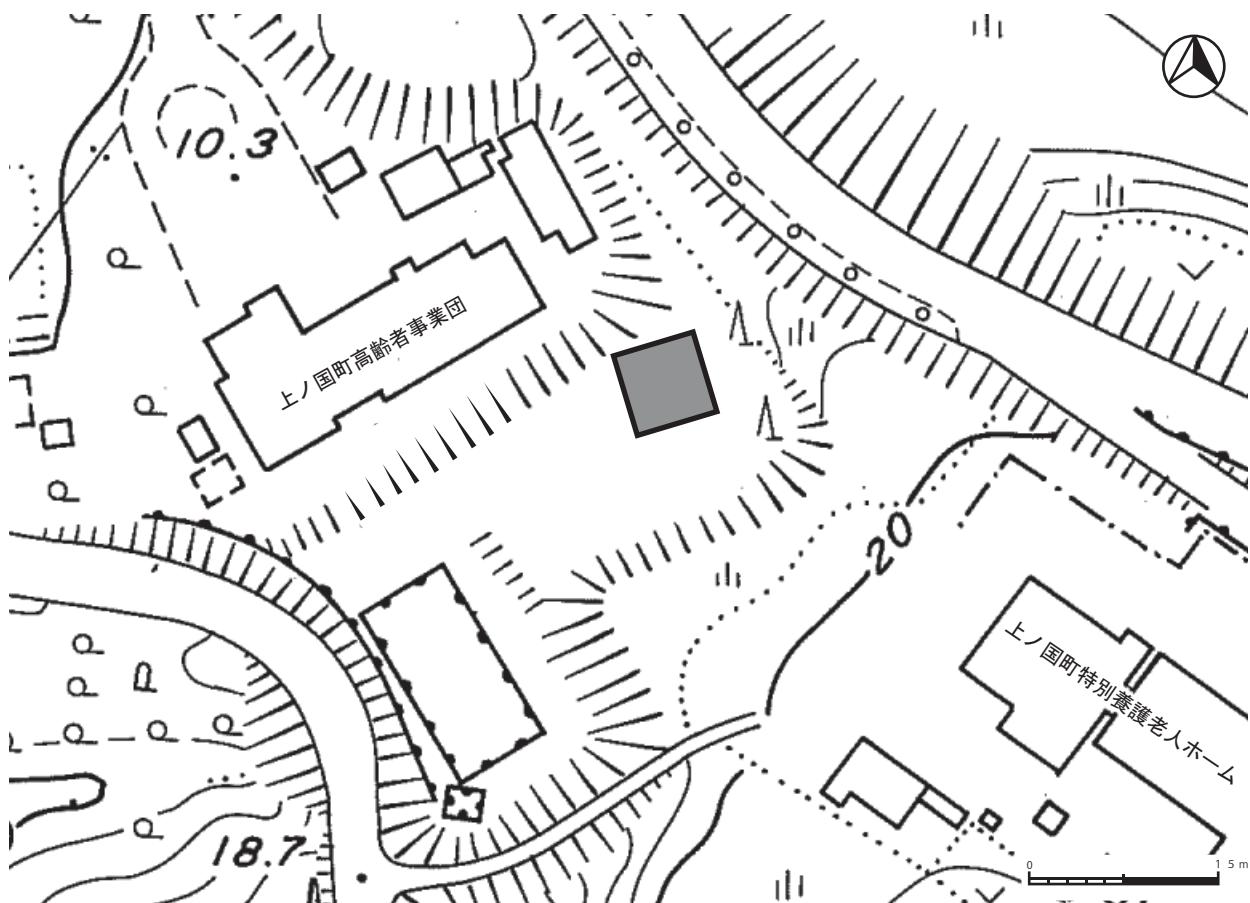
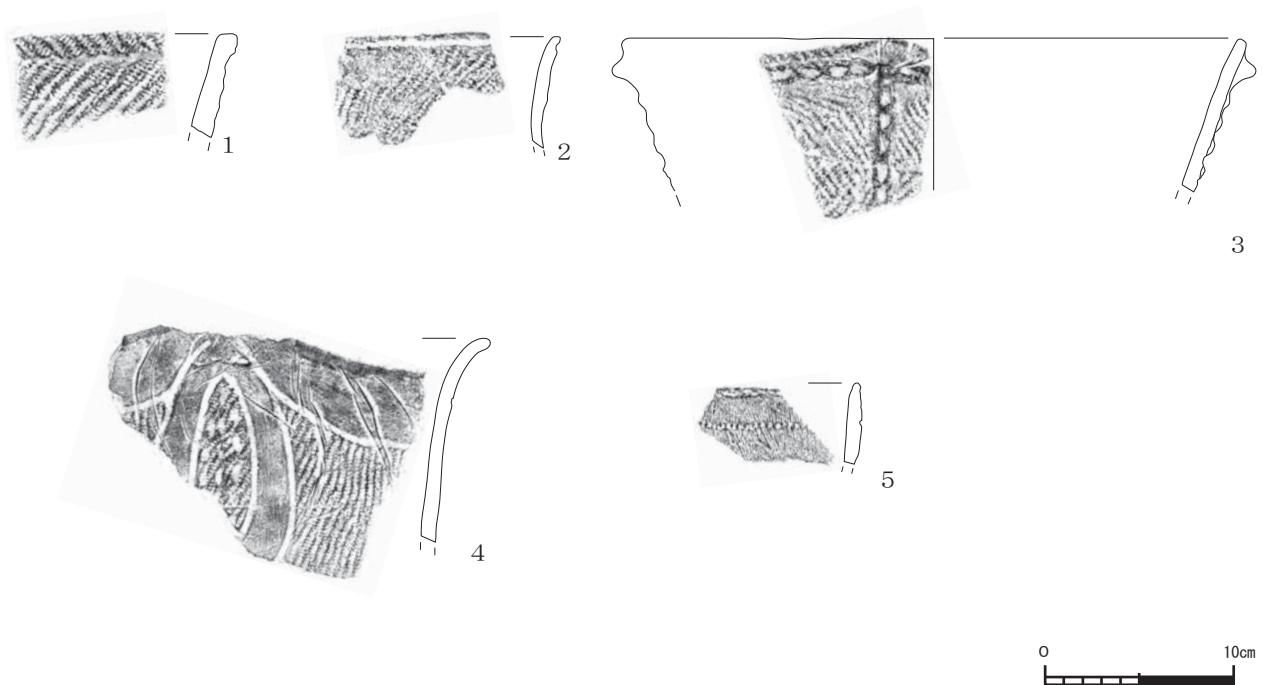
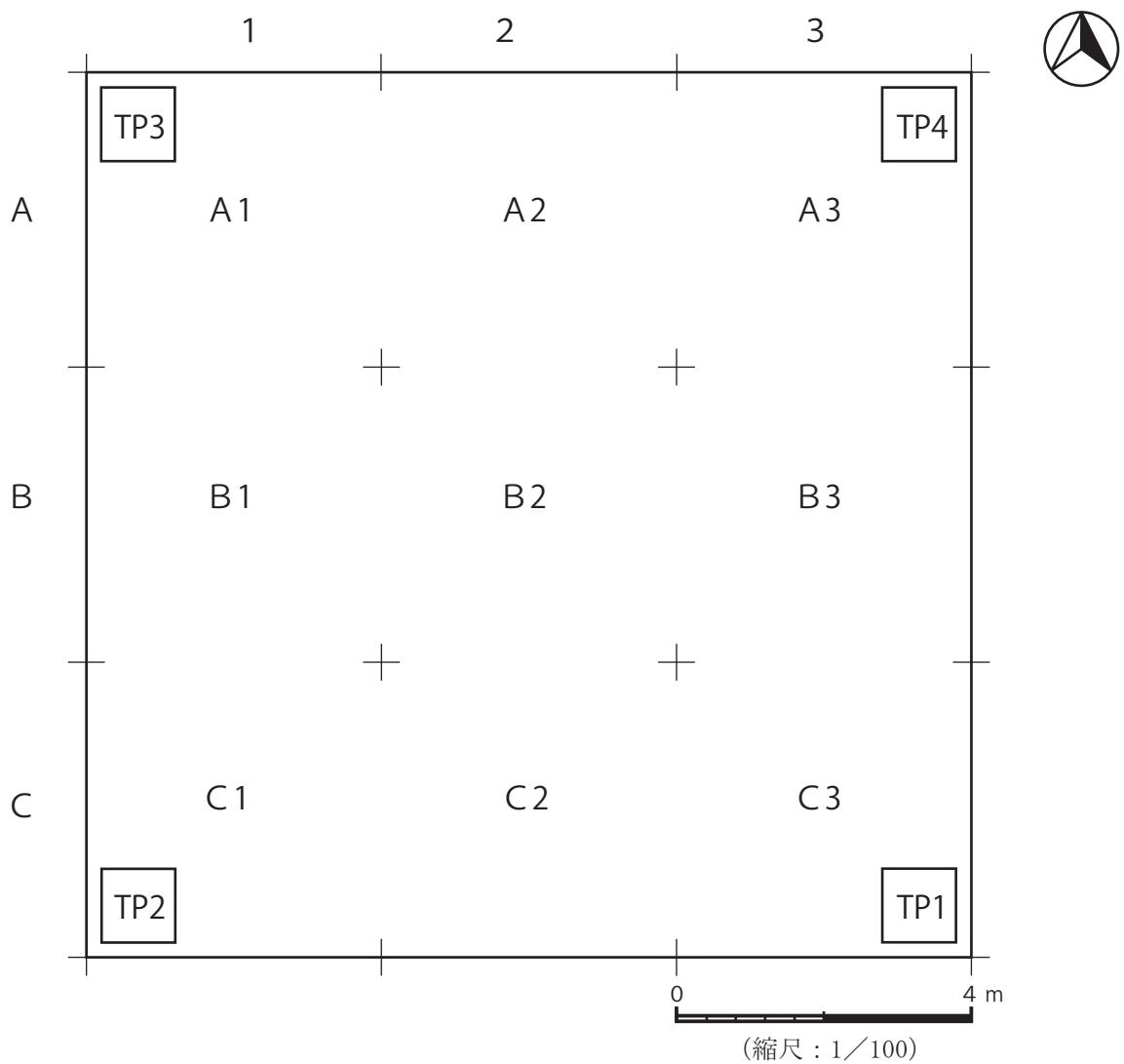


図2 調査区位置図



第3図 試掘調査（TP1～4）箇所及び出土遺物・グリッド配置図

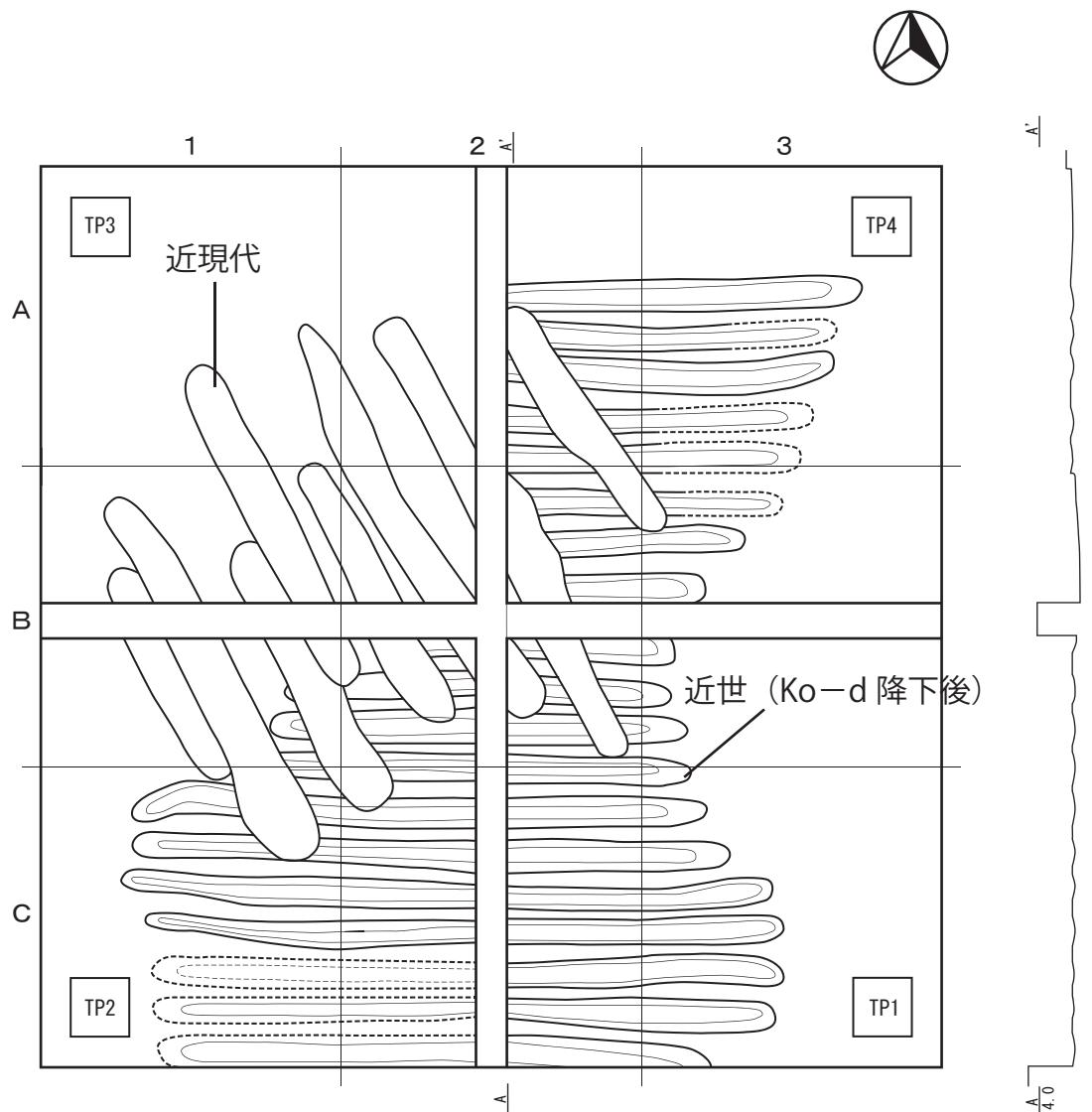


図4 畋状遺構平面図

(縮尺 : 1/100)

II 検出遺構の概要

1. 遺構の概要

本調査では、縄文時代の竪穴建物跡9軒、土壙3基、溝1条、柱穴などの遺構の他、江戸時代の畝状遺構が確認されている。遺構の検出はおもにVa層で行っている。

遺物は、総計42,884点で縄文時代（早期・中期中葉～後期初頭）、江戸時代に相当するものが出土している（表13～17）。1m²あたりの遺物出土点数は、約298点と高い数値を示していた。

遺物の内訳は、縄文時代の遺物が42,562点（縄文土器38,589点・石器3,931点・土製品3点・石製品2点・自然遺物337点）、江戸時代が22点（陶磁器8点、鉄製品8点、銅製品6点）である。

遺構出土の遺物点数（畝状遺構を除く）は、縄文時代の遺物が11,104点（縄文土器9,466点・石器1,479点・土製品1点・石製品1点・自然遺物157点）となり、遺構よりIVa～IVc層の遺物包含層からの出土が多い結果となった。

口縁部計測法による個体数の算出では144.85個体となっている。口縁部計測法は宇野隆夫氏の方法を参考としている（宇野1992）。

縄文土器の分類は、その破片数が38,589点と膨大であったため、口縁部が残存する2,817点について分類の対象としている。

なお、III群b-1～IV群aに相当する土器については、いずれの型式に当てはまるか判断に迷うものが少なくないため、施文の手法によって分類している（分類基準は「III遺構外出土遺物」を参照）。

竪穴建物跡1（5、6、8、9-1～8図、PL3-2、6-1、11-4、13～14-4）

〔位置〕 調査区南東部のC2・C3グリッドに位置する。

〔形態・規模〕 平面形は調査区外へ延びるため詳細は不明であるが、深さ42cmを測る。竪穴南東部上位に盛土と思われる堆積（表3）がセクション面で確認されたが本遺構との関係は不明である。地床炉と思われる幅約150cmの焼土範囲がみられる。貼床は確認されなかった。

〔堆積土〕 盛土は、礫混じりの黄褐色土を多く含

み、竪穴内では黒色土が多く堆積する。

〔新旧関係〕 竪穴建物跡3より新しく、盛土より古い。Pit10～15・71・76～78を伴い、Pit1・80より古い。

〔出土遺物〕 縄文土器、石器、自然遺物、石製品が合計3,052点出土している。遺物の大半は覆土中からのもので床面からの出土は少量である。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

土壙1（5、6図、PL11-3）

〔位置〕 調査区南東のC3グリッドの竪穴建物跡1内に位置する。

〔形態・規模〕 平面形は、直径67cmの円形で深さ47cmを測る。

〔堆積土〕 炭化物・焼土粒などを多く含み、人為堆積を呈する。

〔新旧関係〕 竪穴建物跡1に伴う。

〔出土遺物〕 縄文土器、石器が合計41点出土している。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

竪穴建物跡2（5、6、9-9～13図、PL6-2、10-2・4、11-2・5・6、14-5～9）

〔位置〕 調査区北東部のA2・A3・B2・B3グリッドに位置する。

〔形態・規模〕 平面形は長軸548cm、短軸358cmの橢円形を呈し、確認面から深さ32cmを測る。

プラン中央のやや南西部分に1辺が約60cmの石組炉が構築されている。貼床は確認されなかった。

〔堆積土〕 固くしまった暗褐色などのシルト質を呈し、炭粒を少量含む。

〔新旧関係〕 竪穴建物跡7・8・9より新しい。Pit29～32、113・114・123・124・142を伴い、Pit33より古い。

〔出土遺物〕 縄文土器、石器、自然遺物が合計1,749点出土している。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

竪穴建物跡3（5、6、10-1～2図、PL10-1、11-1、15-1～2）

〔位置〕 調査区南のC1・C2グリッドに位置する。
〔形態・規模〕 平面形の形態・規模は、調査区外延びるため不明であるが、確認面からの深さ49cmを測る。また、調査区外へ延びるため規模は不明であるが、地床炉と思われる焼土範囲が確認されている。貼床は確認されなかった。

〔堆積土〕 褐色・黄褐色の粘土を含み、人為的な堆積を呈する。

〔新旧関係〕 壇穴建物跡4より新しく、壇穴建物跡1より古い。Pit82を伴い、Pit39より新しく、Pit68・75・80より古い。

〔出土遺物〕 繩文土器、石器が合計805点出土している。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

壇穴建物跡4 (5、6、10-3～8図、PL10-1、11-1、15-3～8)

〔位置〕 調査区南のB2・C1・C2グリッドに位置する。
〔形態・規模〕 平面形は長軸323cm、短軸314cm、確認面からの深さ25cmを測る。炉跡と思われる焼土範囲は検出されなかった。貼床は確認されなかった。

〔堆積土〕 炭化物、焼土粒を多く含み、人為堆積を呈する。

〔新旧関係〕 壇穴建物跡6より新しく、壇穴建物跡3・溝1より古い。また、Pit2・18・19・70・74・101・102・103・106より古い。

〔出土遺物〕 繩文土器、石器、自然遺物が合計891点出土している。

壇穴建物跡5 (5、6、10～9・10図、PL10-5、15-9・10)

〔位置〕 調査区南西のC1グリッドに位置する。
〔形態・規模〕 平面形は、278cm、212cmの橢円形を呈し、確認面からの深さ22cmを測る。貼床は確認されなかった。

〔堆積土〕 炭化物、焼土粒を多く含み、人為的な堆積を呈する。

〔新旧関係〕 土壙2と同時期か新しいと思われる。Pit36・89は伴い、Pit34・35・90・91は等間隔で並ぶため本遺構に伴う可能性もある。

〔出土遺物〕 繩文土器、石器、自然遺物が合計886点出土している。石質では、75点の石器のうち42点が黒曜石となっており、その割合が高い。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

土壙2 (5、6図、PL10-6～8)

〔位置〕 調査区南西側のC1グリッドに位置する。

〔形態・規模〕 平面形は長軸150cm、短軸78cm、深さ21cmを測る。調査区北西方向に延びる斜面を埋め立てて、平坦地を造成している。平面規模は調査区外へ延びるため不明であるが、調査区内の最深部で約100cmを測る。

〔堆積土〕 炭化物、焼土粒、被熱を受けた獸骨を多く含み、人為堆積を呈する。

〔新旧関係〕 壇穴建物跡底面にて確認し、壇穴建物跡5に伴うか、もしくは古いと思われる。

〔出土遺物〕 繩文土器、石器、自然遺物が合計166点出土している。自然遺物は、いずれも被熱を受けた陸獸骨の骨片85点である。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

壇穴建物跡6 (5、10-11図、PL7-1、15-1)

〔位置〕 調査区中央やや西のB1・2グリッドに位置する。

〔形態・規模〕 平面形は長軸394cm、短軸273cmの不整橢円形を呈し、深さ45cmを測る。プラン中央やや西側部分で地床炉と思われる不整円形の被熱面が確認された。貼床は確認されなかった。

〔堆積土〕 上面を攪乱によって削平され、黒褐色のシルト質を呈する。

〔新旧関係〕 壇穴建物跡4より古い。Pit44～47・98を伴う。

〔出土遺物〕 繩文土器、石器、自然遺物が合計204点出土している。自然遺物は、大型陸獸と思われる動物骨片を含み、いずれも被熱を受けている。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

壇穴建物跡7 (5、6図、PL10-3、11-2、12-1、15-2・3)

〔位置〕 調査区中央やや東のB2・B3グリッドに位置する。

〔形態・規模〕 平面形は不整円形を呈し、長軸が切り合いのため不明である。短軸は374cm、深さ34cmを測る。炉跡及び貼床は確認されなかった。

〔堆積土〕 黄褐色土等のシルトが多く混じる。

〔新旧関係〕 壇穴建物館跡2より古い。Pit24～28・52・53・67・110・112を伴う。また、Pit20・22・23・54・110は等間隔で本遺構縁辺

にみられるため、伴う可能性が高い。

〔出土遺物〕 繩文土器、石器、自然遺物、土製品、の合計724点が出土している。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

豊穴建物跡8 (5、6、11図、PL12-2～4)

〔位置〕 調査区北のA1・A2・B2グリッドに位置する。
〔形態・規模〕 平面形は長軸を北北西に取り、短軸494cmの隅丸方形を呈し、深さ38～48cmを測る。地床炉と思われる不整円形の焼土範囲を確認し、調査では判別がつかなかったものの新旧関係をもつ2つの焼土範囲の可能性が考えられる。また、焼土範囲より胴部が幅3～5cmのみ埋設された土器が確認された。貼床は確認されなかつた。

〔堆積土〕 黒褐色土が多くみられる。

〔新旧関係〕 豊穴建物館跡2より古い。Pit59～61・64～66・124・127・132・136～140を伴い、Pit62・63・73・116・117・131より古い。

〔出土遺物〕 繩文土器、石器、自然遺物の合計1,997点が出土している。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

豊穴建物跡9 (5、6、12-1～3図、PL12-5)

〔位置〕 調査区北東側のA3グリッドに位置する。
〔形態・規模〕 平面形は調査区外に延びるため不明であるが、確認面からの深さで18cmを測る。地床炉と思われる直径約40cmの焼土範囲が確認された。貼床は確認されなかつた。

〔堆積土〕 暗褐色土を呈し、炭・焼土粒が混入する。
〔新旧関係〕 豊穴建物跡2より古い。Pit118を伴う。
〔出土遺物〕 繩文土器、石器が合計29点出土している。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

土壌3 (5、6、12-4～6図、PL12-6・7・8)

〔位置〕 調査区西側のB1グリッドに位置する。

〔形態・規模〕 平面形は調査区外へ延びるため、詳細が不明であるが、直径約150cmの不整円形を呈し、深さ32cmを測る。また、長軸95cm、短軸42cmの不整楕円形の焼土範囲が確認された。

〔堆積土〕 黒褐色を呈し、炭粒・焼土粒などが混入する。

〔新旧関係〕 Pit48・49・92より古い。

〔出土遺物〕 繩文土器、石器、自然遺物の合計

560点が出土している。石器は、土壌底面付近でフレイクが集中して確認されている。これらは、接合関係を精査できていないが、ほぼ一つの石核になることが想定され、本遺構が石器製作場としての可能性も考えられた。縄文中期中葉～後葉の構築と思われる。

溝1 (5図)

〔位置〕 調査区中央より南東側のB2・C2グリッドに位置する。

〔形態・規模〕 北東方向へ延び、長軸は切り合っているため不明で短軸は89cm、深さ20cmを測る。
〔堆積土〕 暗褐色のシルトを呈し、炭粒を少量含む。

〔新旧関係〕 豊穴建物跡4より新しく、Pit20・110より古い。

〔出土遺物〕 なし

畝状遺構 (4図、PL9-2・3)

〔位置〕 近現代及び近世の畝状遺構が検出されている。近現代の畝状遺構はA1・A2・B1・B2グリッドを中心として分布している。近世の畝状遺構は、ほぼA1・A2グリッドを除いて検出されている。

〔形態・規模〕 近現代の畝状遺構は、北北西に延び、長軸350～530cm、短軸50～60cm、深さ5～10cmを測る。近世の畝状遺構は、東西方向に延び、長軸520～870cm、短軸30～40cm、深さ5～10cmを測る。

〔堆積土〕 近現代の畝状遺構は、ロームブロック・炭化物などが混入している。近世の畝状遺構では、暗褐色のシルト～砂質土がみられ、2次堆積のKo-d火山灰ブロックが混入している。

〔新旧関係〕 近世の畝状遺構は、Ko-d火山灰層(1640年降下)を壊して作られるため、それより新しい。

〔出土遺物〕 近世の畝状遺構からは、縄文土器、石器の合計503点が混入している。

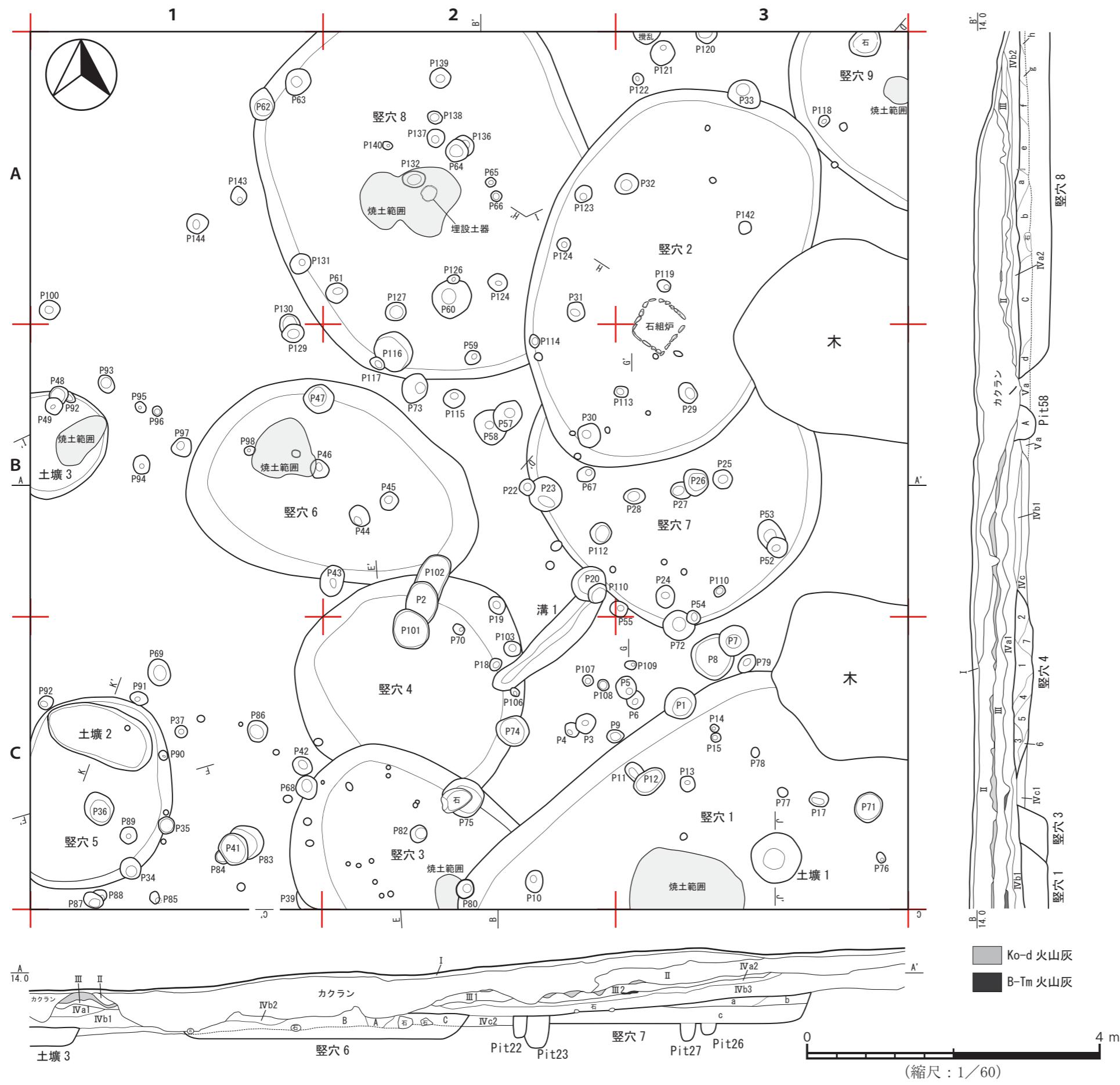


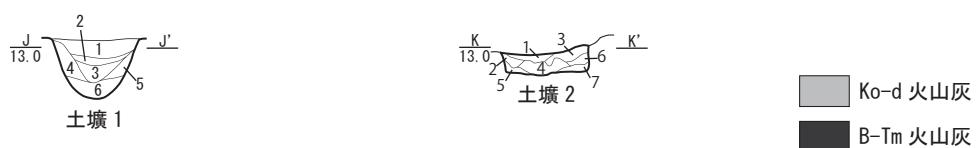
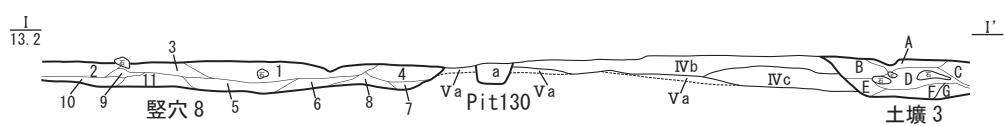
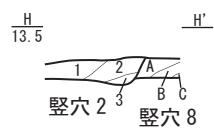
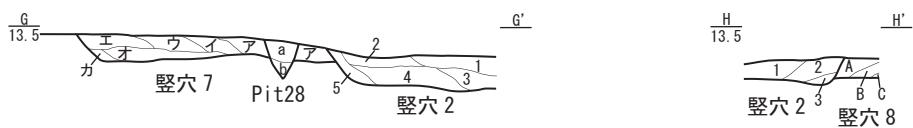
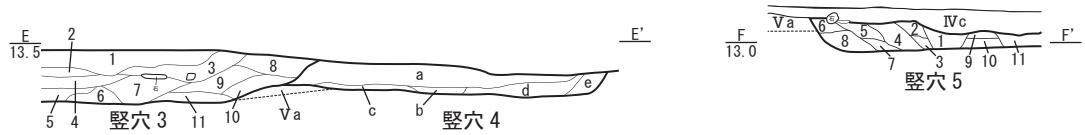
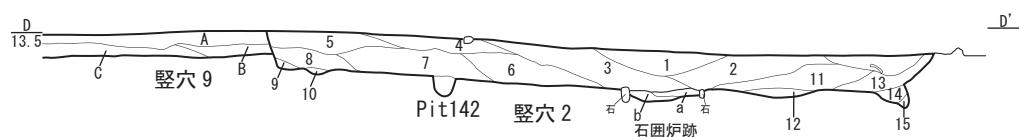
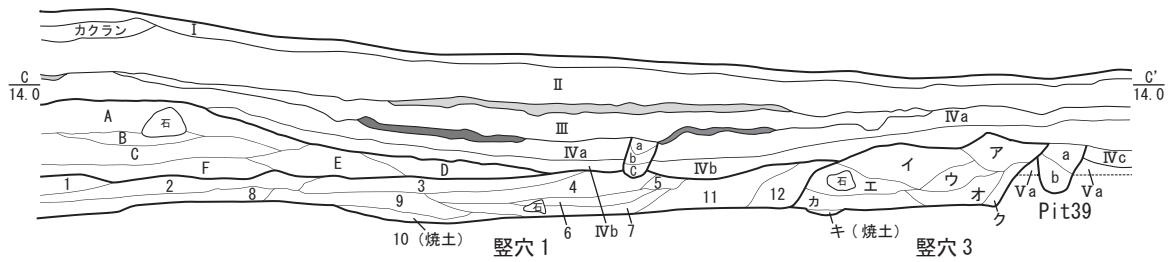
表1 東西ベルト土層観察表 (A~A')

I	10YR3/3	暗褐色	シルト ややソフト		
II	10YR4/2	灰黄褐色	シルト ややハード		
III	10YR2/1	黒色	シルト ややソフト		
III	10YR2/3	黒褐色	シルト ソフト		
III	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ややソフト		
IVa1	10YR3/3	暗褐色	シルト ややソフト	炭粒小5%	
IVa2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ややハード		
IVb1	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒小5%	
IVb2	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒小5%	
IVb3	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード		
IVc1	10YR4/3	黒褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒小5%	
IVc2	10YR3/4	黒褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒小5%	
IVc3	10YR2/3	黒褐色	シルト ややハード		
B	10YR4/2	灰オリーブ色	砂質土 ややハード		
C	10YR4/6	褐色	砂質土 ややハード		
堅穴7	a	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒小5%
堅穴7	b	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒小10%
堅穴7	c	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒小10%

表2 南北ベルト 土層観察表 (B~B')

I	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ややハード	草根30%	
II	10YR4/2	灰黄褐色	シルト ややハード	Ko-d粒小5%	
III	10YR2/1	黒色	シルト ややハード	Ko-d粒小5%	
IVa1	10YR3/2	黒褐色	シルト ややソフト	炭粒小5%	
IVa2	10YR3/2	暗褐色	シルト ややソフト	炭粒小5%	
IVb1	10YR2/2	黒褐色	シルト ややソフト	炭・焼土粒小5%	
IVb2	10YR2/2	黒褐色	シルト ややソフト	炭・焼土粒小5%	
IVc1	10YR3/4	暗褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒5%	
IVc2	10YR3/4	暗褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒5%	
Va	10YR2/2	黄褐色	粘土 ややハード		
1	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒小5%	
2	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒小10%	
3	5YR5/8	明赤褐色	シルト ややソフト	炭粒小5%	
4	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒小10%	
5	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒小10%	
6	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒小5%	
7	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード	ローム塊中5%	
8	10YR4/4	褐色	シルト ハード		
a	10YR3/4	暗褐色	シルト ややソフト	炭・焼土粒小5%	
b	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒小5%	
c	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒小5%	
d	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒小5%	
e	10YR3/2	暗褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒小5%	
f	10YR3/2	暗褐色	シルト ややハード	焼土粒小5%	
g	10YR3/2	暗褐色	シルト ややハード		
h	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ややハード		
Pit1	A	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒小5%

第5図 遺構配置図・土層堆積図



0 4 m
(縮尺 : 1/60)

第6図 土層堆積図

表3 壓穴建物跡1・3 土層観察表 (C~C')

I	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ややソフト	
II	10YR4/2	灰横褐色	シルト ややハード	
III	10YR2/1	黒色	シルト ややソフト	
IVa	10YR3/1	黒褐色	シルト ソフト	
IVb	10YR3/2	黒褐色	シルト ややソフト	炭土粒小5%
IVc	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード	
Va	10YR5/6	褐色	粘土 ややハード	
盛土	A	10YR4/2	灰黄褐色	シルト ややハード 磯粒中10%
	B	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土 ややハード
	C	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード
	D	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード 磯粒小5%
	E	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード
	F	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード 炭粒小5%
堅穴1	1	10YR2/3	黒褐色	シルト ハード 焦土粒小5%
	2	10YR2/3	黒褐色	シルト ハード 炭・焦土粒小5%
	3	10YR3/2	黒褐色	シルト ハード 炭・焦土・粘土粒小5%
	4	10YR3/2	黒褐色	シルト ハード 炭・焦土粒小5%
	5	10YR3/1	黒褐色	シルト ややハード 炭・焦土粒小5%
	6	10YR3/1	黒褐色	シルト ややハード 炭・焦土・粘土粒小5%
	7	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ややハード 炭・焦土・粘土粒小5%
	8	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ハード 炭粒小5%
	9	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ややハード 炭粒小5%
	10	5YR4/6	赤褐色	粘土 ハード
	11	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード 炭・焦土・砾粒小10%
	12	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード 炭・焦土・砾粒小5%
堅穴3	ア	10YR3/3	暗褐色	シルト ハード ローム塊大50%
	イ	10YR3/3	暗褐色	シルト ハード ローム塊大30%
	ウ	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード ローム塊大30%
	エ	10YR4/6	褐色	粘土 ハード
	オ	10YR4/4	褐色	粘土 ハード
	カ	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード 炭粒小5%
Pit39	キ	5YR4/6	赤褐色	粘土 ややハード
	ク	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード
Pit39	a	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード 炭・焦土粒小5%
	b	10YR3/3	黒褐色	シルト ややハード

表4 壓穴建物跡2 土層観察表 (D~D')

堅穴2	1	10YR3/3	暗褐色	シルト ハード 炭粒極小5%
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード 炭粒極小5%
	3	10YR3/3	暗褐色	シルト ハード 炭粒小5%
	4	10YR3/3	暗褐色	シルト ハード 炭粒極小5%
	5	10YR3/2	黒褐色	シルト ハード 炭粒極小5%
	6	10YR3/4	暗褐色	シルト ハード 炭粒極小5%
	7	10YR3/4	暗褐色	シルト ややハード 炭粒極小5%
	8	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード 炭粒極小5%
	9	10YR3/3	暗褐色	シルト ややソフト 炭粒極小5%
	10	10YR3/3	暗褐色	シルト ややソフト 炭粒極小5%
	11	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ややハード 炭・焦土粒小5%
	12	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ややハード 焦土粒小5%
	13	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード 焦土粒小5%
	14	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード
	15	10YR3/2	黒褐色	シルト ややソフト
石囲 炉跡	a	10YR2/2	黒褐色	シルト ややソフト
	b	5YR4/6	赤褐色	シルト ややソフト
堅穴9	A	10YR2/1	黒色	シルト ややソフト
	B	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード
	C	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード 炭・焦土粒小5%
Pit142	IVc3	10YR3/3	暗褐色	シルト ややソフト 炭・焦土粒小6%

表5 壓穴建物跡3・4 土層観察表 (E~E')

堅穴3	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト ややハード 炭粒小5%
	2	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード 炭粒小5%
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ハード 炭粒小5%
	4	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土 ハード 炭粒小5%
	5	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード 炭粒小5%
	6	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘土 ややハード 炭粒小5%
	7	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ハード 炭粒小5%
	8	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト ハード 炭粒小5%
	9	10YR4/4	褐色	粘土 ハード 炭粒小5%
	10	10YR3/3	暗褐色	シルト ややソフト 炭粒小5%
	11	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード 炭粒小5%
	堅穴4	a	10YR3/2	黒褐色
		b	10YR3/2	黒褐色
		c	10YR3/2	黒褐色
		d	10YR3/2	黒褐色
		e	10YR3/2	黒褐色
	Va	10YR5/6	黃褐色	粘土 ややハード

表6 壓穴建物跡5 土層観察表 (F~F')

	IVc	10YR2/2	黒褐色	シルト ハード	炭・焦土粒小5%
堅穴5	Va	10YR5/6	黄褐色	粘土 ややハード	
	1	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード	炭・焦土粒小5%
	2	10YR3/2	黒褐色	シルト ハード	炭・焦土粒小5%
	3	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード	炭・焦土粒小5%
	4	10YR3/2	黒褐色	ハード	炭・焦土粒小5%
	5	10YR2/3	黒褐色	シルト ややハード	炭・焦土粒小5%
	6	10YR2/3	黒褐色	シルト ハード	炭・焦土粒小5%
	7	10YR2/3	黒褐色	シルト ややソフト	炭・焦土粒小5%
	8	10YR2/3	黒褐色	シルト ややハード	炭・焦土粒小5%
	9	10YR3/2	黒褐色	シルト ハード	炭・焦土粒小10%
	10	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード	炭・焦土粒小5%
	11	10YR3/2	黒褐色	シルト ややソフト	炭・焦土粒小5%

表7 壓穴建物跡2・7 土層観察表 (G~G')

堅穴2	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ハード	
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ハード	焼土粒小5%
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ややハード	
	4	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒小5%
	5	10YR2/3	黒褐色	シルト ハード	
堅穴7	ア	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ハード	
	イ	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ややハード	
	ウ	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード	
	エ	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード	焼土粒小5%
	オ	10YR3/4	暗褐色	シルト ややハード	焼土粒小5%
Pit28	カ	10YR3/4	暗褐色	シルト ややハード	炭・焼土粒小5%
	a	10YR2/2	黒褐色	シルト ややハード	
	b	10YR3/2	黒褐色	シルト ハード	
Pit28	Va	10YR4/4	褐色	粘土 ややソフト	

表8 壓穴建物跡2・8 土層観察表 (H~H')

堅穴6	1	10YR2/2	黒褐色	シルト ややハード	草根少量
	2	10YR2/2	黒褐色	シルト ややハード	
	3	10YR2/2	黒褐色	シルト ややハード	草根多量
堅穴8	A	10YR2/2	黒褐色	シルト ややハード	
	B	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード	
	C	10YR3/2	黒褐色	シルト ややソフト	

表9 壓穴建物跡8・土壤3 土層観察表 (I~I')

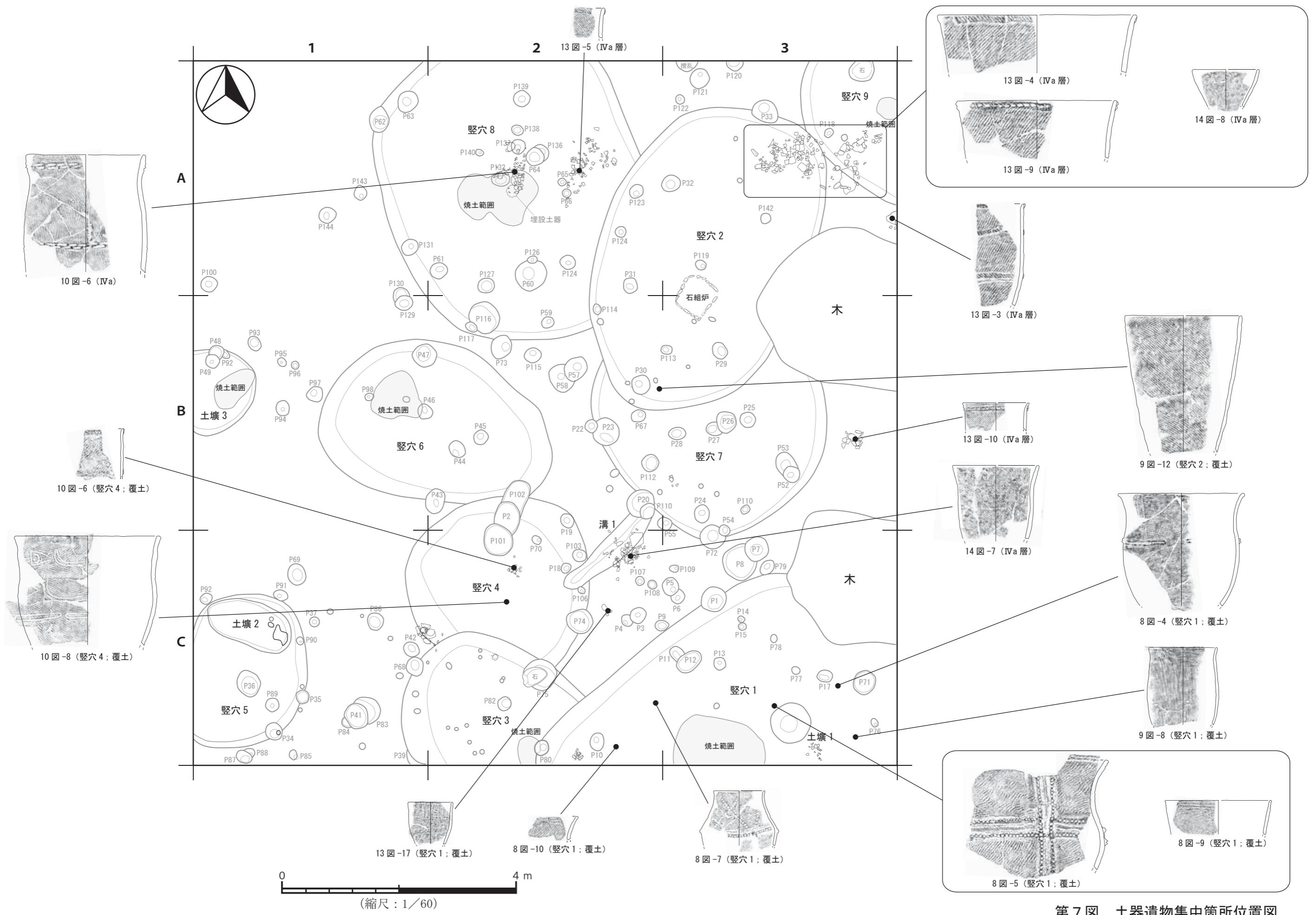
堅穴8	1	10YR2/2	黒褐色	シルト ハード	炭粒小5%
	2	10YR3/2	黒褐色	シルト ハード	炭粒小5%
	3	10YR3/2	黒褐色	シルト ハード	炭・焦土粒小5%
	4	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード	炭・焦土粒小5%
	5	10YR2/2	黒褐色	シルト ややハード	
	6	10YR2/3	黒褐色	シルト ややハード	
	7	10YR2/3	黒褐色	シルト ややハード	炭粒小5%
	8	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード	
	9	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード	
	10	10YR3/2	黒褐色	シルト ややソフト	
	11	10YR3/2	黒褐色	シルト ややソフト	炭粒小5%
	Pit130	a	10YR3/2	黒褐色	シルト ハード
		B	10YR3/1	黒褐色	シルト ハード
		C	10YR3/1	黒褐色	シルト ハード
		D	10YR3/1	黒褐色	シルト ハード 碳大5%
		E	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード
	F	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード	炭粒小5%
	G	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード	
	IVb	10YR3/2	黒褐色	シルト ややハード	
	IVc	10YR2/2	黒褐色	シルト ややハード	炭・骨粒小5%
	Va	10YR5/6	黄褐色	シルト ややソフト	

表10 壓穴建物跡1・土壤1 土層観察表 (J~J')

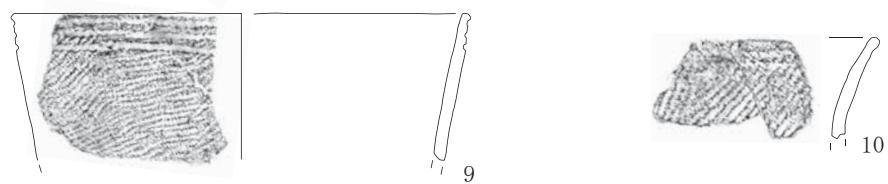
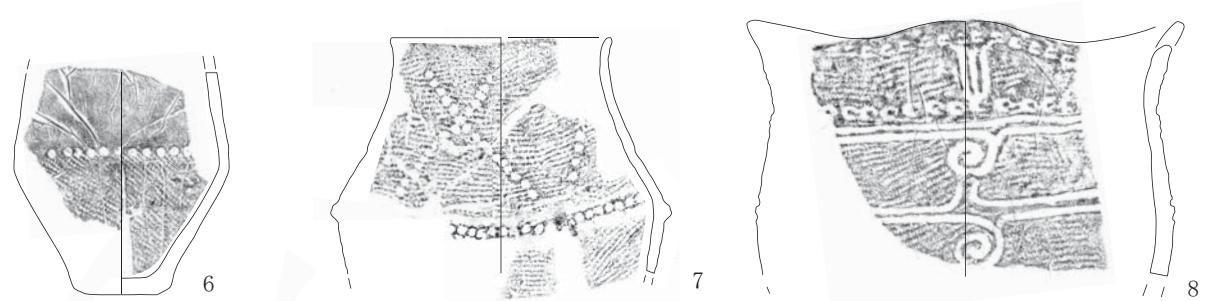
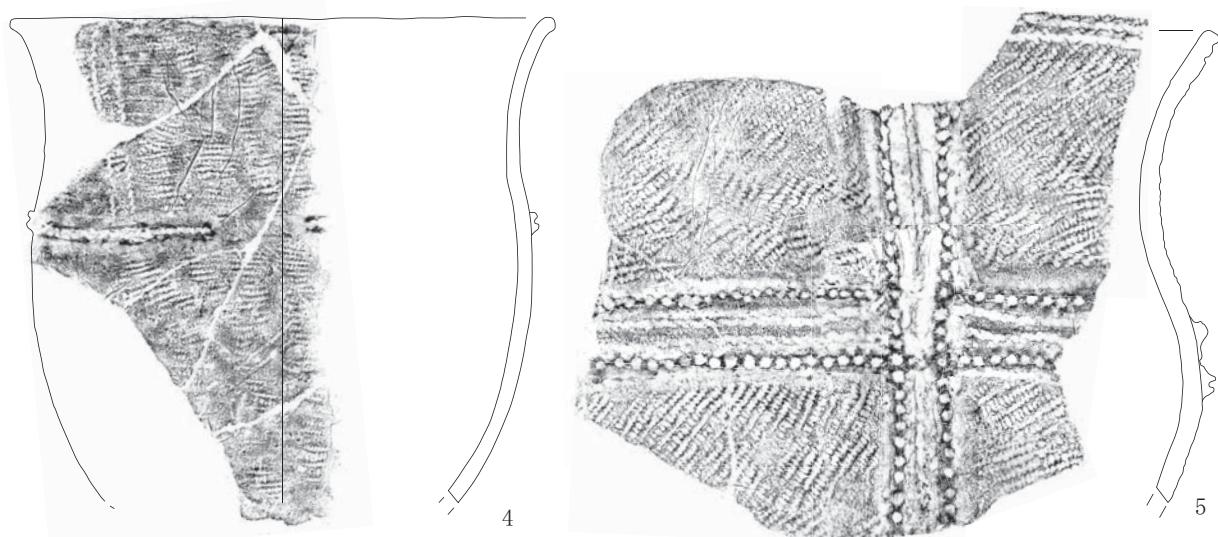
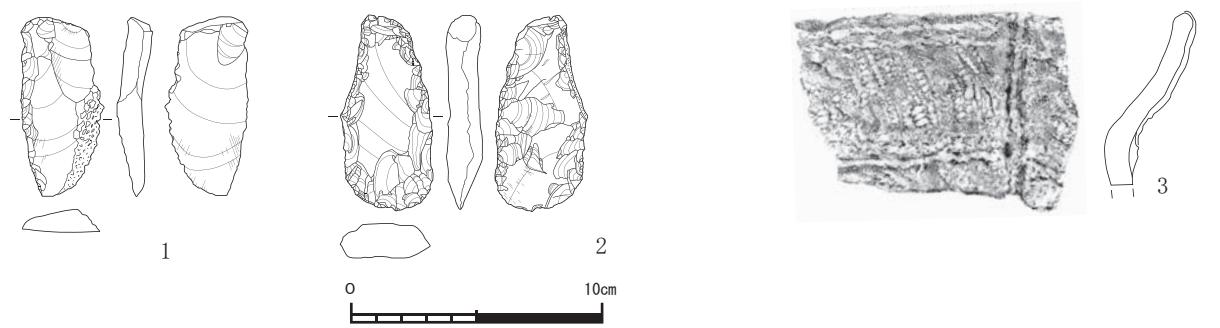
土壤1	1	10YR3/3	暗褐色	シルト ややソフト	炭・焦土粒中10%
	2	10YR3/3	暗褐色	シルト ややソフト	
	3	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード	炭・焦土粒小5%
	4	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード	
	5	10YR3/3	暗褐色	シルト ややハード	
	6	10YR3/3	暗褐色	シルト ややソフト	

表11 土壌2 土層観察表 (K~K')

土壤2	1	10YR2/2	黒褐色	シルト ややソフト	
	2	10YR4/4	褐色	シルト ややソフト	
	3	10YR2/2	黒褐色	シルト ややソフト	
	4	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ややソフト	
	5	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ややハード	
	6	10YR2/2	黒褐色	シルト ややハード	
	7	10YR2/2	黒褐色	シルト ややソフト	

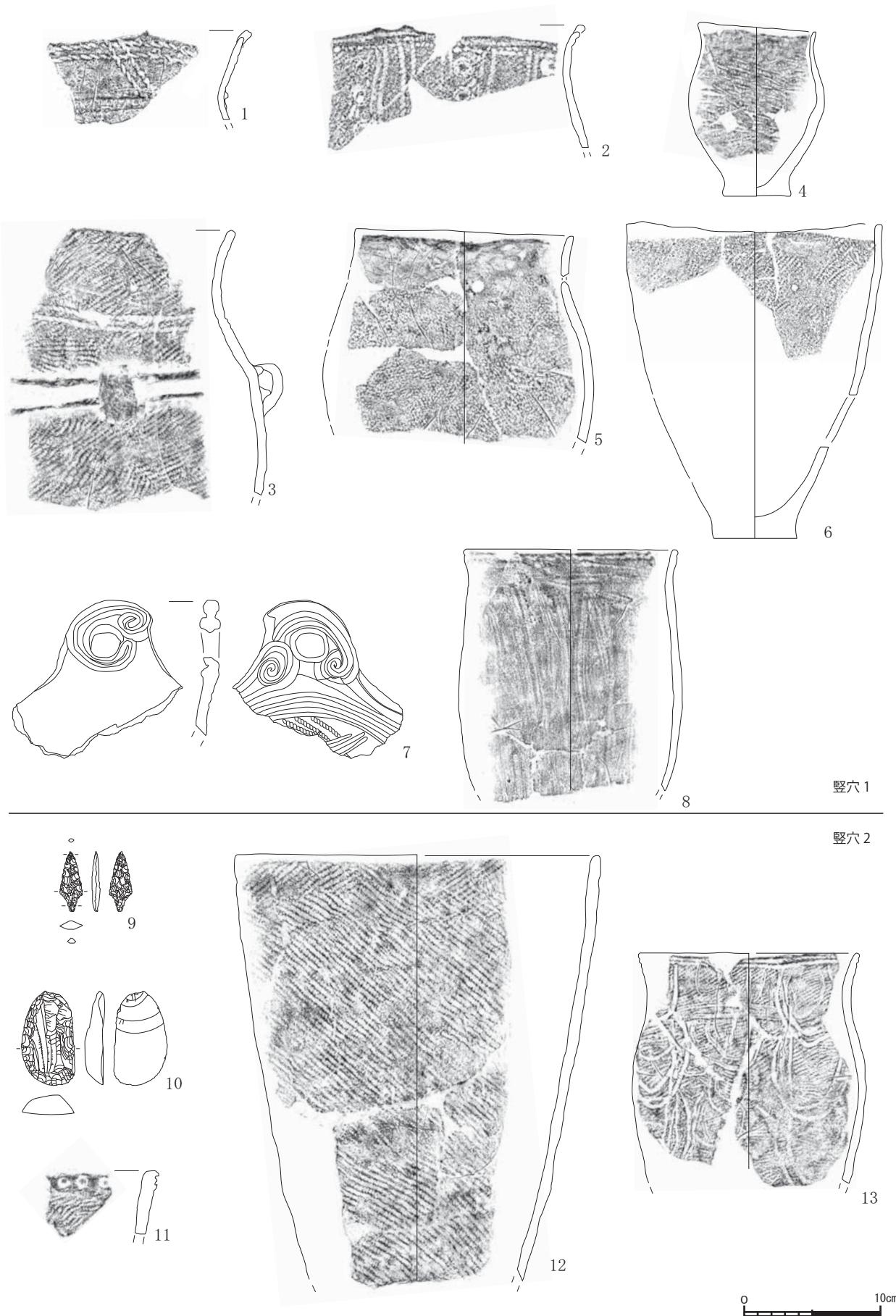


第7図 土器遺物集中箇所位置図

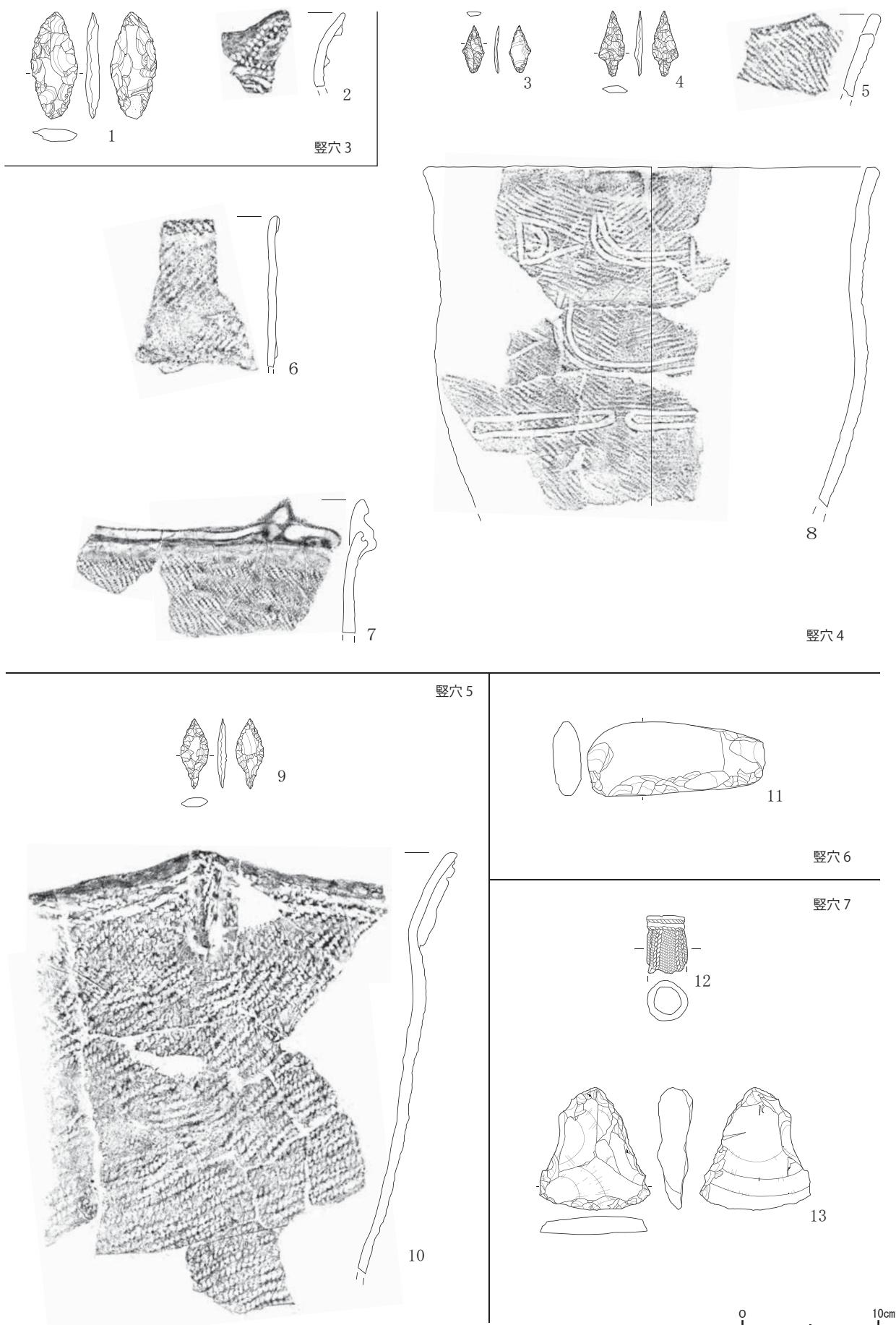


0 10cm

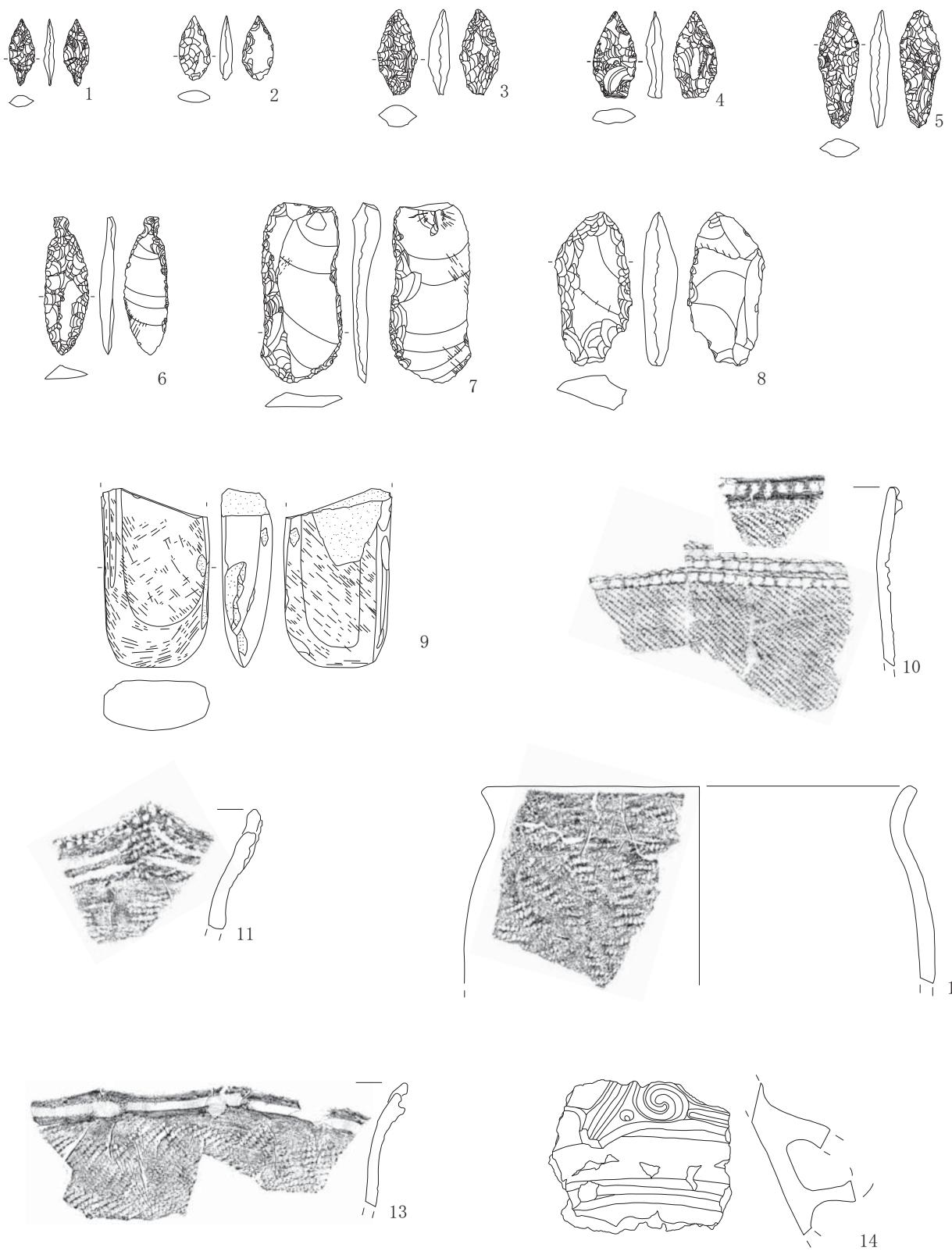
第8図 竪穴建物跡1 出土遺物



第9図 豊穴1・2出土遺物



第 10 図 堅穴建物跡 3～7 出土遺物

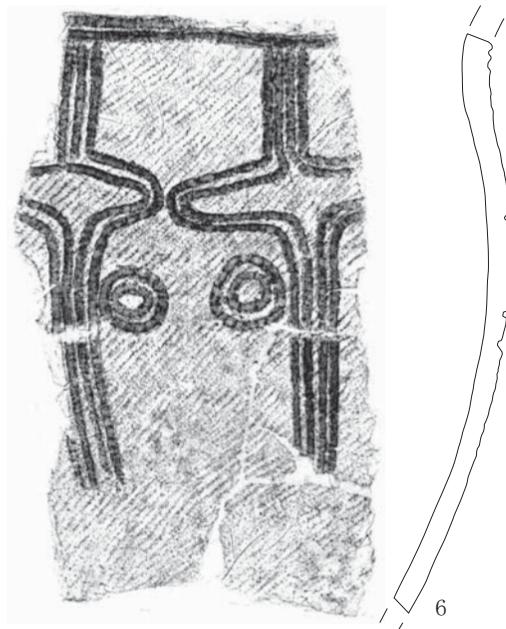
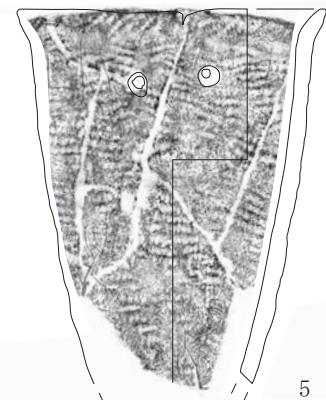


第 11 図 積穴建物跡 8 出土遺物



竪穴 9

土壤 3



0 10cm

第 12 図 竪穴建物跡 9・土壤 3 出土遺物

III 遺構外出土遺物

1. 繩文土器 (13～17図、PL18～22)

縩文土器は、38,589点のうち、縩文時代の包含層であるIVa～IVc層から22,044点が出土している。

・ I群b類

縩文時代早期後半の土器である。出土破片数26点と全体の約2.4%となり、少量の出土である。

口縁部に文様帯をもつものや斜行縩文施文後、綾絡文が施されるものなどがある。口縁端部及び内面にも縩文を施すものが確認される。松前町の高野遺跡で同様の形式のものが出土し早稻田5類に類似する縩文平底系の土器として、第IV群土器と分類されている（松前町郷土1984）。

・ III群a類

円筒上層式に相当、もしくはその系統を引くと考えられるサイベ沢VII式、見晴町式の土器群である。出土破片数は、32点と破片数で全体の約2.2%の比率を示し、少量の出土である。

層位毎の出土比率は、IVa層1.23%、IVb層2.60%、IVc層5.28%とIVc層からIVb層へかけて減少傾向にある。

・ III群b-1類～IV群a類

本類の中期後葉～後期初頭に相当する土器については、本遺跡で最も多い時期に該当するがいずれの型式に当てはまるか判断に迷うものが少なくないため、施文の手法によって分類している。

A. 貼付帶のあるグループ (13図-2～12、15図-4～11、17図-3～6)

口縁部を主体にして粘土紐もしくは折返して貼付を行い、貼付帶を施すもの。貼付帶の付される部位、貼付帶上に付される施文の手法によってさらに分類を試みている。

層位毎の出土比率は、IVa層24.37%、IVb層22.26%、IVc層8.58%とIVc層からIVb層で比率が大きく増加する。

A1) 貼付帶上に縩文を施すもの (13図-2～6)

縩文の施した貼付帶を特徴とするものである。大半が粘土紐を貼付けた後に施文をし、体部に施文した縩文の回転した方向を変えているが、まれに同一方向のものも確認され

る。口縁の断面形態は、口縁端部がほぼ水平に板状の当て具のようなもので直線的に成形され、方形をしている。

A2) 貼付帶上に縩線文を施すもの (13図-8、17図-4、)

口縁部や胴部に貼付帶をもち、貼付帶に縩線文を施すもの。

A3) 貼付帶上に短刻文を施すもの (13図-9・10、15図-7)。貼付帶上に縩文を施し、押し引き気味に刺突（以下短刻文）を施すもの。

A4) 貼付帶上に刺突文を施すもの (13図-11・12、15図-8～11、17図-5・6)

A5) 貼付帶上に沈線を施すもの

B. 刺突文を特徴とするもの (13図-13・14、15図-12～14、17図-7・8)

器面に竹管様の工具及び半竹管様の工具を使用した連続する刺突文で文様を構成するものである。

層位毎の出土比率は、IVa層3.11%、IVb層3.28%、IVc層2.42%とIVc層からIVa層へかけてほぼ同一の比率を示す。

B1) 口縁部下の器面に水平に刺突を施すもの。

B2) 口唇に刺突文を施すもの。

B3) 刺突文の他、沈線文を伴うもの。

B4) 刺突文の他、縩線文を伴うもの。

C. 縩線文を特徴とするもの (13図-15～17、14図-1・2、15図-15～20、17図-9)

大安在B式に相当するものを多く含む。層位毎の出土比率は、IVa層14.95%、IVb層18.95%、IVc層9.31%とIVc層からIVb層へかけて大きく増加し、IVb層で一番高い比率を示す。

C1) 口縁下に水平に縩線文を1～3条施すもの。

C2) 水平の他、縦位に縩線文を施すもの。

C3) 口縁下に水平に縩線文を1～3条施し、外反するもの。

C4) 水平の縩線文の他、縦位に短刻文を施すもの。

C5) 突起口縁で瘤状の貼付をもつもの。

C6) 口唇に縩線を施すもの。

D. 短刻文を特徴とするもの (14図-3・4、16図)

-1～7)

ノダップII・煉瓦台式のものを多く含む。層位毎の出土比率は、IVa層7.47%、IVb層5.29%、IVc層5.94%とIVa層で若干高い比率を示す。

- D1) 口縁部に横位に施すもの。
- D2) 短刻文の両側に縄線文を伴うもの。
- D3) 両側に沈線文を伴うもの。
- D4) 縦位の短刻文を施すもの。
- D5) 口唇に短刻文を施すもの。

E. 縄文のみを特徴とするもの（14図-5～11、16図-28～33、17図-12）

層位毎の出土比率は、IVa層38.26%、IVb層31.94%、IVc層34.16%とIVa～IVc層でほぼ同様の比率を示す。

- E1) 口縁端部を面取りして断面が四角形のもの。
- E2) 面取りせず、断面系が半円形のもの。
- E3) 外反するもの。
- E4) 波状口縁のもの。
- E5) コブ状の貼付をもつもの。
- E6) 摲糸文を施すもの。
- E7) 網目状撲糸文を施すもの。

F. 無文を特徴とするもの（14図-12～14、16図-15、17図-13・14）

層位毎の出土比率は、IVa層7.68%、IVb層5.07%、IVc層5.21%とIVa層で若干高い比率を示す。

- F1) 平縁のもの。
- F2) 外反するもの。
- F3) 胴部上部が無文のもの。大木系土器の中の平III式に併行するものか。
- F4) 折返し口縁のもの。
- F5) 波状・突起口縁のもの。
- F6) 貼付帯をもつもの。

G. 沈線文を特徴とするもの（14図-15～17、16図-16～22、17 図-15～20）

層位毎の出土比率は、IVa層2.59%、IVb層7.92%、IVc層22.58%とIVc層で高い比率を示す。大木系土器の影響を受けている大木系土器を多く含む。

- G1) 口縁下に水平方向の沈線文を施すもの
- G2) 口唇に縄線・縄文を施すもの
- G3) 平縁・突起口縁をもち、曲線の沈線を施すもの。大木系土器の中の平II及びIII式相当のものを含む。

G4) 口唇に沈線を施すもの。大木系土器の楓林

I・II式に相当するものを含む。

G5) 鋸歯文をもつもの

H. 条線他を特徴とするもの（16図-23・24、17図-21・22）

層位毎の出土比率は、IVa層0.10%、IVb層0.87%、IVc層0.29%といずれも低い比率を示す。

H1) 平縁のもの。

H2) 突起口縁をもつもの。

H3) 口唇にキザミを施すもの。

2. 石器

IVa～IVc層より1,805点が出土している。剥片石器では、搔器・削器のスクレイパー、石鏃、石槍、つまみ付ナイフ（縦型）が出土している。

礫石器では、すり石、扁平打製石器、磨製石斧他が出土している。石質は、頁岩を主体とし、黒曜石が218点と全体約12.1%の割合を占める。

また、IV章に掲載した黒曜石の蛍光X線による分析では任意に選び出した29点のうち、白滝産が2点、赤井川産が27点という結果を得ている。

3. 土製品（14図-18）

穿孔を有する突起がみられ、直径6.4cmの小型の蓋と思われる。

4. 石製品

IVb層から人工的に穿孔した用途不明の製品である。

5. 自然遺物

本調査で出土した自然遺物は、動物遺体で総点数337点が確認されている。これらは、IVc層を中心に164点出土しており、すべて被熱を受けている。遺構外の動物遺体は、13点について同定を行っており、大型の陸獣の破片などが確認されている。

同定結果の詳細については、IV章自然科学分析の記述を参照されたい。

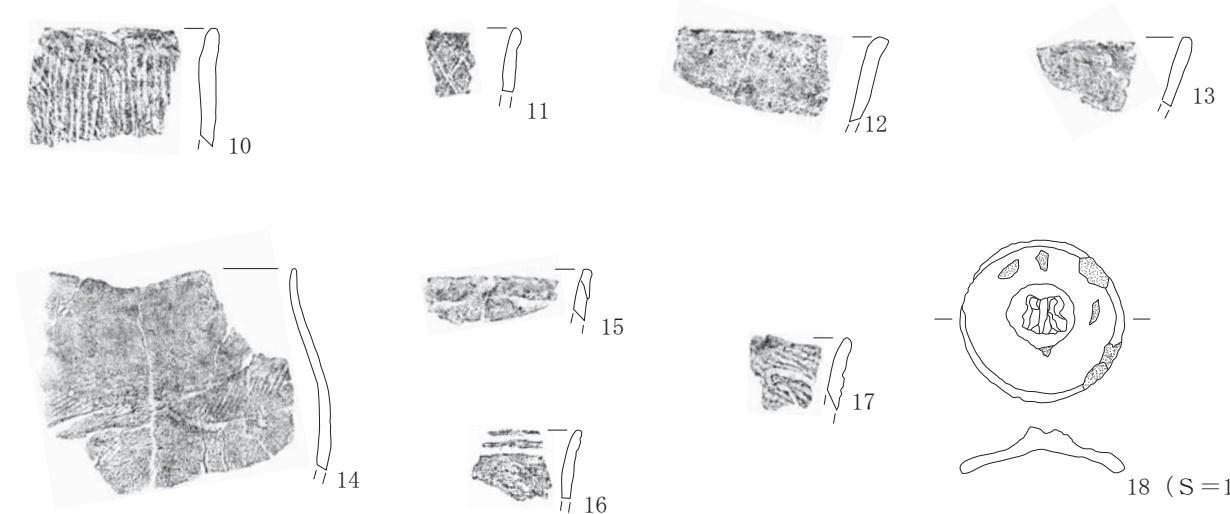
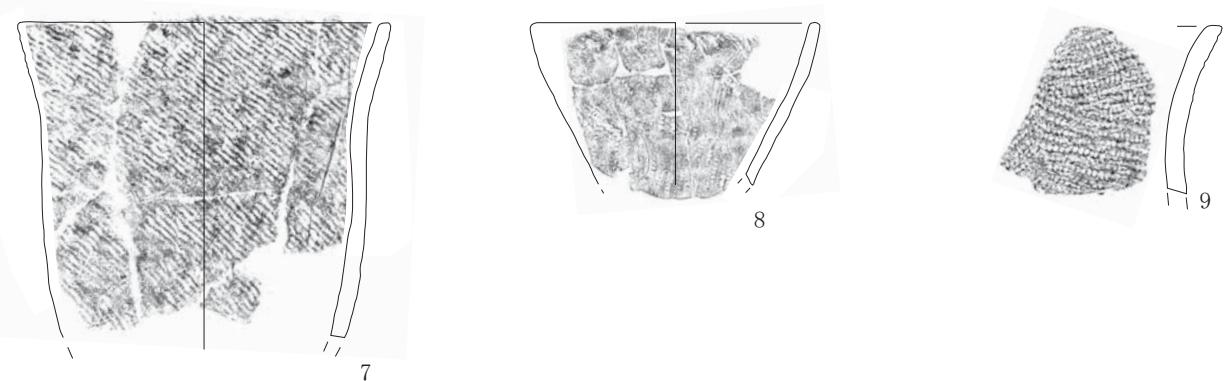
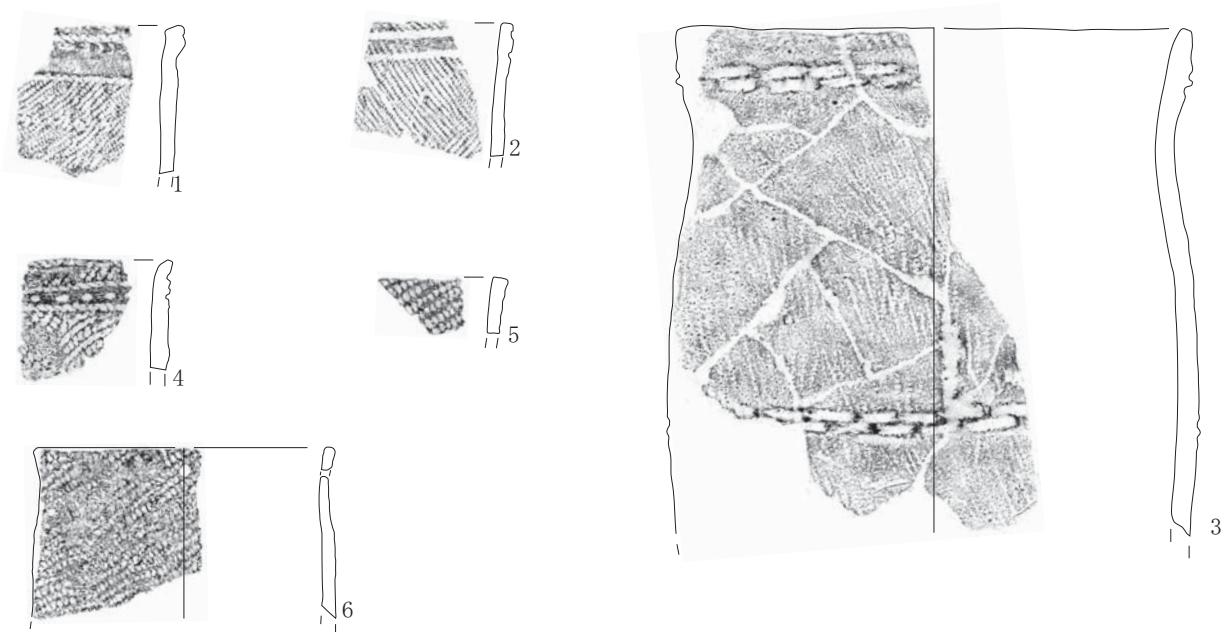
6. 江戸時代の出土遺物

江戸時代の遺物は図示していないが、陶磁器では肥前系磁器のIV期（1690～1780年代）に相当する見込みに松竹梅文を環状に描く磁器碗や19世紀～幕末頃の紅皿などの肥前系磁器が出土している（九州陶磁研究会2000）。鉄製品では、平釘などが出土している。

銅製品は、新寛永に分類される寛永通寶（3期）が出土している（永井1998）。

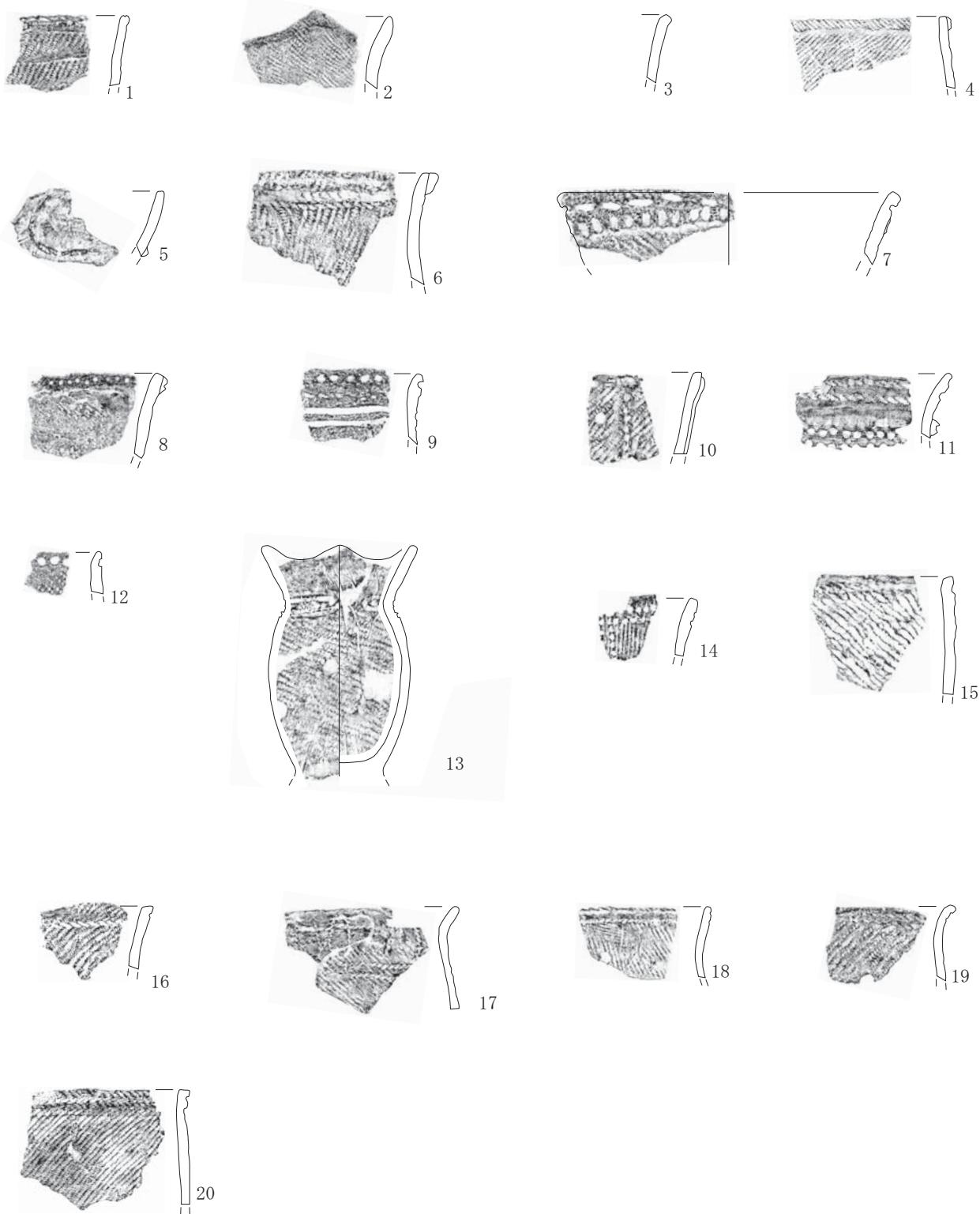


第13図 IVa層 出土遺物1



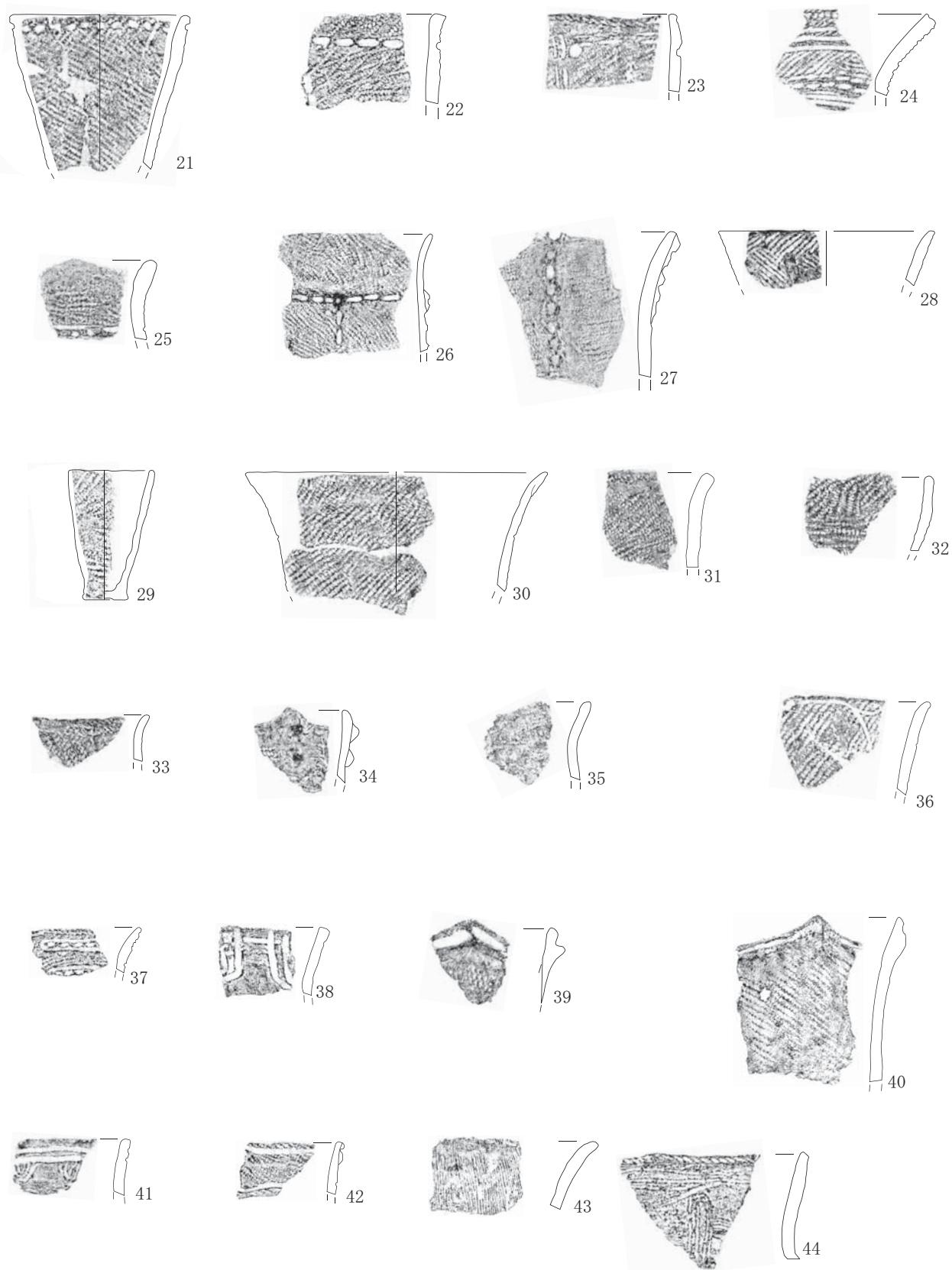
0 10cm

第14図 IVa層 出土遺物2



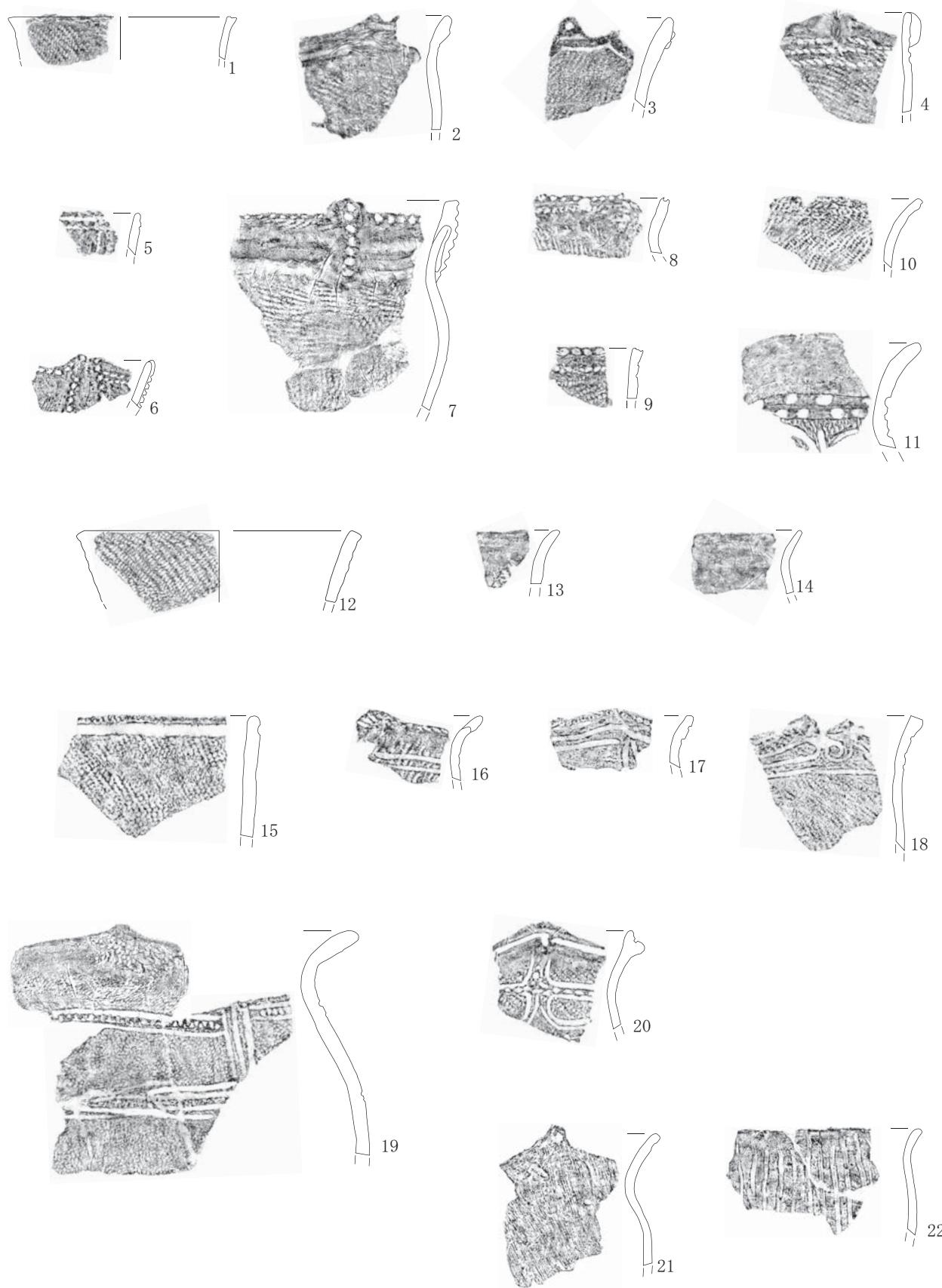
0 10cm

第15図 IVb層 出土遺物1



0 10cm

第16図 IVb層 出土遺物2



第 17 図 IVc 層 出土遺物

0 10cm

表12 大岱遺跡 出土遺物観察表

図版No.	PLNo.	グリッド	遺構	層位	種類	器種	備考	整理 No.
3図-1	PL17-7	TP4		IV	縄文土器	鉢	IV群a-1類(A1)	11C54BTP4IV-131
3図-2	PL17-8	TP4		IV	縄文土器	鉢	III群b-3類(C1)	11C54BTP4IV-158
3図-3	PL17-9	TP4		IV	縄文土器	鉢	III群b-3類(D4) 口径33.2cm	11C54BTP4IV-180
3図-4	PL17-10	TP4		IV	縄文土器	鉢	III群b-3類(G3) 大木10式の影響を受けた大木系土器に併行。	11C54BTP4IV-119
3図-5	PL17-11	TP2		IV	縄文土器	鉢	III群b-2類～IV群a-1類(H1)	11C54BTP2IV-58
8図-1	PL13-1	C3	堅穴1	覆土	剥片石器	スクレイバー	頁岩 長さ7.1×幅3.3×厚さ1.0cm	12K54C3タテ穴1-1344
8図-2	PL13-2	C3	堅穴1	覆土	剥片石器	スクレイバー	頁岩 長さ7.7×幅4.6×厚さ1.2cm	12K54C3タテ穴1-1448
8図-3	PL13-3	C3	堅穴1	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類(A2)	12K54C3タテ穴1-96
8図-4	PL13-4	C3	堅穴1	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類(A2) 口径29.0cm	12K54C3タテ穴1-1818
8図-5	PL13-5	C3	堅穴1	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類(A4-3)	12K54C3タテ穴1-1738
8図-6	PL13-6	C3	堅穴1	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類(B1)	12K54C3タテ穴1-2202
8図-7	PL13-7	C3	堅穴1	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類(B2) 口径11.6cm	12K54C2タテ穴1-2318
8図-8	PL13-8	C3	堅穴1	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類(B3) 中の平II式併行。口径17.5cm	12K54C3タテ穴1-635
8図-9	PL13-9	C3	堅穴1	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類(C1) 口径18.3cm	12K54C3タテ穴1-1761
8図-10	PL13-10	C3	堅穴1	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類(C1)	12K54C2タテ穴1-765
9図-1	PL13-11	C3	堅穴1	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類(C2) 中の平II式併行。	12K54C3タテ穴1-2670
9図-2	PL13-12	C3	堅穴1	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類(C3) 中の平II式併行。	12K54C3タテ穴1-1473
9図-3	PL13-13	C3	堅穴1	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類(C3) 中の平II式併行。	12K54C3タテ穴1-1813
9図-4	PL13-14	C3	堅穴1	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類(E1) 口径8.7×高さ12.1～12.8cm×底径4.9cm 口縁帶無文。中の平III式に併行か。	12K54C3タテ穴1-1593
9図-5	PL14-1	C3	堅穴1	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類(E2) 口径16.2cm、口縁帶無文。中の平III式に併行。	12K54C3タテ穴1-1374
9図-6	PL14-2	C3	堅穴1	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類～IV群a-1類(E4)	12K54C3タテ穴1-2024
9図-7	PL14-3	C3	堅穴1	覆土	縄文土器	鉢	III群b-1類(G3) 横林I式併行。	12K54C3タテ穴1-837
9図-8	PL14-4	C3	堅穴1	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類～IV群a-1類(H1) 口径15.6cm	12K54C3タテ穴1-1775
9図-9	PL14-5	A3	堅穴2	床面	剥片石器	石鏃	有茎 頁岩 長さ3.4×幅1.2×厚さ0.4cm	12K54A3タテ穴2-1219
9図-10	PL14-6	B2	堅穴2	覆土	剥片石器	スクレイバー	頁岩 長さ5.1×幅3.2×厚さ1.1cm	12K54B2タテ穴2-1485
9図-11	PL14-7	A3	堅穴2	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類(A4)	12K54A3タテ穴2-1101
9図-12	PL14-8	B2・B3	堅穴2	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類～IV群a-1類(F2) 口径26.6cm	12K54B2・B3タテ穴2-1624
9図-13	PL14-9	B2	堅穴2	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類(G3) 口径15.7cm	12K54B2タテ穴2-43他
10図-1	PL15-1	C2	堅穴3	覆土	剥片石	石槍	頁岩 長さ5.8×幅2.7×厚さ0.7cm	12K54C2タテ穴3-314
10図-2	PL15-2	C2	堅穴3	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類(A4-1)	12K54C2タテ穴3-743
10図-3	PL15-3	C2	堅穴4	覆土	剥片石器	石鏃	頁岩 長さ2.7×幅1.2×厚さ0.2cm	12K54C2タテ穴4-440
10図-4	PL15-4	C2	堅穴4	覆土	剥片石器	石鏃	有茎 頁岩 長さ3.3×幅1.4×厚さ0.3cm	12K54C2タテ穴4-441
10図-5	PL15-5	C2	堅穴4	覆土	縄文土器	鉢	III群a類(IIIa)	12K54C2タテ穴4-100
10図-6	PL15-6	C2	堅穴4	覆土	縄文土器	鉢	IV群a-1類(A1)	12K54C2タテ穴4-687
10図-7	PL15-7	C2	堅穴4	覆土	縄文土器	鉢	III群b-1類(G3) 横林II式併行。	12K54C2タテ穴4-599
10図-8	PL15-8	C2	堅穴4	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類(G4) 口径38.7cm	12K54C2タテ穴4-656
10図-9	PL15-9	C1	堅穴5	覆土	剥片石器	石鏃	有茎 頁岩 長さ3.9×幅1.6×厚さ0.4cm	12K54C1タテ穴5-890
10図-10	PL15-10	C1	堅穴5	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類(A2) 口径29.4cm	12K54C1タテ穴5-967
10図-11	PL16-1	B2	堅穴6	覆土	礫石器	扁平打製石器	安山岩 長さ9.7×幅3.8×厚さ1.5cm	12K54B2タテ穴6-78
10図-12	PL16-2	B3	堅穴7	覆土	礫石器	不明	頁岩 長さ6.7×幅6.4×厚さ1.5cm	12K54B3タテ穴7-481
10図-13	PL16-3	B3	堅穴7	覆土	土製品	筒状土製品	直径2.1cm	12K54B3タテ穴7-231
11図-1	PL16-4	A2	堅穴8	覆土	剥片石器	石鏃	頁岩 長さ3.3×幅1.2×厚さ0.5cm	12K54A2タテ穴8-407
11図-2	PL16-5	A2	堅穴8	覆土	剥片石器	石鏃	頁岩 長さ3.1×幅1.5×厚さ0.6cm	12K54A2タテ穴8-1723
11図-3	PL16-6	A2	堅穴8	覆土	剥片石器	石鏃	頁岩 長さ4.2×幅1.9×厚さ1.0cm	12K54A2タテ穴8-1376
11図-4	PL16-7	A2	堅穴8	覆土	剥片石器	石鏃	頁岩 長さ4.3×幅2.2×厚さ0.8cm	12K54A2タテ穴8-1724
11図-5	PL16-8	A2	堅穴8	覆土	剥片石器	石槍	頁岩 長さ5.9×幅1.9×厚さ0.9cm	12K54A2タテ穴8-1375
11図-6	PL16-9	A2	堅穴8	覆土	剥片石器	つまみ付ナイフ	頁岩 長さ6.8×幅2.1×厚さ0.6cm	12K54A2タテ穴8-550
11図-7	PL16-10	A2	堅穴8	覆土	剥片石器	スクレイバー	頁岩 長さ8.9×幅3.9×厚さ1.2cm	12K54A2タテ穴8-551
11図-8	PL16-11	A2	堅穴8	覆土	剥片石器	スクレイバー	頁岩 長さ7.1×幅3.6×厚さ1.4cm	12K54A2タテ穴8-1374
11図-9	PL16-12	A2	堅穴8	覆土	礫石器	磨製石斧	長さ(欠損につき不明)×幅5.2×厚さ2.3cm	12K54A2タテ穴8-1050
11図-10	PL16-13	A2	堅穴8	覆土	縄文土器	鉢	III群b-3類(A3)	12K54A2タテ穴8-469・IVc-1371他
11図-11	PL16-14	A2	堅穴8	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類(B2)	12K54A2タテ穴8-651
11図-12	PL16-15	A2	堅穴8	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類(E3) 口径29.8cm	12K54A2タテ穴8-25他
11図-13	PL16-16	A1・A2	堅穴8	覆土	縄文土器	鉢	III群b-1類(G4) 横林II式相当	12K54A1タテ穴8-158他
11図-14	PL16-17	A1	堅穴8	覆土	縄文土器	鉢	III群b-1類 横林II式相当	12K54A1タテ穴8-822他
12図-1	PL17-1	A3	堅穴9	覆土	縄文土器	鉢	III群a類(IIIa)	12K54A3タテ穴9-24
12図-2	PL17-2	A3	堅穴9	覆土	縄文土器	鉢	III群a類(IIIa)	12K54A3タテ穴9-19
12図-3	PL17-3	A3	堅穴9	覆土	縄文土器	鉢	III群b-3類(D4)	12K54A3タテ穴9-17
12図-4	PL17-4	B1	土壤3	覆土	縄文土器	鉢	III群a類(IIIa)	12K54B1土壤3-310他
12図-5	PL17-5	B1	土壤3	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2・3類 口径16.6cm	12K54B1土壤3-383他
12図-6	PL17-6	B1	土壤3	覆土	縄文土器	鉢	III群b-2類	12K54B1土壤3-305他
13図-1	PL18-1	C1		IVa	縄文土器	鉢	III群a類 見晴町式併行	12K54C1IVa-3767
13図-2	PL18-2	B3		IVa	縄文土器	鉢	IV群a-1類(A1) 天祐寺式併行。	12K54B3IVa-635
13図-3	PL18-3	C2		IVa	縄文土器	鉢	IV群a-1類(A1) 天祐寺式併行。	12K54A3IVa-1615
13図-4	PL18-4	B3		IVa	縄文土器	鉢	IV群a-1類(A1) 天祐寺式併行。	12K54A3IVa-7715
13図-5	PL18-5	A2		IVa	縄文土器	鉢	IV群a-1類(A1) 天祐寺式併行。	12K54A2IVa-8562
13図-6	PL18-6	A2		IVa	縄文土器	鉢	IV群a-1類(A1-1) 天祐寺式併行。	12K54A2IVa-3007
13図-7	PL18-7	A2		IVa	縄文土器	鉢	III群b-3類～IV群a-1類(A1-4)	12K54A2IVa-7457
13図-8	PL18-8	C1		IVa	縄文土器	鉢	III群b-3類(A2)	12K54C1IVa-5758
13図-9	PL18-9	A3		IVa	縄文土器	鉢	III群b-3類(A3) 口径36.7cm	12K54A3IVa-6172他
13図-10	PL18-10	B3		IVa	縄文土器	鉢	III群b-3類(A3) 口径15.2cm	12K54B3IVa-541
13図-11	PL18-11	C2		IVa	縄文土器	鉢	III群b-2・3類(A4)	12K54C2IVa-2292
13図-12	PL18-12	A3		IVa	縄文土器	鉢	III群b-2・3類(A4-1)	12K54A3IVa-7710
13図-13	PL18-13	C2		IVa	縄文土器	鉢	III群b類(B1) 口径15.5cm	12K54C2IVa-8957
13図-14	PL18-14	B3		IVa	縄文土器	鉢	III群b-2類(B3)	12K54B3IVa-3288
13図-15	PL18-15	B3		IVa	縄文土器	鉢	III群b-3類(C2)	12K54B3IVa-663
13図-16	PL18-16	B3		IVa	縄文土器	鉢	III群b-3類(C2)	12K54B3IVa-8364
13図-17	PL18-17	C2		IVa	縄文土器	鉢	III群b-3類(C2) 口径10.3cm	12K54C2IVa-858
14図-1	PL19-1	C2		IVa	縄文土器	鉢	III群b-3類(C3)	12K54C2IVa-8939
14図-2	PL19-2	C1		IVa	縄文土器	鉢	III群b-3類(C4)	12K54C1IVa-9006
14図-3	PL19-3	A2		IVa	縄文土器	鉢	III群b-3類(D1) 口径27.3cm	12K54A2IVa-8464他
14図-4	PL19-4	C2		IVa	縄文土器	鉢	III群b-3類(D3)	12K54C2IVa-2531
14図-5	PL19-5	A2		IVa	縄文土器	鉢	III群b-3類～IV群a-1類(E1)	12K54A2IVa-4641

図版No.	PLNo.	グリッド	遺構	層位	種類	器種	備考	整理 No.
14図-6	PL19-6	A3		IVa	縄文土器	鉢	III群b-3類～IV群a-1類(E2) 口径16.0cm	12K54A3IVa-7205
14図-7	PL19-7	C2		IVa	縄文土器	鉢	III群b-3類～IV群a-1類(E2) 口径19.8cm	12K54C2IVa-1783
14図-8	PL19-8	A3		IVa	縄文土器	浅鉢？	III群b-2・3類(E2) 口径15.7cm	12K54A3IVa-7732
14図-9	PL19-9	B2		IVa	縄文土器	鉢	III群b-2類(E3)	12K54B2IVa-379
14図-10	PL19-10	B3		IVa	縄文土器	鉢	III群b-3類～IVa-1群(E6)	12K54B3IVa-678
14図-11	PL19-11	C2		IVa	縄文土器	鉢	IV群a-1類(E7)	12K54C2IVa-5220
14図-12	PL19-12	A3		IVa	縄文土器	鉢	III群b-2類(F1) 大木系土器の中の平Ⅲ式に併行するものか。	12K54A3IVa-8015
14図-13	PL19-13	C2		IVa	縄文土器	鉢	III群b-2類(F1) 大木系土器の中の平Ⅲ式に併行するものか。	12K54C2IVa-2468
14図-14	PL19-14	C3		IVa	縄文土器	鉢	III群b-2類(F3) 大木系土器の中の平Ⅲ式に併行する。	12K54C3IVa-4425他
14図-15	PL19-15	A3		IVa	縄文土器	鉢	III群b-2類(F4)	12K54A3IVa-4905
14図-16	PL19-16	A3		IVa	縄文土器	鉢	III群b-2類(G1)	12K54A3IVa-7600
14図-17	PL19-17	A3		IVa	縄文土器	鉢	IV群a-1類(G3) 涌元式併行か。	12K54A3IVa-1509
14図-18	PL19-18	C1		IVa	土製品	蓋	直径6.6cm	12K54C1IVa-2320
15図-1	PL20-1	C2		IVb	縄文土器	鉢	I群b類 口唇部、内面に縄文を施す。	12K54C2IVb-1991
15図-2	PL20-2	C2		IVb	縄文土器	鉢	III群a類 見晴町式併行。	12K54C2IVb-508
15図-3	PL20-3	A3		IVb	縄文土器	鉢	III群a類 見晴町式併行。	12K54A3IVb-8298
15図-4	PL20-4	B3		IVb	縄文土器	鉢	IV群a-1類(A1)	12K54B3IVb-7970
15図-5	PL20-5	B2		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2・3類(A1-1)	12K54B2IVb-8804
15図-6	PL20-6	C3		IVb	縄文土器	鉢	III群b-3類(A1-3)	12K54A3IVb-807
15図-7	PL20-7	C3		IVb	縄文土器	鉢	III群b-3類(A3) 口径23.0cm	12K54C3IVb-5700
15図-8	PL20-8	B3		IVb	縄文土器	鉢	III群b-3類(A4)	12K54B3IVb-683
15図-9	PL20-9	C1		IVb	縄文土器	鉢	III群b-3類(A4-1)	12K54C1IVb-9015
15図-10	PL20-10	C1		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2類(A4-2)	12K54C1IVb-2202
15図-11	PL20-11	C2		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2類(A4-3)	12K54C2IVb-8960
15図-12	PL20-12	A3		IVb	縄文土器	鉢	III群b-3類(B1)	12K54A3IVb-3736
15図-13	PL20-13	B1		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2類(B3) 口径10.5cm 大木系土器の中の平II式に併行するものか。	12K54B1IVb-9571
15図-14	PL20-14	C3		IVb	縄文土器	鉢	III群b-3類(B4)	12K54C3IVb-8210
15図-15	PL20-15	A2		IVb	縄文土器	鉢	III群b-3類(C1)	12K54A2IVb-5177
15図-16	PL20-16	A3		IVb	縄文土器	鉢	III群b-3類(C1)	12K54A3IVb-3725
15図-17	PL20-17	A2		IVb	縄文土器	鉢	III群b-3類(C2)	12K54A2IVb-7528
15図-18	PL20-18	A3		IVb	縄文土器	鉢	III群b-3類(C3)	12K54A3IVb-3399
15図-19	PL20-19	C1		IVb	縄文土器	鉢	III群b-3類(C3)	12K54C1IVb-4473
15図-20	PL20-20	C3		IVb	縄文土器	鉢	III群b-3類(C3)	12K54C3IVb-808
16図-1	PL21-1	C3		IVb	縄文土器	鉢	III群b-3類(D1) 口径11.7cm	12K54C3IVb-7842
16図-2	PL21-2	B2		IVb	縄文土器	鉢	III群b-3類(D1)	12K54B2IVb-4073
16図-3	PL21-3	C3		IVb	縄文土器	鉢	III群b-3類(D2)	12K54C3IVb-5702
16図-4	PL21-4	C2		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2・3類(D3)	12K54C2IVb-1687
16図-5	PL21-5	B1		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2類(D3)	12K54B1IVb-1031
16図-6	PL21-6	B2		IVb	縄文土器	鉢	III群b-3類(D4)	12K54B2IVb-10480
16図-7	PL21-7	B2		IVb	縄文土器	鉢	III群b-3類(D4)	12K54B2IVb-5119
16図-8	PL21-8	A3		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2・3類(E2) 口径14.9cm	12K54A3IVb-6160
16図-9	PL21-9	B3		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2・3類(E2) 口径6.0×器高8.7×底径3.2cm	12K54B3IVb-6209
16図-10	PL21-10	C1		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2・3類(E3) 口径21.0cm	12K54C1IVb-6257他
16図-11	PL21-11	A2		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2・3類(E3)	12K54A2IVb-6606
16図-12	PL21-12	C1		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2・3類(E4)	12K54C1IVb-4470
16図-13	PL21-13	B1		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2・3類(E4)	12K54B1IVb-1049
16図-14	PL21-14	B2		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2・3類(E5)	12K54B2IVb-2026
16図-15	PL21-15	A1		IVb	縄文土器	鉢	III群b-3類(F5)	12K54A1IVb-9498
16図-16	PL21-16	C2		IVb	縄文土器	鉢	III群b-3類(G3) 大木10式の影響を受けた大木系土器に併行するものか。	12K54C2IVb-8961
16図-17	PL21-17	A2		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2類(G3) 大木系土器の中の平II式に併行するもの	12K54A2IVb-4616
16図-18	PL21-18	A2		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2類(G3)	12K54A2IVb-4606
16図-19	PL21-19	B1		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2類(G4) 大木系土器の中の平II式に併行するものか。	12K54B1IVb-9716
16図-20	PL21-20	B2		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2類(G4) 大木系土器の中の平II式に併行するものか。	12K54B2IVb-36
16図-21	PL21-21	C2		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2類(G5)	12K54C2IVb-7637
16図-22	PL21-22	A3		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2類(G6)	12K54A3IVb-3728
16図-23	PL21-23	C2		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2類(H1)	12K54C2IVb-2014
16図-24	PL21-24	C1		IVb	縄文土器	鉢	III群b-2類	12K54C1IVb-4476
17図-1	PL22-1	B1		IVc	縄文土器	鉢	I群b類 口径16.2cm	12K54B1IVc-670
17図-2	PL22-12	B2		IVc	縄文土器	鉢	III群a類(IIIa)	12K54B2IVc-3080
17図-3	PL22-2	C2		IVc	縄文土器	鉢	III群a類(IIIa)	12K54C2IVc-2510
17図-4	PL22-3	B1		IVc	縄文土器	鉢	III群b-2・3類(A2)	12K54B1IVc-3827
17図-5	PL22-4	C3		IVc	縄文土器	鉢	III群b-2類(A2)	12K54C3IVc-3231
17図-6	PL22-5	C3		IVc	縄文土器	鉢	III群b-2類(A4-2)	12K54C3IVc-3096
17図-7	PL22-6	A1		IVc	縄文土器	鉢	III群b-2類(A4-2)	12K54A1IVc-2346
17図-8	PL22-7	B1		IVc	縄文土器	鉢	III群b-2類(B2)	12K54B1IVc-1249
17図-9	PL22-8	B1		IVc	縄文土器	鉢	III群b-2類(B2)	12K54B1IVc-3693
17図-10	PL22-9	B1		IVc	縄文土器	鉢	III群b-2類(C3)	12K54B1IVc-1047
17図-11	PL22-10	A2		IVc	縄文土器	鉢	III群b-2類(D4)	12K54A2IVc-2614
17図-12	PL22-11	B3		IVc	縄文土器	鉢	III群b-2・3類(E1) 口径20.0cm	12K54B3IVc-42
17図-13	PL22-13	B3		IVc	縄文土器	鉢	III群b-2類(F2) 大木系土器の中の平III式に併行するものか。	12K54B3IVc-2027
17図-14	PL22-14	B3		IVc	縄文土器	鉢	III群b-2類(F2) 大木系土器の中の平III式に併行するものか。	12K54B3IVc-44
17図-15	PL22-15	B1		IVc	縄文土器	鉢	III群b-2・3類(G1)	12K54B1IVc-1675
17図-16	PL22-16	B2		IVc	縄文土器	鉢	III群b-2類(G2)	12K54B2IVc-2451
17図-17	PL22-17	A3		IVc	縄文土器	鉢	III群b-2類(G3)	12K54A3IVc-2911
17図-18	PL22-18	B2		IVc	縄文土器	鉢	III群b-2類(G3)	12K54B2IVc-2297
17図-19	PL22-19	A3		IVc	縄文土器	鉢	III群b-2類(G3) 大木系土器の中の平II式に併行するものか。	12K54A3IVc-2359
17図-20	PL22-20	A1		IVc	縄文土器	鉢	III群b-2類(G5) 大木系土器の中の平II式に併行するものか。	12K54A1IVc-1489
17図-21	PL22-21	B3		IVc	縄文土器	鉢	III群b-2類(H1) 大木系土器の中の平II式に併行するものか。	12K54B3IVc-31
17図-22	PL22-22	B1		IVc	縄文土器	鉢	III群b-2類(H1)	12K54B1IVc-1085

表13 遺構出土遺物觀察表(縄文土器)

分類	竪穴1			竪穴2			竪穴3			竪穴4			竪穴5			竪穴6			竪穴7			竪穴8			竪穴9			土壤1			土壤2			土壤3			合計																																					
	破片数	個体数	比率(%)	破片数	個体数	比率(%)	破片数	個体数	比率(%)	破片数	個体数	比率(%)	破片数	個体数	比率(%)	破片数	個体数	比率(%)	破片数	個体数	比率(%)	破片数	個体数	比率(%)	破片数	個体数	比率(%)	破片数	個体数	比率(%)	破片数	個体数	比率(%)																																									
I群 b	7	0.26	1.79	2	0.09	1.58	1	0.07	2.38	6	0.38	10.13	1	0.05	1.45	5	0.26	76.47	4	0.15	6.88	6	0.25	2.71					1	0.05	4.72	1	0.04	2.48	34	1.60																																						
III群 a	①	6	0.34		4	0.32		3	0.21		2	0.13		2	0.13					3	0.16		14	0.80		1	0.12					4	0.40		39	2.61																																						
	②	1	0.05		1	0.05														4	0.14		1	0.04					1	0.15		8	0.43																																									
	小計	7	0.39	2.69	5	0.37	6.49	3	0.21	7.14	2	0.13	3.47	2	0.13	3.78	0	0.00	0.00	3	0.16	7.34	18	0.94	10.17	2	0.16	29.09	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	5	0.55	34.16	47	3.04																																			
貼付	A1				4	0.16													4	0.39		2	0.67													14	1.50																																					
	A1-1																																			0	0.00																																					
	A1-2																																			1	0.03																																					
	A1-3					1	0.03																											1	0.03																																							
	A1-4																																			0	0.00																																					
	A2	17	1.08		1	0.06									5	0.61			1	0.03		1	0.08		8	0.38										28	2.00																																					
	A3				2	0.08		1	0.03		1	0.05			1	0.03																			14	0.63																																						
	A4	5	0.22		2	0.07		1	0.03						1	0.03					1	0.13												10	0.47																																							
	A4-1				1	0.03		1	0.05																									6	0.22																																							
	A4-2	1	0.03																																	1	0.03																																					
	A4-3	4	0.29																																	4	0.29																																					
	A5	1	0.11																																	2	0.23																																					
	小計	28	1.72	11.85	11	0.42	7.37	3	0.11	3.74	5	0.33	8.80	6	0.63	18.31	1	0.03	8.82	6	0.59	27.06	20	1.56	16.88	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	1	0.03	1.86	81	5.43																																						
刺突	B1	4	0.10								2	0.06							1	0.04		2	0.07												9	0.27																																						
	B2	5	0.22		1	0.11									9	0.47							10	0.70											28	1.71																																						
	B3	1	0.13																																1	0.13																																						
	B4														1	0.08																		1	0.08																																							
	小計	10	0.44	3.03	1	0.11	1.93	0	0.00	0.00	2	0.06	1.60	10	0.54	15.70	0	0.00	0.00	1	0.04	1.83	12	0.77	8.33	0	0.00	0.00	0	0.00	0.00	3	0.22	20.75	0	0.00	0.00	39	2.18																																			
縄線	C1	49	2.14		18	0.75		11	0.47		8	0.43		3	0.20				3	0.35		22	0.93																		115	5.29																																
	C2	17	1.18											1	0.03						1	0.04															19	1.25																																				
	C3	16	1.13		2	0.13		2	0.21		1	0.13							1	0.03																23	1.69																																					
	C4																			1	0.11																0	0.00																																				
	C5																																			1	0.11																																					
	C6																																					82	4.45	30.67	20	0.88	15.43	13	0.68	23.13	9	0.56	14.93	5	0.33	9.59	0	0.00	0.00	4	0.38	17.43	23	0.97	10.50	0	0.00	0.00	1	0.08	34.78	0	0.00	0.00	1	0.03	1.86	158
短刻線	D1	2	0.07		3	0.18		1	0.06		3	0.12									3	0.06																	13	0.53																																		
	D2																																																																									

表14 遺構出土遺物・観察表(縄文土器以外)

分類	竪穴1			竪穴2			竪穴3			竪穴4			竪穴5			竪穴6			竪穴7			竪穴8			竪穴9			土壙1			土壙2			土壙3			合計		
	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	合計								
石	石燃(有茎)	10	2	10	2	1	7	2	1	3	7	2	1	3	7	2	1	3	7	13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	46	4								
	石燃(無茎)																												0	0									
	石錐																												0	0									
	石槍	1					1													1									3	0									
	つまみ付ナイフ																												1	0									
	搔器・削器	23		10		1		4		2										6									51	1									
	石鎧	2		1																1									3	0									
	R・Uブレイク	27	1	22		7	2	7		3	1								7		11							86	4										
	フレイク	192	17	199	38	22	2	39	2	68	41	25	1	94	9	180	27	2		2								376	1,200	137									
	石核	3		1		3		2											6									16	0										
器	磨製石斧	1		1				1		1									1									6	0										
	叩き石	1																										1	0										
	すり石	4		15															3									27	0										
	扁平打製石器	3		1															1									10	0										
	石錐	2		1															2									6	0										
	石皿	6		2															1									8	0										
	砥石																											0	0										
凹石	1		3		1		6											2									1	0											
	その他	1																										14	0										
小計	277	18	266	41	36	4	69	4	75	42	33	1	103	9	224	27	2	0	5	0	9	0	380	0	1,479	146													
分類	竪穴1			竪穴2			竪穴3			竪穴4			竪穴5			竪穴6			竪穴7			竪穴8			竪穴9			土壙1			土壙2			土壙3			合計		
分類	破片数	被熱	破片数	被熱	破片数	被熱	破片数	被熱	破片数	被熱	破片数	被熱	破片数	被熱	破片数	被熱	破片数	被熱	破片数	被熱	破片数	被熱	破片数	被熱	破片数	被熱	破片数	被熱	破片数	被熱	破片数	被熱	合計						
自然遺物	獸骨	5	5	2	2						3	3	2	2					9	9	22	22						85	85	85	85	1	1	139	139	139			
	海獣・人																											2	2	2	2	2	2	2					
	陸獣?	2	2																																				
	大型陸獣																																						
	小計	7	7	2	2	0	0	2	2	7	7	22	22	9	9	22	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
土製品	不明(土偶?)																																						
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	不明(穿孔)	1																																					
石製品	小計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	総計	285	25	268	43	36	4	71	6	82	49	55	23	113	18	246	49	2	0	5	0	94	85	381	1	1,638	303												

表15 IV層出土遺物集計表(縄文土器)

分類		IVa			IVb			Vc			合計		
		破片数	個体数	比率(%)	破片数	個体数	比率(%)	破片数	個体数	比率(%)	破片数	個体数	
I群 b		1	0.02	0.07	14	0.44	1.36	11	0.61	4.47	26	1.07	
III群 b	①	2	0.09		14	0.84		7	0.47		23	1.40	
	②	4	0.27					5	0.25		9	0.52	
	小計	6	0.36	1.23	14	0.84	2.60	12	0.72	5.27	32	1.92	
貼付帶	A1	68	3.64		48	2.98		5	0.18		121	6.79	
	A1-1	1	0.07		1	0.03					2	0.09	
	A1-2										0	0.00	
	A1-3	3	0.12		2	0.24					5	0.36	
	A2	7	0.37		18	0.94		3	0.20		28	1.51	
	A3	32	1.71		40	1.63		9	0.45		81	3.78	
	A4	6	0.32		10	0.63		2	0.05		18	0.99	
	A4-1	1	0.05		1	0.14					2	0.19	
	A4-2	1	0.03		4	0.24		3	0.29		8	0.56	
	A4-3	8	0.56		7	0.38					15	0.94	
	A4-4	2	0.29								2	0.29	
	小計	129	7.14	24.37	131	7.20	22.26	22	1.17	8.58	282	15.51	
刺突	B1	11	0.76		6	0.18					17	0.93	
	B2	2	0.13		3	0.11		6	0.31		11	0.54	
	B3	1	0.03		9	0.75		1	0.03		11	0.80	
	B4				1	0.03					1	0.03	
	小計	14	0.91	3.11	19	1.06	3.28	7	0.33	2.42	40	2.30	
縄線	C1	59	2.83		96	4.69		27	0.90		182	8.43	
	C2	22	1.37		7	0.39		4	0.11		33	1.87	
	C3	1	0.03		13	0.89		4	0.11		18	1.03	
	C4				1	0.03					1	0.03	
	C5				4	0.13		1	0.15		5	0.28	
	C6	3	0.16								3	0.16	
	小計	85	4.38	14.95	121	6.13	18.95	36	1.27	9.31	242	11.78	
短刻線	D1	48	1.98		21	0.83		8	0.39		77	3.21	
	D2	2	0.14		2	0.12					4	0.26	
	D3	1	0.03		6	0.18		1	0.02		8	0.22	
	D4	1	0.04		10	0.58		3	0.40		14	1.03	
	D5										0	0.00	
	小計	52	2.19	7.47	39	1.71	5.29	12	0.81	5.93	103	4.71	
縄文	E1	45	2.03		52	2.84		14	0.92		111	5.79	
	E2	160	7.78		109	5.00		49	1.91		318	14.68	
	E3	16	1.10		27	1.65		19	1.34		62	4.09	
	E4	3	0.08		8	0.43		2	0.43		13	0.94	
	E5				1	0.10					1	0.10	
	E6	2	0.19		2	0.31		2	0.07		6	0.57	
	E7	1	0.03								1	0.03	
	小計	227	11.21	38.26	199	10.33	31.94	86	4.66	34.16	512	26.19	
無文	F1	25	1.54		33	1.09		14	0.36		72	2.99	
	F2	4	0.13		7	0.38		7	0.33		18	0.84	
	F3	2	0.24								2	0.24	
	F4	3	0.26		1	0.04					4	0.30	
	F5	3	0.08		5	0.13					8	0.21	
	F6							1	0.02		1	0.02	
	小計	37	2.25	7.68	46	1.64	5.07	22	0.71	5.20	105	4.60	
沈線	G1	6	0.20		15	0.57		15	0.68		36	1.44	
	G2	1	0.03		2	0.24		8	0.25		11	0.52	
	G3	6	0.30		15	0.86		17	0.96		38	2.12	
	G4	5	0.23		19	0.70		18	1.00		42	1.93	
	G5				1	0.08		2	0.20		3	0.28	
	G6				2	0.12					2	0.12	
	小計	18	0.76	2.59	54	2.56	7.92	60	3.08	22.58	132	6.40	
絆線他	H1	1	0.03		5	0.28		3	0.25		9	0.57	
	H2										0	0.00	
	H3										0	0.00	
	小計	1	0.03	0.10	5	0.28	0.87	3	0.25	1.83	9	0.57	
不明		2	0.05		2	0.15		1	0.04		5	0.24	
											0	0.00	
	小計	2	0.05	0.17	2	0.15	0.46	1	0.04	0.29	5	0.24	
口縁部破片数合計			572	29.30	100.0	644	32.34	100.0	272	13.64	100.0	1,488	75.28
胴部・底部破片数合計			7,830			9,148			3,578			20,556	
総 計			8,402			9,792			3,850			22,044	

表16 遺構外(IV層除く)出土遺物集計表(縄文土器)

分類	表採		攢乱		I		II		III		歎		合計		
	破片数	個体数	破片数	個体数	破片数	個体数	破片数	個体数	破片数	個体数	破片数	個体数	破片数	個体数	
I群 b		6	0.35						1	0.03			7	0.38	
III群 a	①	4	0.22	7	0.42								11	0.63	
	②	1	0.08	1	0.05								2	0.13	
	小計	5	0.29	8	0.47	0	0.00	0	0	0.00	0	0.00	13	0.76	
貼付帶	A1	10	0.50	35	1.61	2	0.05		8	0.47	3	0.08	58	2.71	
	A1-1	1	0.04										1	0.04	
	A1-2												0	0.00	
	A1-3			1	0.06								1	0.06	
	A2			7	0.34				5	0.27			12	0.61	
	A3	3	0.21	21	0.93	3	0.08		8	0.42	3	0.08	38	1.71	
	A4	2	0.06	1	0.11								3	0.17	
	A4-1			1	0.04								1	0.04	
	A4-2												0	0.00	
	A4-3												0	0.00	
	A4-4					2	0.05						2	0.05	
	小計	16	0.81	66	3.09	7	0.18	0	0	21	1.15	6	0.16	116	5.38
刺突	B1					1	0.03						1	0.03	
	B2			3	0.15								3	0.15	
	B3	2	0.06										2	0.06	
	B4												0	0.00	
	小計	2	0.06	3	0.15	1	0.03	0	0	0	0.00	0	0.00	6	0.23
縄線	C1	19	0.83	16	0.71	4	0.12		3	0.09			42	1.75	
	C2	6	0.42	3	0.23								9	0.64	
	C3	3	0.12			2	0.06						5	0.18	
	C4												0	0.00	
	C5			2	0.13								2	0.13	
	C6			2	0.05								2	0.05	
短刻線	小計	28	1.37	23	1.12	6	0.18	0	0	3	0.09	0	0.00	60	2.75
	D1	12	0.47	14	0.62				2	0.18	2	0.08	30	1.33	
	D2			2	0.08								2	0.08	
	D3	1	0.03										1	0.03	
	D4			3	0.08				2	0.13			5	0.22	
	D5			1	0.04								1	0.04	
縄文	小計	13	0.49	20	0.82	0	0.00	0	0	4	0.31	2	0.08	39	1.69
	E1	16	0.80	29	1.39	2	0.07		8	0.38			55	2.63	
	E2	62	3.07	42	1.99	5	0.13		23	1.08	15	0.76	147	7.03	
	E3	7	0.37	7	0.30				3	0.20			17	0.87	
	E4			1	0.04				2	0.10	3	0.13	6	0.28	
	E5			1	0.04				1	0.05			2	0.09	
	E6			2	0.10				1	0.02			3	0.12	
	E7												0	0.00	
無文	小計	85	4.23	82	3.87	7	0.20	0	0	38	1.82	18	0.89	230	11.01
	F1	10	0.31	6	0.23				1	0.03	3	0.09	20	0.65	
	F2	3	0.08			1	0.03		3	0.16			7	0.26	
	F3												0	0.00	
	F4												0	0.00	
	F5	1	0.04										1	0.04	
	F6												0	0.00	
沈線	小計	14	0.43	6	0.23	1	0.03	0	0	4	0.18	3	0.09	28	0.95
	G1	3	0.08	3	0.13				3	0.16			9	0.37	
	G2			1	0.08								1	0.08	
	G3	3	0.12	7	0.37	1	0.03		2	0.06			13	0.57	
	G4	5	0.25										5	0.25	
	G5												0	0.00	
	G6			1	0.06				1	0.04			2	0.10	
条線他	小計	11	0.44	12	0.63	1	0.03	0	0	6	0.26	0	0.00	30	1.36
	H1	4	0.30	2	0.08				3	0.20			9	0.58	
	H2												0	0.00	
	H3								3	0.22			3	0.22	
不明	小計	4	0.30	2	0.08	0	0.00	0	0	6	0.42	0	0.00	12	0.79
													0	0.00	
													0	0.00	
小計	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0	0	0.00	0	0.00	0	0.00	
	口縁部破片数合計	184	8.77	222	10.44	23	0.63	0	0.000	83	4.26	29	1.22	541	25.31
胴部・底部破片数合計		2,258		2,412		386			1,043		439		6,538		
総 計		2,442		2,634		409		0	1,126		468		7,079		

表17 遺構外(IV層除く)出土遺物集計表(縄文土器以外)

分類		表採		擾乱		I		II		III		IVa		IVb		Vc		合計	
		破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石	破片数	黒曜石
石器	石撲(有茎)	3		21	10	1		2		24	5	32	13	15		2	100	31	
	石撲(無茎)							1		2						3		0	
	石錐							1								1		0	
	石槍	4	1			2	1			6	4	3	1	4		20	6		
	つまみ付ナイフ	1	1							2		3		4		11	0		
	搔器・削器	7	23			3				19	1	50	4	29		137	5		
	石鎧					1				6		4		1		12	0		
	R・Uブレイク	28	49	5	8	12	1	4		62	3	75	5	34	1	272	15		
	ブレイク	167	20	134	32	30	5	7	27	3	386	57	524	98	315	23	1634	245	
	石核	3	3	1		5				8		12		11		43		0	
工具	磨製石斧	4				1				6		13		4		28	0		
	叩き石			4	1					8		4		3		20	0		
	すり石	6	2			8	2			45		34		5		102	0		
	扁平打製石器	1	1			1				2		6		2		13	0		
	石鍤	1	3			1				2		7		9		23	0		
	石皿		1							1		2				4	0		
	砥石		5							2		1				8	0		
	凹石			1	1					1				1		1	0		
	その他	2				1				7		7	1	1		20	2		
	合 計	221	20	253	48	51	5	0	0	87	9	35	4	588	70	780	122	437	
分類		表採		擾乱		I		II		III		IVa		IVb		Vc		合計	
		破片数	被 热	破片数	被 热	破片数	被 热	破片数	被 热	破片数	被 热	破片数	被 热	破片数	被 热	破片数	被 热	破片数	被 热
自然遺物	獸骨	1	1											9	9	6	6	164	164
																		180	
	小 計	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	9	9	6	6	164	164	180	
	平鋸		6															0	
	鉄製品					2												0	
	銅製品	0	0	6	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	寶永通寶(Ⅲ期)		2															0	
	判読不明																	0	
	小 計	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	蓋																	0	
土製品	土製品	1																0	
	小 計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	石製品	不明(穿孔)																0	
	小 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	陶磁器	近世陶磁器		8														0	
	小 計	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	総 計	223	21	269	48	53	5	0	0	91	9	35	4	598	79	787	128	601	
																		484	

IV 自然科学分析

大岱遺跡出土黒曜石製石器の産地推定

竹原弘展（パレオ・ラボ）

1.はじめに

上ノ国町に所在する大岱遺跡は、日本海に注ぐ天の川河口より約1.1km南東の左岸の緩斜面に立地する。本遺跡より出土した縄文時代中期末葉～後期初頭の黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

2.試料と方法

分析対象は、大岱遺跡より出土した黒曜石製石器30点である（表1、PL4）。

試料は、測定前にメラミンフォーム製のスポンジを用いて、測定面表面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径8mm、電圧50kV、電流 $1000\mu A$ 、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた（望月、1999など）。本方法は、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)とルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の合計7元素のX線強度(cps; count per second)について、以下に示す指標値を計算する。

$$1) Rb \text{ 分率} = Rb \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$$

$$2) Sr \text{ 分率} = Sr \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$$

$$3) Mn \text{ 強度} \times 100 / Fe \text{ 強度}$$

$$4) \log(Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$$

そしてこれらの指標値を用いた2つの判別図（横軸Rb分率-縦軸Mn強度×100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率-縦軸log(Fe強度/K強度)の判別図）を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定するものである。この方法は、指標値に蛍光X線のエネルギー差ができる限り小さい元素同士を組み合わせて算出しているため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、

表1 分析対象

分析No.	器種	グリッド	遺構	層位	遺物番号
1	石槍	A3		IVa	5000
2	石槍	A3		IVa	1611
3	石槍	A3		IVb	6184
4	石槍			搅乱	1247
5	石槍	A2		IVa	3142
6	石槍	B2		IVb	2818
7	石鏃			搅乱	616
8	石鏃	A3	竪穴2	覆土	1064
9	石鏃	A3		IVb	6182
10	石鏃	B2		IVb	2699
11	石鏃	A3		IVa	5990
12	石鏃	B2		IVb	402
13	石鏃	B3		IVa	3261
14	石鏃	C2		IVb	1840
15	石鏃	B3		IVb	3706
16	石鏃	B2		IVb	4254
17	石鏃	C2		IVa	5309
18	石鏃			搅乱	1114
19	石鏃			搅乱	1256
20	石鏃	A2		IVb	2845
21	石鏃			搅乱	2700
22	石鏃	C3		IVa	4229
23	石鏃	B1		IVb	1200
24	石鏃			搅乱	51
25	石鏃			搅乱	2422
26	石鏃	B2		IVb	2697
27	石鏃	B2		IVb	4153
28	スクレイパー	C2		IVb	6183
29	Rフレイク	B2		IVa	5090
30	Rフレイク	A3		IVb	1837

原則として非破壊である出土遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。なお、厚みについては、かなり薄くても測定可能であるが、それでも0.5mm以下では影響をまぬがれないといわれる（望月，1999）。極端に薄い試料の場合、K強度が相対的に強くなるため、 $\log(\text{Fe強度}/\text{K強度})$ の値が減少する。また、風化試料の場合でも、 $\log(\text{Fe強度}/\text{K強度})$ の値が減少する（同上）。そのため、試料の測定面にはなるべく奇麗で平坦な面を選び、測定した。測定結果が判別群からかけ離れた値を示した場合は、測定面を変更するか、あるいはメラミンフ

オーム製スポンジで再度表面の洗浄を行った後、何回か再測定を行って検証した。

原石試料も、採取原石を割って新鮮な面を表出させた上で産地推定対象試料と同様の条件で測定した。表2に判別群一覧とそれぞれの原石採取地点および点数を、図1に各原石の分布図を示す。

3. 分析結果および考察

図2および図3に黒曜石原石の判別図に遺物をプロットした図を示す。各図は視覚的にわかりやすくするために、各判別群を楕円で取り囲んである。試料30点のうち、2点が白滝1群、27点が赤井川群の範囲にプロットされた。分析No.12は、図2では赤井川群の範囲内にプロットされたが、図3では赤井川群のやや下方にプロットされた。これは先述したように遺物の風化による影響と考えられ（望月，1999）、赤井川群に属する可能性が高い。測定値および産地推定結果を表3に示す。

表2 北海道・東北地方黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名	原石採取地	
北海道	白滝	白滝1	赤石山山頂(43)、八号沢露頭(15)	赤石山山頂、八号沢露頭、八号沢、黒曜の沢、幌加林道(36)
		白滝2	7の沢川支流(2)、IK露頭(10)、千勝石沢露頭直下河床(11)、アジサイの滝露頭(10)	
	赤井川	赤井川	曲川・土木川(24)	
	上士幌	上士幌	十勝三股(4)タウシュベツ川右岸(42)、タウシュベツ川左岸(10)、十三ノ沢(32)	
	置戸	置戸山	置戸山(5)	
	所山	所山	所山(5)	
	豊浦	豊浦	豊泉(10)	
	旭川	旭川	近文台(8)、雨紛台(2)	
	名寄	名寄	忠烈布川(19)	
	秩父別1			
	秩父別2			
	秩父別3		中山(66)	
	遠軽	遠軽	社名淵川河床(2)	
	生田原	生田原	仁田布川河床(10)	
	留辺蘿1	留辺蘿1	ケショマップ川河床(9)	
	留辺蘿2	留辺蘿2		
	釧路	釧路	釧路市営スキー場(9)、阿寒川右岸(2)、阿寒川左岸(6)	
青森	木造	出来島	出来島海岸(15)	
	深浦	八森山	岡崎浜(7)、八森山公園(8)	
秋田	男鹿	金ヶ崎	金ヶ崎温泉(10)	
岩手	脇本	脇本	脇本海岸(4)	
山形	北上川	北上川折居2	北上川(9)	
宮城	羽黒	月山	月山荘前(10)	
	宮崎	湯ノ倉	湯ノ倉(40)	
	色麻	根岸	根岸(40)	
	仙台	秋保1	土蔵(18)	
		秋保2		
	塩竈	塩竈	塩竈(10)	

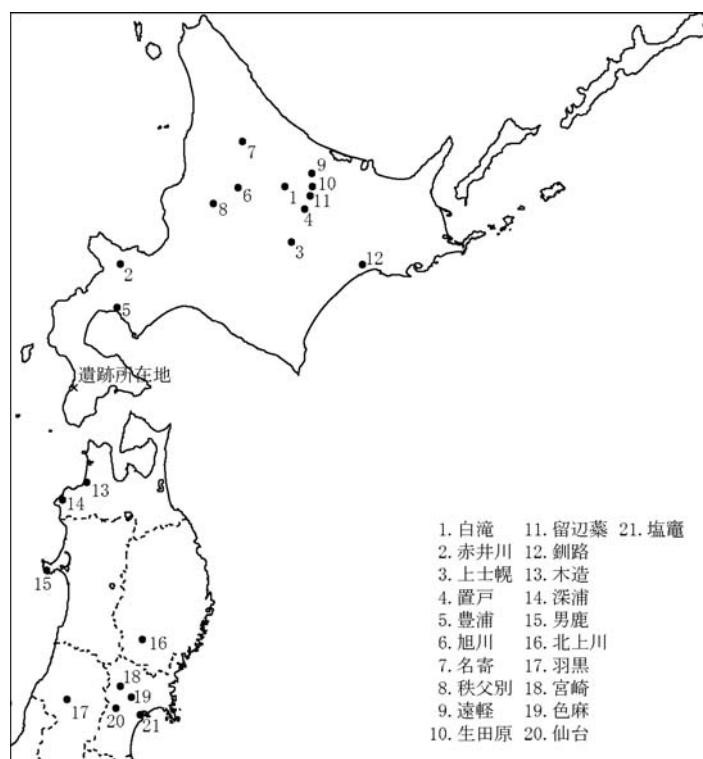


図1 北海道・東北地方黒曜石原石分布図

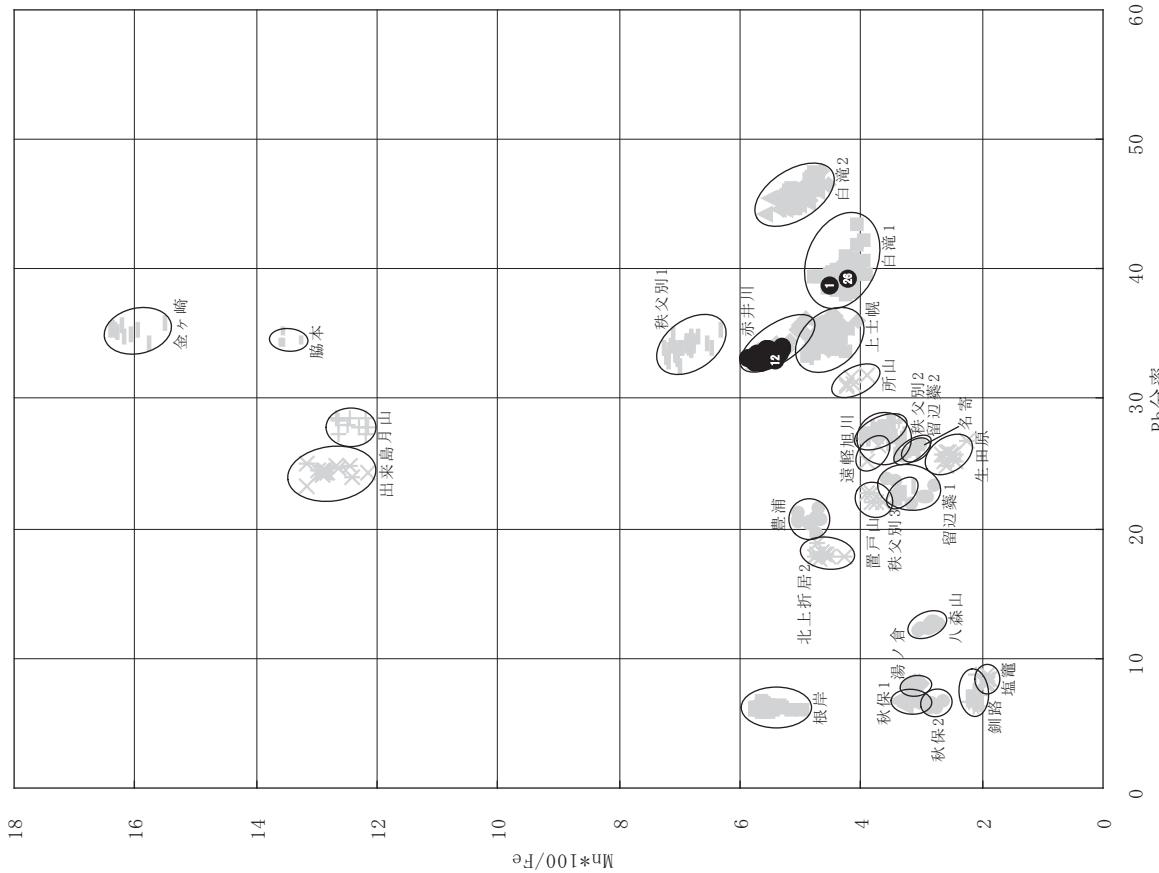


図2 黒曜石産地推定判別図（1）

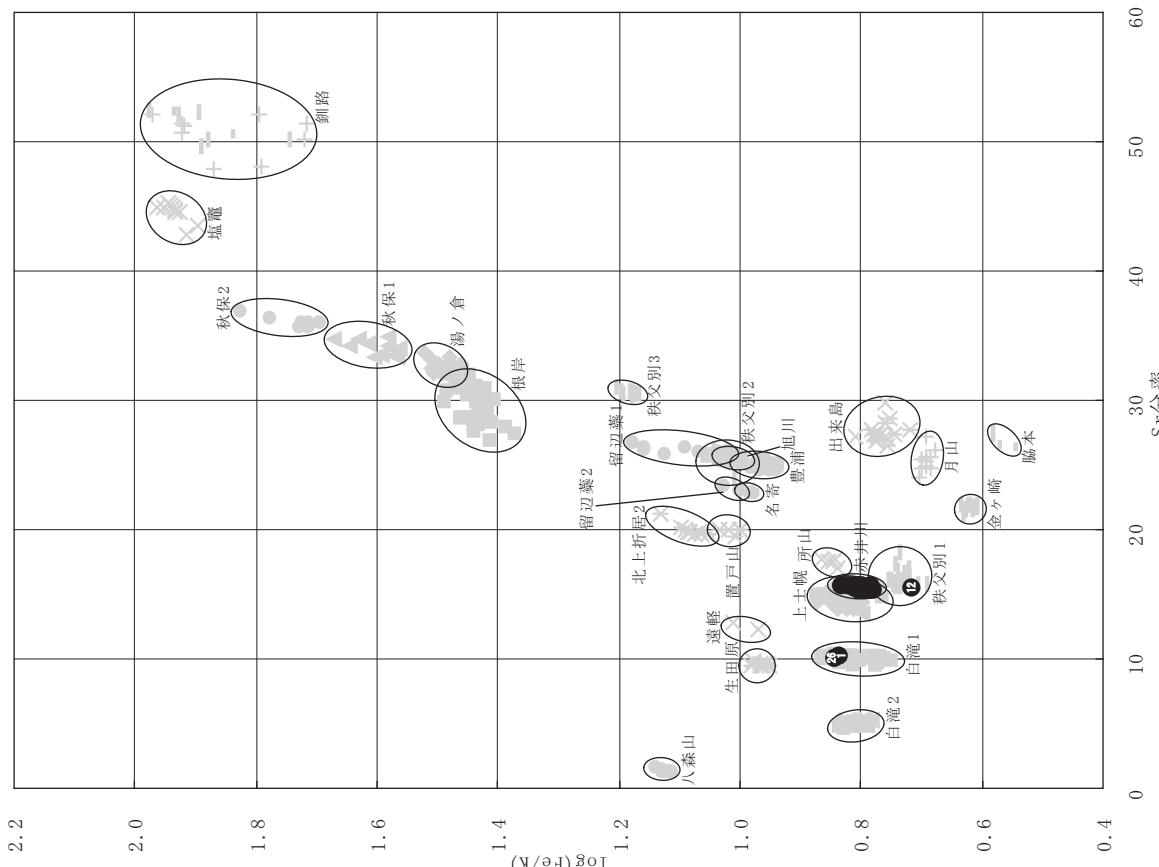


図3 黒曜石産地推定判別図（2）

表3 測定値および産地推定結果

分析No.	K強度(cps)	Mn強度(cps)	Fe強度(cps)	Rb強度(cps)	Sr強度(cps)	Y強度(cps)	Zr強度(cps)	Rb分率	$\frac{\text{Mn} \times 100}{\text{Fe}}$	Sr分率	$\log \frac{\text{Fe}}{\text{K}}$	判別群	エリア
1	188.1	58.1	1287.1	502.0	133.5	245.8	413.0	38.79	4.51	10.31	0.84	白滝1	白滝
2	306.0	104.8	1862.7	725.9	343.8	360.7	773.3	32.94	5.63	15.60	0.78	赤井川	赤井川
3	325.2	113.3	2015.2	738.7	342.6	362.6	764.6	33.45	5.62	15.51	0.79	赤井川	赤井川
4	342.7	121.0	2111.4	793.7	367.0	386.7	822.4	33.49	5.73	15.49	0.79	赤井川	赤井川
5	311.0	109.2	1896.0	752.2	346.8	373.1	785.8	33.31	5.76	15.36	0.79	赤井川	赤井川
6	241.7	85.5	1458.1	575.7	266.8	289.9	597.8	33.28	5.86	15.42	0.78	赤井川	赤井川
7	289.9	100.2	1804.2	677.2	315.8	339.1	716.7	33.05	5.55	15.41	0.79	赤井川	赤井川
8	273.1	89.8	1656.0	618.1	289.9	307.7	625.9	33.56	5.42	15.74	0.78	赤井川	赤井川
9	317.8	112.6	2026.9	741.9	344.8	357.8	737.8	33.99	5.55	15.80	0.80	赤井川	赤井川
10	278.7	97.9	1767.3	684.7	318.1	337.4	709.1	33.41	5.54	15.52	0.80	赤井川	赤井川
11	293.3	104.5	1816.9	726.0	340.4	369.2	775.9	32.83	5.75	15.39	0.79	赤井川	赤井川
12	204.0	57.1	1055.6	416.3	196.3	205.8	440.0	33.08	5.41	15.60	0.71	赤井川?	赤井川?
13	230.6	78.9	1483.1	544.8	254.5	266.7	554.5	33.62	5.32	15.71	0.81	赤井川	赤井川
14	297.7	108.2	1924.0	739.3	345.3	365.2	771.2	33.29	5.62	15.55	0.81	赤井川	赤井川
15	241.8	84.6	1597.7	578.0	266.9	280.0	573.9	34.02	5.29	15.71	0.82	赤井川	赤井川
16	183.6	64.1	1157.6	432.8	202.1	209.8	440.5	33.67	5.53	15.73	0.80	赤井川	赤井川
17	272.4	91.1	1686.8	653.2	303.1	320.0	671.5	33.53	5.40	15.56	0.79	赤井川	赤井川
18	226.3	77.8	1391.2	555.1	257.1	275.4	578.8	33.31	5.59	15.43	0.79	赤井川	赤井川
19	304.3	109.7	2059.2	731.6	339.7	355.9	734.5	33.84	5.33	15.71	0.83	赤井川	赤井川
20	271.1	96.4	1750.9	629.6	290.4	305.0	635.0	33.85	5.50	15.61	0.81	赤井川	赤井川
21	300.9	106.9	1882.6	734.3	348.9	365.9	766.8	33.14	5.68	15.74	0.80	赤井川	赤井川
22	320.3	114.5	2003.2	751.4	348.1	370.3	769.1	33.56	5.71	15.55	0.80	赤井川	赤井川
23	264.0	92.4	1689.5	669.3	314.0	330.3	690.3	33.40	5.47	15.67	0.81	赤井川	赤井川
24	310.4	110.0	1965.9	746.6	349.5	369.1	762.7	33.51	5.59	15.69	0.80	赤井川	赤井川
25	256.2	90.7	1604.7	636.0	299.1	319.7	658.6	33.24	5.65	15.63	0.80	赤井川	赤井川
26	290.7	85.3	2024.3	745.4	192.6	348.2	610.2	39.31	4.21	10.15	0.84	白滝1	白滝
27	179.7	60.3	1137.8	419.8	193.0	198.5	428.3	33.87	5.30	15.57	0.80	赤井川	赤井川
28	254.3	90.5	1609.9	617.9	284.2	305.5	633.9	33.55	5.62	15.43	0.80	赤井川	赤井川
29	316.6	111.8	2036.4	746.3	346.3	366.3	750.0	33.79	5.49	15.68	0.81	赤井川	赤井川
30	237.4	82.0	1464.8	536.1	253.8	267.2	565.4	33.04	5.60	15.64	0.79	赤井川	赤井川

4. おわりに

大岱遺跡出土の黒曜石製石器30点について、蛍光X線分析による産地推定を行った結果、2点が白滝エリア、28点が赤井川エリア産と推定された。

引用文献

望月明彦 (1999) 上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定. 大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2 一上和田城山遺跡篇一」:172-179, 大和市教育委員会.

大岱遺跡から出土した動物遺体

中村賢太郎（パレオ・ラボ）

1. はじめに

大岱遺跡は、日本海に注ぐ天の川の河口から約1.1km、天の川左岸の緩斜面に立地し、標高は13.5～14.7mである。大岱遺跡の発掘調査では縄文時代中期末～後期初頭の遺構が検出され、これらの遺構内や包含層から動物遺体が出土した。ここでは動物遺体の同定結果を報告する。

2. 試料と方法

試料は、堅穴1（試料No.1～4・25）、堅穴2（試料No.5）、堅穴4（試料No.6）、堅穴5（試料No.7・8）、堅穴6（試料No.9）、堅穴7（試料No.10・11）、堅穴8（試料No.12～14）、堅穴9（試料No.15・16）、土壙2（試料No.17～19）、IVa層（試料No.20・21）、IVb層（試料No.22～24）の各遺構・層から出土した計25袋の動物遺体である（表1、PL5）。それぞれの袋には1点ないし複数点の動物遺体が収められていた。

同定は肉眼で現生標本との比較により行った。

同定した試料は上ノ国町教育委員会に保管されている。

3. 結果と考察

いずれも哺乳綱の骨片で、すべて焼けていた。色調は黒～灰～白色であったが、ほとんどは白色で、骨片の多くが高温で焼かれたと考えられる。また、白色の骨片には熱を受けた際の変形、亀裂が見られるものもあり、これらの骨は生のうちに焼かれたと考えられる。

種まで同定できたのは試料No.15のシカ（*Cervus nippon*）中手骨あるいは中足骨の遠位端破片1点のみである。他の試料は、熱による変形、小片化などの理由で、哺乳綱までの同定に留まった。哺乳綱とした試料の多くは、緻密質が密で、サイズが大きく、大型の陸獣の可能性が考えられる骨片が多い。ただし、試料No.6の長骨骨幹破片は、緻密質の組織が疎で海獣やヒトの可能性が考えられる。

表1 大岱遺跡から出土した動物遺体

試料No.	グリッド	遺構	層位	遺物No.	重量(g)	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考
1	C2	堅穴1	覆土	1235	0.5	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1	焼(白色), 陸獣?
2	C3	堅穴1	覆土	1236	0.7	哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼(白色)
3	C3	堅穴1	覆土	3100	1.5	哺乳綱	不明	不明	破片	3	焼(白色, 龜裂)
4	C2	堅穴1(Pit12)	覆土	3101	0.3	哺乳綱	指骨?	不明	近位端?破片	1	焼(白色, 龜裂)
5	B3	堅穴2	覆土	1218	0.4	哺乳綱	指骨?	不明	近位端?破片	1	焼(白色, 龜裂)
6	C2	堅穴4	覆土	513	1.5	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	2	焼(灰~白色, 龜裂), 紹密質疎, 海獣?ヒト?
7	C1	堅穴5	覆土	689	2.1	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	4	焼(白色, 龜裂), 大型陸獣?
8	C1	堅穴5(Pit34)	覆土	690	0.6	哺乳綱	不明	不明	破片	2	焼(白色, 龜裂)
9	B1	堅穴6	覆土	1	4.1	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	10	焼(白色), 大型陸獣?
10	B3	堅穴7	覆土	232	1.2	哺乳綱	長骨?	不明	骨幹?破片	1	焼(白色), 磨滅
11	B3	堅穴7	覆土	238	3.1	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	8	焼(白色, 龜裂), 大型陸獣?
12	A1	堅穴8	覆土	2	1.9	哺乳綱	不明	不明	破片	3	焼(白色)
13	A2	堅穴8	覆土	3	3	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	10	焼(白色, 龜裂), 大型陸獣?
14	A2	堅穴8	覆土	1	0.6	哺乳綱	不明	不明	破片	3	焼(白色, 龜裂)
15	A1	堅穴9	覆土	2	7.7	哺乳綱	シカ	中手骨or中足骨	遠位端破片	1	焼(白色, 龜裂)
						哺乳綱	長骨	不明	近位端破片	1	焼(白色), 陸獣?
						哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	10	焼(白色, 龜裂), 陸獣?
						哺乳綱	不明	不明	破片	34	焼(黒~灰~白色, 龜裂)
16	A1	堅穴9	覆土	1	0.9	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	3	焼(白色), 大型陸獣?
17	C1	土壤2	覆土	325	10.4	哺乳綱	上顎骨or下顎骨	不明	歯槽, 破片	2	焼(白色), 陸獣?
						哺乳綱	椎骨	—	破片	1	焼(灰~白色), 陸獣?
						哺乳綱	肩甲骨?	不明	破片	2	焼(灰~白色, 龜裂), 大型陸獣?
						哺乳綱	不明	不明	破片	>50	焼(灰~白色)
18	C1	土壤2	覆土	692	2	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	2	焼(白色), 大型陸獣?
						哺乳綱	不明	不明	破片	17	焼(黒~灰~白色)
19	C1	土壤2	覆土	691	1.2	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1	焼(白色), 大型陸獣?
						哺乳綱	不明	不明	破片	>10	焼(白色)
20	A2		IVa	8925	2.3	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	4	焼(白色, 龜裂), 大型陸獣?
21	A2		IVa	8927	1.3	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	2	焼(白色)
22	C3		IVb	6213	0.4	哺乳綱	不明	不明	破片	3	焼(白色, 龜裂), 大型陸獣?
23	A2		IVb	6211	1.4	哺乳綱	—	—	—	2	岩石
24	A3		IVb	6214	0.3	哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼(灰~白色), 磨滅
25	C3	堅穴1	覆土	3099	0.4	哺乳綱	長骨	不明	骨幹破片	1	焼(白色, 龜裂), 陸獣?

V まとめ

本調査では、縄文時代の竪穴建物跡 9 軒、土壙 3 基、溝 1 条、柱穴の遺構の他、江戸時代の畝状遺構が検出された。出土遺物は、縄文時代の土器、石器、石製品、土製品、自然遺物、江戸時代の鉄製品、銅製品、陶磁器が合計 42,884 点確認されている。膨大な遺物量に圧倒されながら行われた調査であった。

縄文土器は、縄文時代の早期後半、縄文中期中葉～後期初頭の時期に相当し、そのうち中期後葉の土器が多いため、中期後葉に遺跡の繁栄のピークがみられることが判明した。

縄文中期中葉～後期初頭は、大岱遺跡の周辺に分布している小岱遺跡や大岱沢 A 遺跡においても土器の出土量が多い時期で、当該時期にこの地域一帯の広い範囲で縄文時代の人々が生活を営んでいたことが確認された。

周辺の小岱遺跡と大岱沢 A 遺跡の過年度の発掘調査で検出された遺構は、標高約 33 ～ 42 m に位置する小岱遺跡では竪穴建物跡 14 軒、土壙 26 基、標高 45 ～ 55 m に位置する大岱沢 A 遺跡ではフ拉斯コ状ピット 2 基、土壙 7 基、T ピット 9 基、焼土 3 基が検出されている。さらに、今回の大岱遺跡の発掘調査では、標高約 14 m 地点で竪穴建物跡が検出されている。このことから、大岱遺跡と小岱遺跡が位置する標高 14 ～ 42 m 地点では、集落としての土地利用、それより高地の大岱沢 A 遺跡が位置する丘陵上では狩猟場などとしての土地利用が考えられ、標高によって土地利用が異なっていると考えられた。

その他、今回の発掘調査の新たな知見の一つとして縄文時代早期の土器が出土したことが挙げられる。大岱遺跡周辺における早期の遺跡は、これまで大岱遺跡より海岸線を西側へ 2 ～ 3 km 進んだ地点の原歌遺跡、大潤遺跡や四十九里沢 A 遺跡周辺でしか確認されていなかった。今回の大岱遺跡の発掘調査では、早期に該当する遺物包含層を確認することができなかつたが、四十九里沢 A 遺跡と大岱遺跡の間の丘陵上に縄文時代早期の遺跡が分布している可能性も想定された。

縄文時代以外では、18 世紀～幕末頃の肥前系磁器が出土しており、Ko-d 火山灰降下後に畝状

遺構がみられるなど 1640 年以降の江戸時代に畝作としての土地利用も確認された。

また、本調査では IV a 層から口縁部に帯状の縄文を施した貼付帯を施す天祐寺式とされる後期初頭に位置けられる土器が中期後葉に位置付けられる煉瓦台式の土器と共に伴するため、その編年的な位置付けについて疑問が生じた。このことについては、1986・1987 年に松前町の寺町貝塚の発掘調査を担当した久保泰氏が寺町貝塚の発掘調査において、大岱遺跡と同様の出土状況であったことを指摘している（松前町 1988）。久保氏は、その報告書の中で「静狩・煉瓦台式は「刺突の加えられた隆起帶と整った斜行縄文や羽状縄文に特徴づけられる土器」であり、天祐寺式は「縄文の施された貼付帯」を特徴とする土器で（中略）両者が混然とした状態で出土するのであった。」と述べている。

天祐寺式は、1981 年 3 月発行の『考古学雑誌』の中で大沼忠春氏が後期初頭として型式設定をした土器である（大沼 1981）。その天祐寺式とされる土器は、1959 年に函館市天祐寺で本堂新築のため基礎工事終了後に発掘調査が実施され、採集された資料である（石川 1963）。執筆者の石川政治氏は、出土した土器について「発見された土器片は、一般に余市円筒式土器といわれるもので、縄文文化中期後半に属するものである。（中略）おそらく、天祐寺貝塚の土器文化は、サイベ沢遺跡よりも新しく、入江貝塚の入江 A 式、及び入江 B 式よりも古い時期に位置されるべきものであろう。」と中期の範疇に納まるとしている。つまり、函館市天祐寺貝塚の土器（天祐寺式）は、初め余市式土器群の一部として中期後半に位置付けられていたものを大沼氏が後期初頭に求めたものであるが、このことについて鈴木克彦氏は大沼氏の編年的な位置付けについて疑問を呈している（鈴木 1999）。本報告では著者の力不足もありこの問題について十分な検討ができなかつたが、当該地域における中期終末の資料は現在蓄積されつつあり、再検証が可能であると思われる。そのため、本報告で検証できなかつたその他の事象についても今後の課題として結びとしたい。

写 真 図 版



1. 調査区完掘状況（北東から）



2. 調査区完掘状況（南から）



1. Ko-d 火山灰検出状況（南西から）



2. B-Tm 火山灰検出状況（西から）

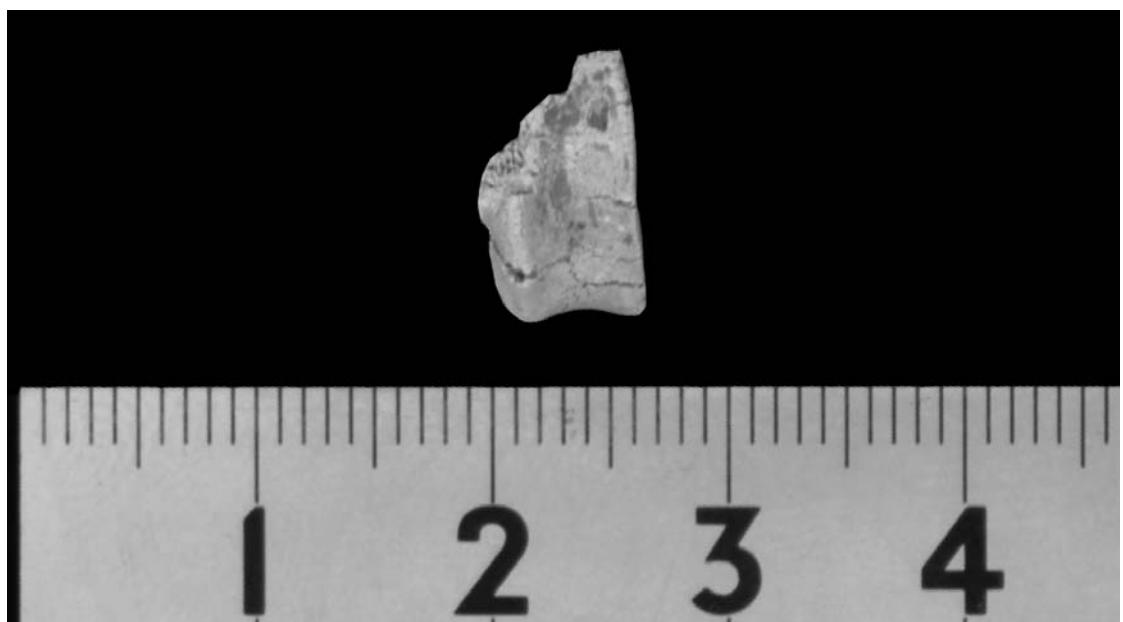


1. IVa層 遺物出土状況（南から、13図-4、13図-9、14図-8）



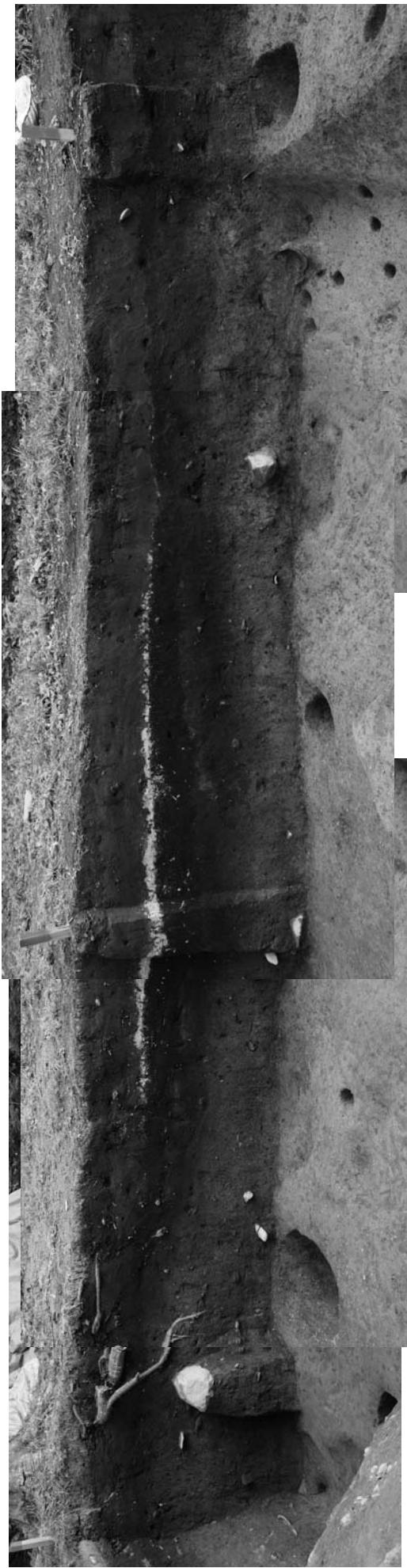
2. 竪穴建物跡1 遺物出土状況（東から8図-4、9図-8）



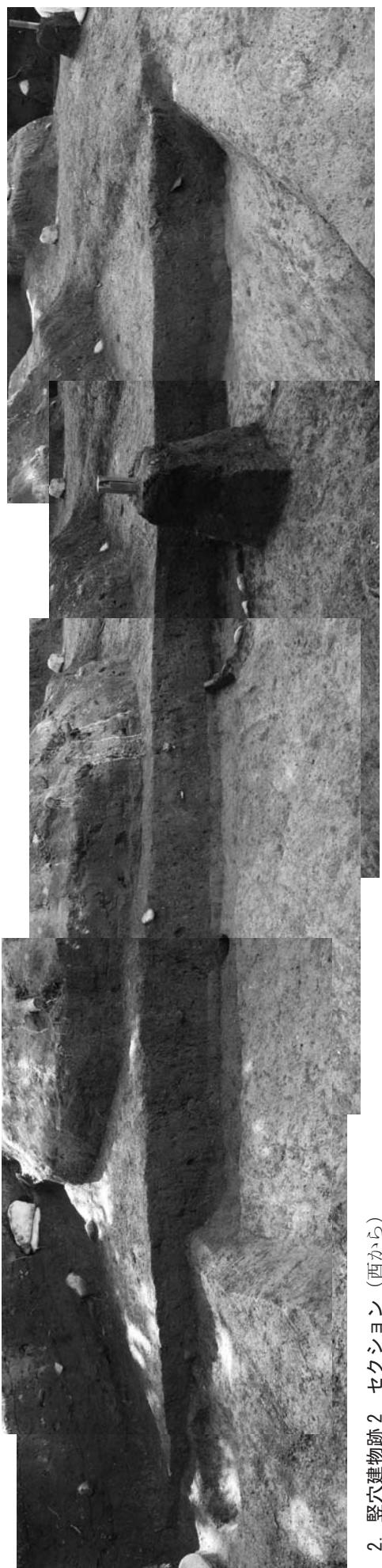


図版1 大岱遺跡から出土した動物遺体

上段：シカ中手骨あるいは中足骨（試料 No. 15） 下段：哺乳綱破片（試料 No. 17）



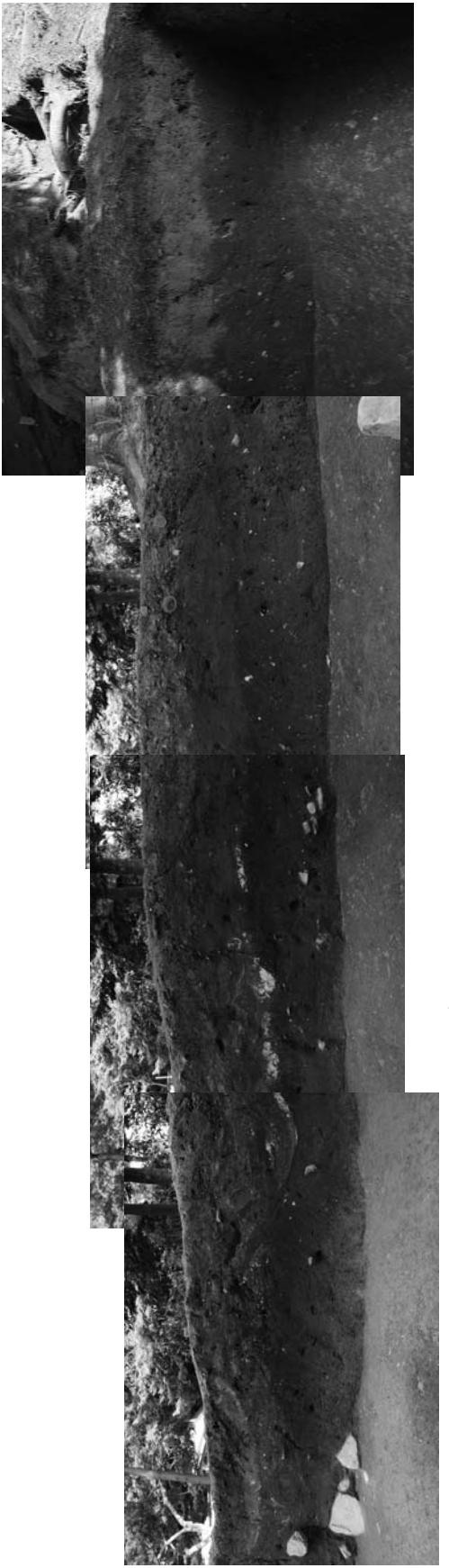
1. 積穴建物跡 1・3 セクション (北から)



2. 積穴建物跡 2 セクション (西から)



1. 調査区中央東西ベルト セクション（西側ベルト、南から）



2. 調査区中央東西ベルト セクション（東側ベルト、南から）



1. 調査区中央南北ベルト セクション（南側ベルト、南から）



2. 調査区中央南北ベルト セクション（北側ベルト、南から）



1. 調査前風景（北から）



2. 煙跡 検出状況（西から）



3. 煙跡 完掘状況（南西から）



4. IVa層 遺物出土状況（西から）



5. 土製品 出土状況（北から）



6. 繩文土器 出土状況（西から）



7. 繩文土器 出土状況（北から）



8. 繩文土器 出土状況（北から）



1. 竪穴建物跡 3～6 検出状況（西から）



2. 竪穴建物跡 2 検出状況（南西から）



3. 竪穴建物跡 7 検出状況（南西から）



4. 竪穴建物跡 2 遺物出土状況（西から）



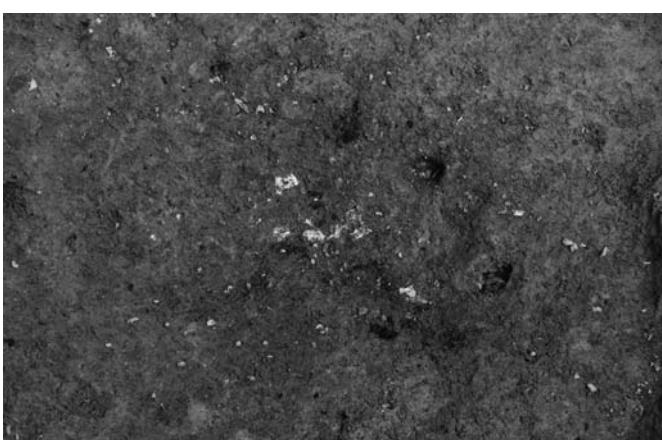
5. 竪穴建物跡 5 遺物出土状況（西から）



6. 土壙 2 検出状況（東から）



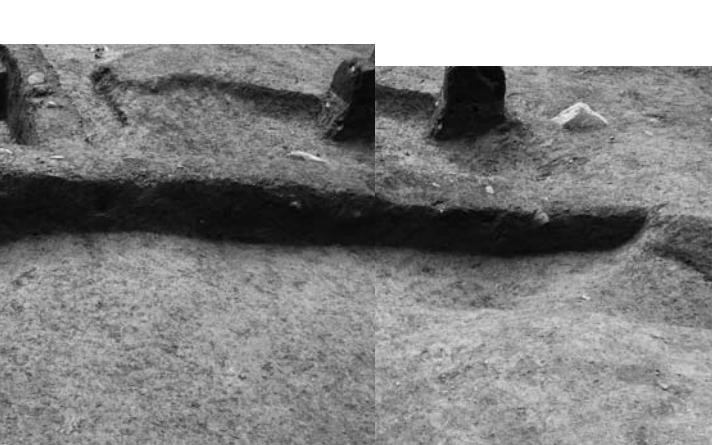
7. 土壙 2 焼土・炭化物・獸骨出土状況（東から）



8. 縄文土器出土状況（北から）



1. 竪穴建物跡 3・4 セクション（東から）



2. 竪穴建物跡 2・7 セクション（東から）



4. 竪穴建物跡 1 地床炉 検出状況（西から）



3. 竪穴建物跡 1 (土壤 1) セクション（西から）



5. 竪穴建物跡 2 石組炉 検出状況（東から）



6. 竪穴建物跡 2 石組炉 検出状況（北から）



1. 竪穴建物跡 7 完掘状況（西から）



2. 竪穴建物跡 8 地床炉 検出状況（北東から）



3. 竪穴建物跡 8 埋設炉 検出状況（南西から）



4. 竪穴建物跡 8 埋設炉 検出状況（西から）



5. 竪穴建物跡 9 完掘状況（南から）



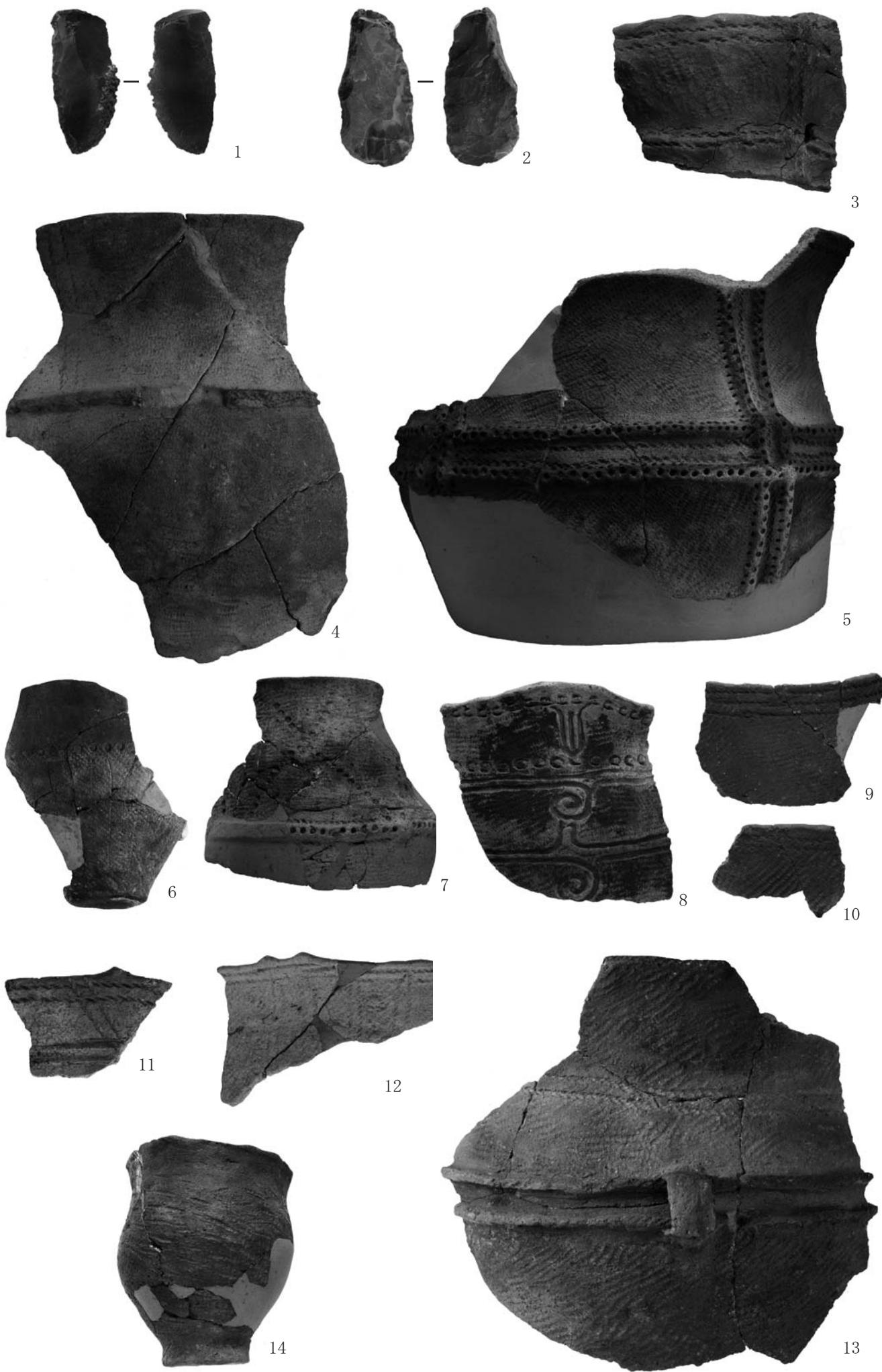
6. 土壙 3 石器集中箇所 検出状況（東から）



7. 土壙 3 石器集中箇所 検出状況（南から）



8. 土壙 3 完掘状況（東から）





1



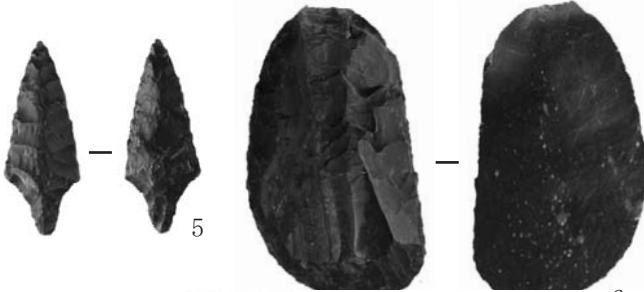
2



3



4



5



6



7



9

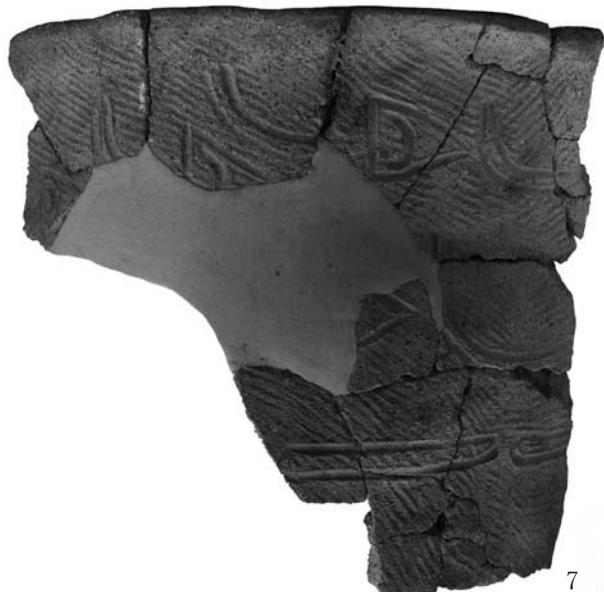
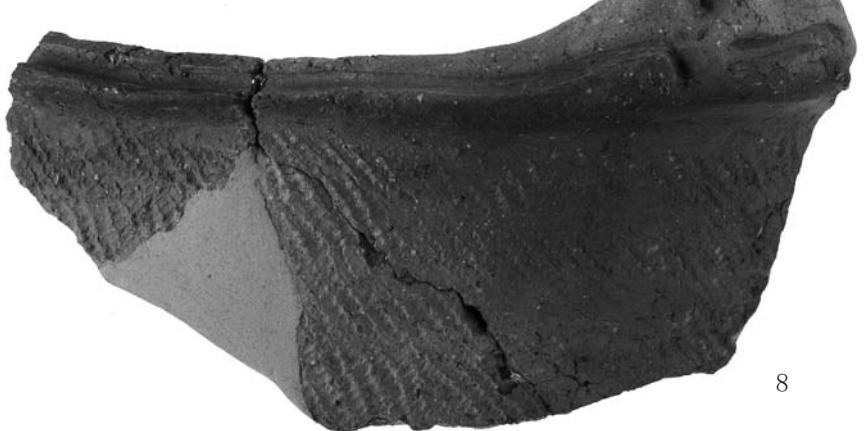
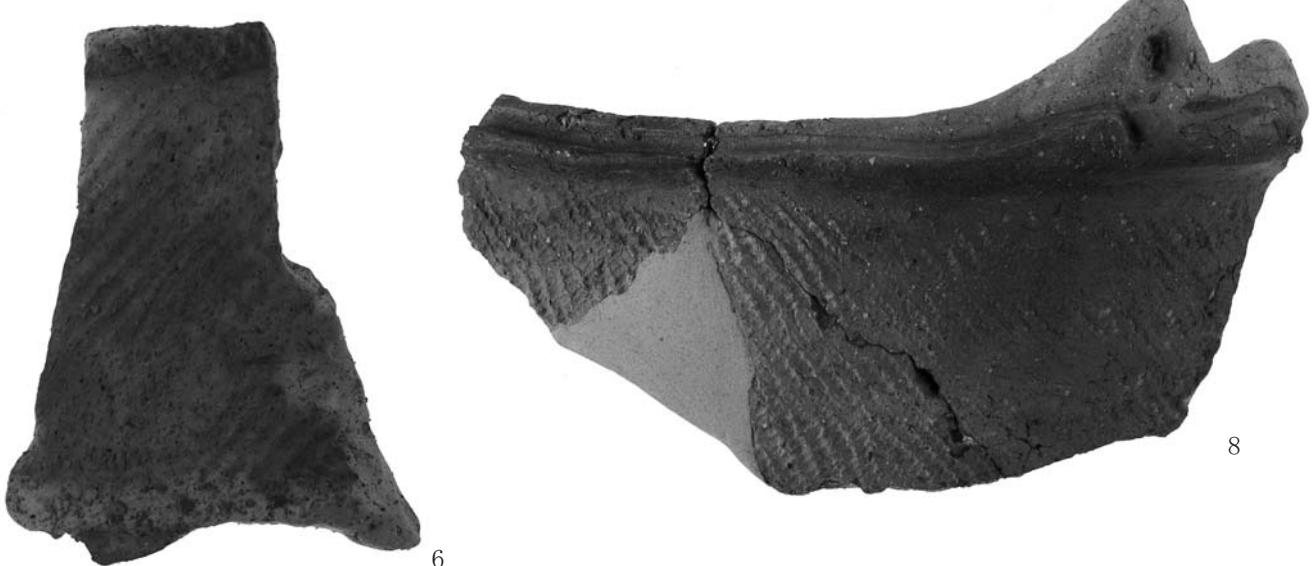
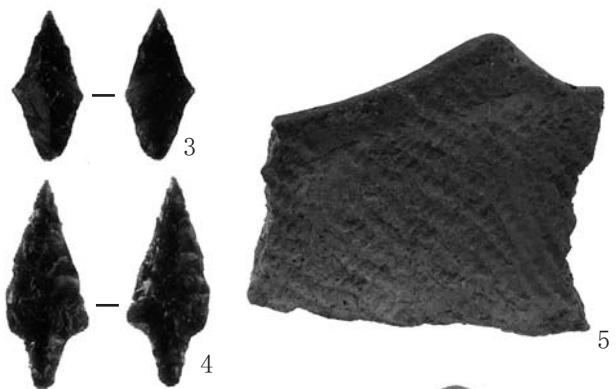
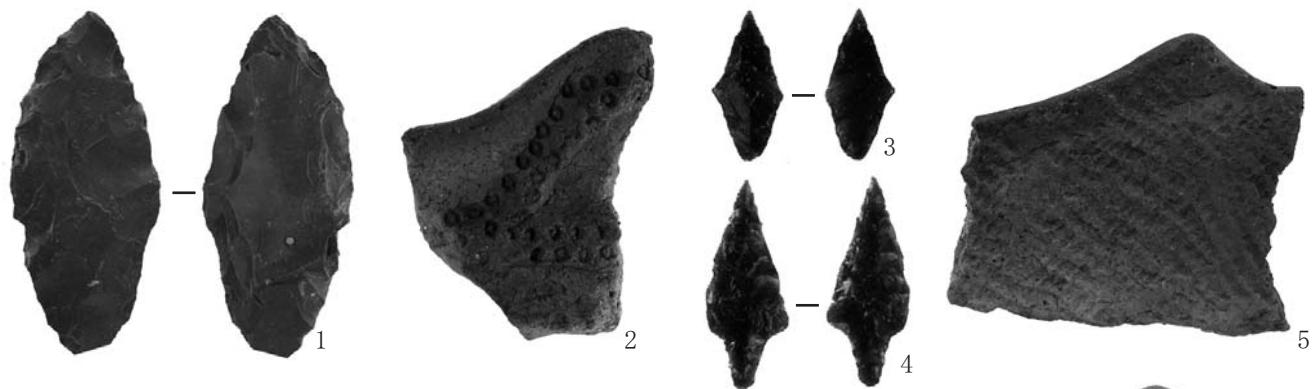


8

堅穴建物跡

3-1 (2)、4-3 (8)、

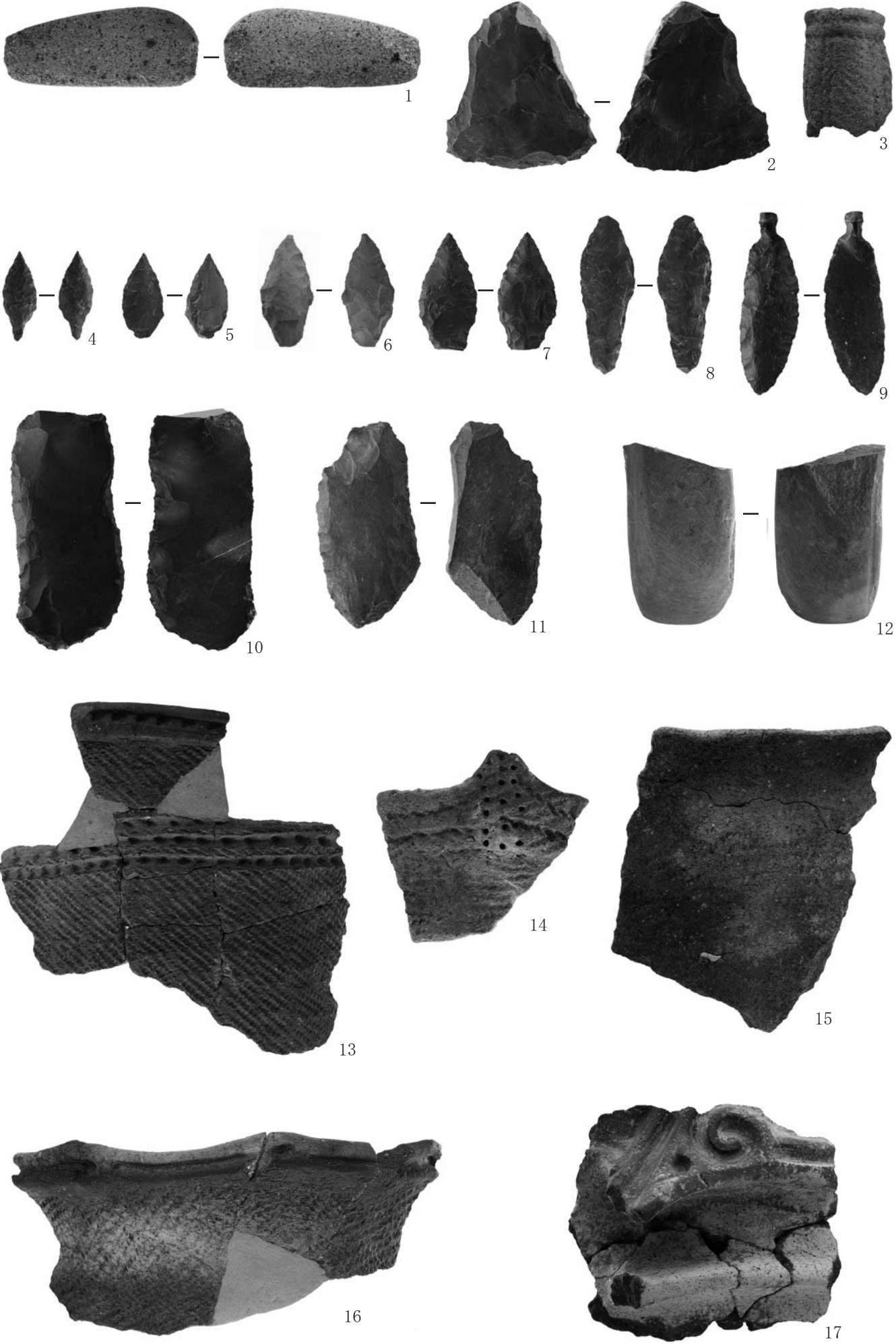
5-9 (10)

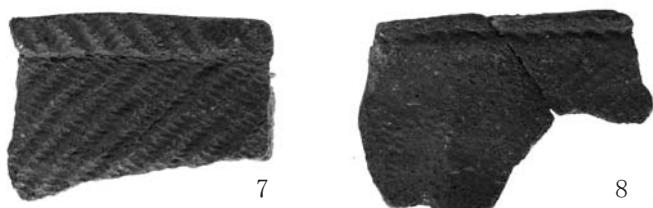
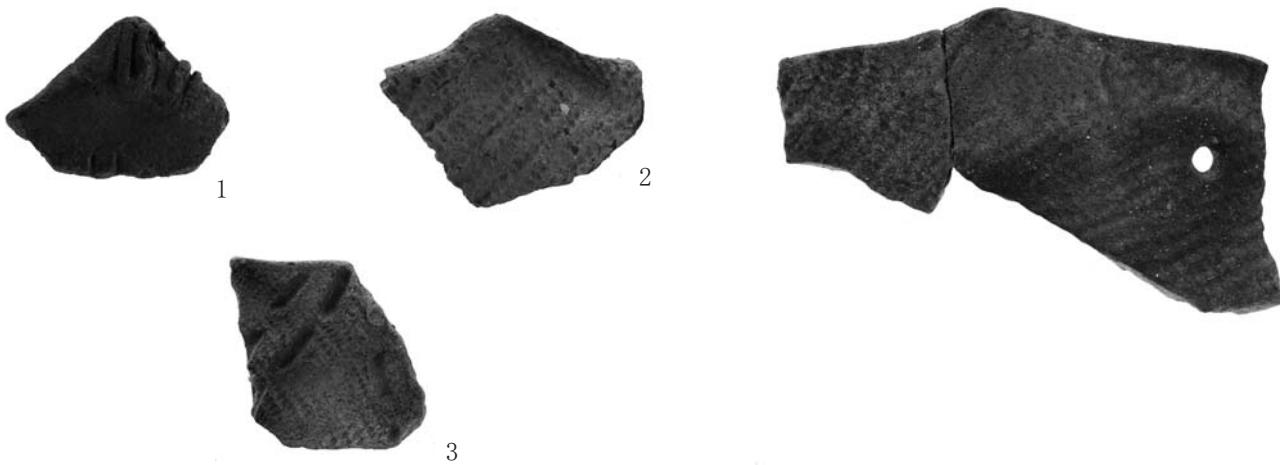


9

10

P.L.16 出土遺物（縄文土器・石器
堅穴建物跡 6-1、7-2・3、
8-4 { 17)

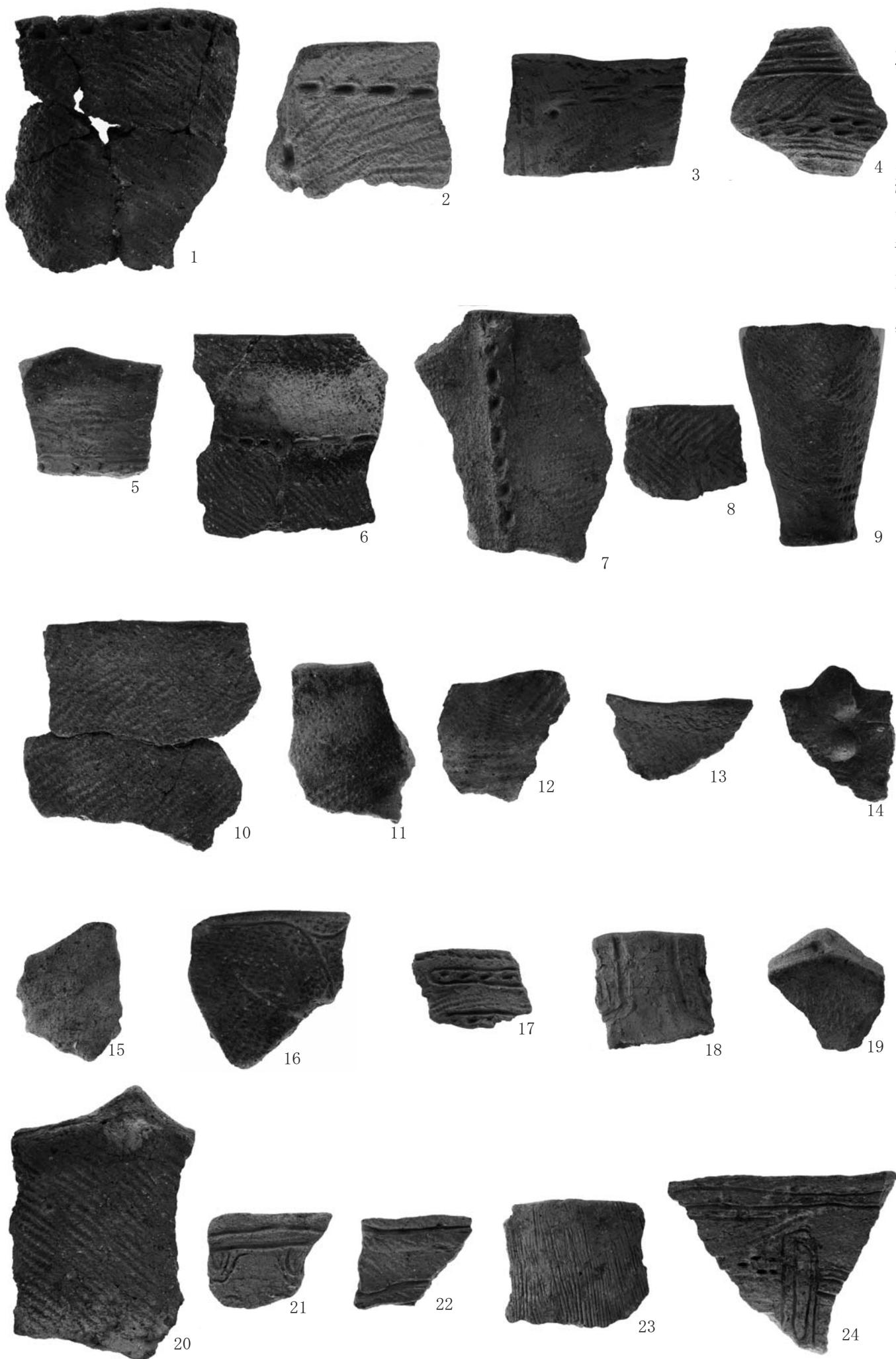


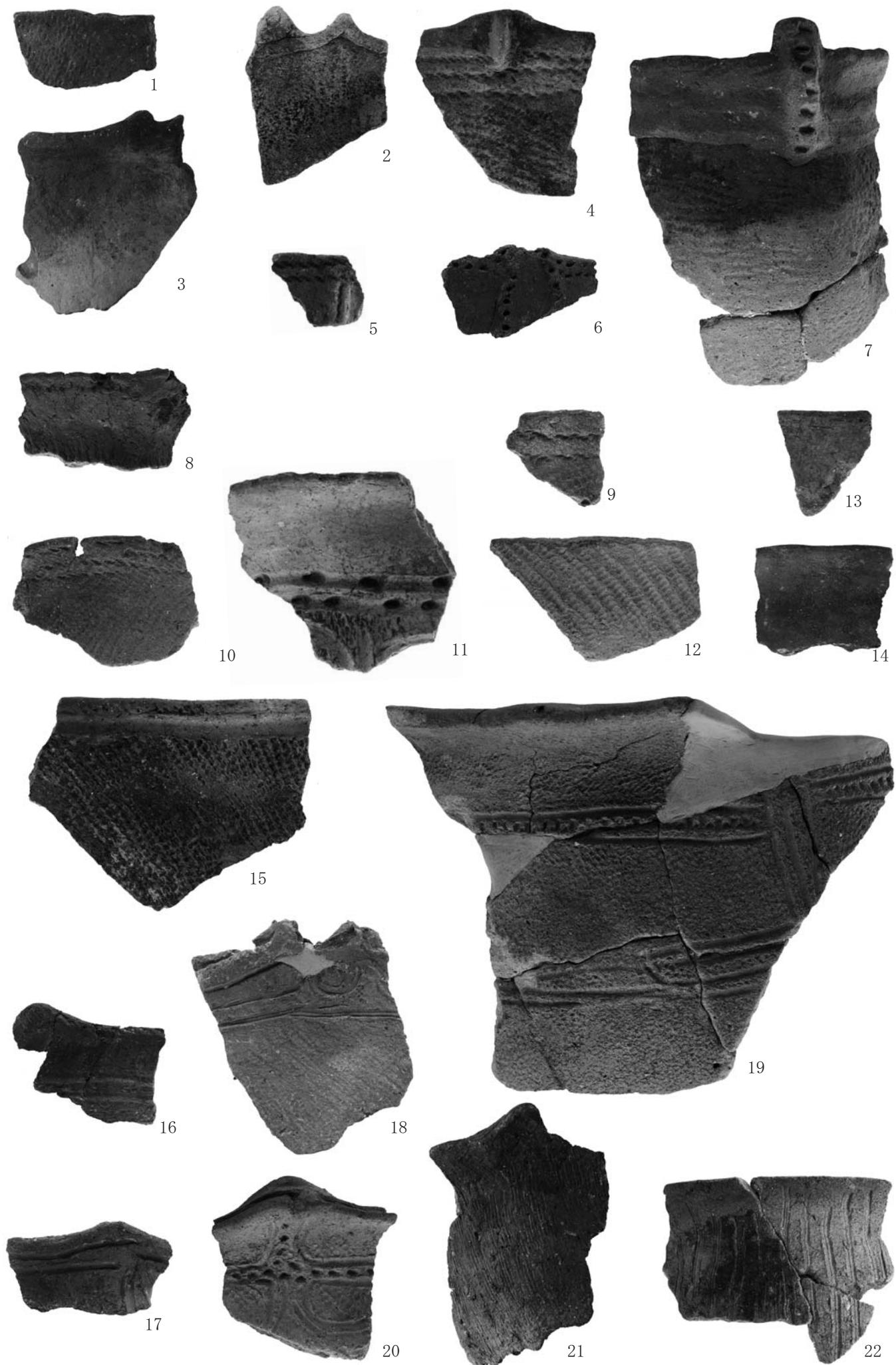












報告書抄録

ふりがな	おおたいいせき							
書名	大岱遺跡							
副書名	風力発電所に伴う送電線支持物(鉄塔)建設事業に係る発掘調査報告書							
卷次	1							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	塚田 直哉							
編集機関	上ノ国町教育委員会							
所在地	〒049-0611 北海道檜山郡上ノ国町字大留100 Tel.0139-55-2230							
発行年月日	2012年12月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
おおたいいせき 大岱遺跡	かみくにちよあざかつやま 上ノ国町字勝山141-1 番地	013625	C-02-54	41°48'50"	140°6'33"	平成24年5月7日 平成24年10月11日	144m ²	風力発電所 に伴う送電線 支持物(鉄 塔)建設事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
おおたいいせき 大岱遺跡	集落	縄文	竪穴建物跡9件、土壙3基、溝1条、柱穴	縄文土器、石器、土製品、石製品、陶磁器、鉄製品、銅製品、自然遺物				

大岱遺跡

-風力発電所に伴う送電線支持物(鉄塔)建設事業に係る発掘調査報告書-

発行:上ノ国町教育委員会

北海道檜山郡上ノ国町字大留100

印刷:平成24年12月14日

発行:平成24年12月28日

印刷所:株長門出版社印刷部
